



進取の気風にあふれる総合大学
国立大学法人

鹿児島大学概要

KAGOSHIMA UNIVERSITY 2013

CONTENTS

はじめに

- 02… 学長からのメッセージ
- 03… 大学憲章
- 04… 学生憲章
- 05… 教育目標
- 06… 大学の基本的な目標
- 07… 重点領域研究
- 09… ローカルシンフォニー
- 10… かごしまルネッサンスアカデミー
- 11… 沿革

組織

- 13… 組織図
- 14… 役職員等
- 17… 役職員数

学部・大学院等

- 18… 学部
- 23… 大学院
- 27… 医学部・歯学部附属病院
- 29… 附属図書館
- 31… 教育学部附属学校
- 32… 学内共同教育研究施設等
- 40… 教育関係共同利用拠点

学生等

- 41… 入学定員・現員数
- 43… 入学状況
- 45… 卒業・修了数／就職状況／学位授与状況
- 46… 奨学生状況／経済支援制度
- 47… 附属学校入学定員・現員数

教育・研究・社会貢献活動

- 48… 教育プログラム等
- 49… リポジトリ／学術刊行物
- 50… 産学官連携活動
- 51… 公開講座等

国際交流

- 53… 海外拠点等
- 54… 海外研修支援
- 55… 国際共同研究プロジェクト等
- 56… 学術交流協定締結状況
- 58… 研究者交流状況／国際共同研究実施件数
- 59… 外国人留学生

財務

- 61… 収入・支出決算額／予算
- 62… 外部資金受入状況

キャンパス

- 64… 土地・建物・船舶
- 65… 地域交流施設／福利厚生施設／体育施設等
- 69… 地区別建物等配置図
- 73… 位置図・交通アクセス
- 74… 所在地一覧

学 年 暦

学	期
前	期 ……4月1日～9月30日
後	期 ……10月1日～3月31日
入	学 式 ……4月5日



休	業	日
春	季	休 業 ……4月1日～4月10日
夏	季	休 業 ……8月1日～9月30日
冬	季	休 業 ……12月25日～1月8日
鹿児島大学記念日		……11月15日



卒業式・修了式 ……3月25日



〈鹿児島大学学章〉



創立50周年を記念して制定された。
KAGOSHIMAの頭文字『K』をデザインしたものである。
今、まさに飛び立とうとしている姿を『鳳』の形にデザインし、
歴史と伝統に輝く鹿児島大学のキャンパスを巣立つ卒業生が世界の舞台を翔ようとしている姿をシンボル化したものである。

「進取の気風にあふれる総合大学」を目指す



前田 芳實 学長

鹿児島大学は長い歴史と豊かな伝統を持ち、その起源は藩学造士館（1773年設立）にさかのぼります。明治以降に設立された第七高等学校造士館をはじめ各種の高等専門学校を統合し、昭和24年に、新制国立鹿児島大学として発足しました。現在、9学部と10大学院研究科からなり、約9,000名の学部学生と約2,000名の大学院生（うち留学生約300名）、並びに2,500名の教職員が在籍する総合大学です。これまでに約10万名の卒業生を輩出し、国内はもとより世界の各地で、人類の平和と繁栄ならびに福祉の向上のために大きな足跡を残してきました。

平成19年には鹿児島大学憲章を制定し、“学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学”を目指しています。特に教育においては、“高い倫理性と社会性を備え、向上心を持って自ら困難に立ち向かい、国際社会で活躍しうる人材を育成する”ことを掲げています。また、

平成22年には学生達自ら起草した鹿児島大学学生憲章が制定され、学生の行動指針として“進取の精神の継承、地球の視野の涵養、互いの友情や思いやりの醸成、積極的社会参加の実践”を宣言しています。本学は、この大学憲章ならびに学生憲章の精神が学生のキャンパス生活の中でしっかりと培われ、そのことが学生の人生設計の礎となるように支援を惜しみません。その取組の一つとして、学生が“進取の精神”を自ら培うために、学生海外研修への支援、ボランティア活動への支援、「進取の精神」を具現化しチャレンジする取組への支援、さらに、学生の向上心を育て・称えるための奨学金制度や表彰制度を備えています。

本学は、「進取の気風にあふれる総合大学」を羅針盤として、下記のミッションを掲げ、学生、教職員一丸となって進んでまいります。

- 1) 学修環境の改善を行うと共に、社会の変革と発展にリーダーシップを発揮できる人材の養成を行う。
- 2) 基礎研究を重視し、社会の発展につながる応用研究を推進し、全人类的課題解決へ挑戦し、世界的研究成果やイノベーションの創出を目指す。
- 3) 地域再生の核となる大学作りに務めます。大学の地域貢献のあり方として、地域で活躍する人材の養成、大学のシーズや資源の地域への活用、社会人教育や生涯学習の提供に取り組み、存在感のある大学作りを目指す。
- 4) 開かれた大学として社会への積極的な情報発信を行うと共に、活動全般に対する適切な改善システムを構築する。

歴 代 学 長

氏 名	任 期	備考	氏 名	任 期	備考
緒 方 健三郎	昭和24年 5月31日～昭和31年 7月31日		井 形 昭 弘	昭和62年1月12日～平成 3年1月11日	
福 田 得 志	昭和31年 8月 1日～昭和35年 7月31日		〃	平成 3年1月12日～平成 5年1月11日	
〃	昭和35年 8月 1日～昭和39年 7月31日		早 坂 祥 三	平成 5年1月12日～平成 9年1月11日	
〃	昭和39年 8月 1日～昭和43年 7月31日		田 中 弘 允	平成 9年1月12日～平成13年1月11日	
町 野 碩 夫	昭和43年 8月 1日～昭和44年10月21日		〃	平成13年1月12日～平成15年1月11日	
中 村 末 男	昭和44年10月21日～昭和46年 1月11日	※	永 田 行 博	平成15年1月12日～平成19年1月11日	
〃	昭和46年 1月12日～昭和50年 1月11日		吉 田 浩 己	平成19年1月12日～平成22年1月11日	
蟹 江 松 雄	昭和50年 1月12日～昭和54年 1月11日		〃	平成22年1月12日～平成25年3月31日	
〃	昭和54年 1月12日～昭和56年 1月11日		前 田 芳 實	平成25年4月 1日～	
石 神 兼 文	昭和56年 1月12日～昭和60年 1月11日				
〃	昭和60年 1月12日～昭和62年 1月11日				

※学長事務取扱

鹿児島大学憲章

鹿児島大学は、日本列島の南に位置し、アジアの諸地域に開かれ、海と火山と島々からなる豊かな自然環境に恵まれた地にある。この地は、我が国の変革と近代化を推進する過程で、多くの困難に果敢に挑戦する人材を育成してきた。このような地理的特性と教育的伝統を踏まえ、鹿児島大学は、学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざす。

教 育

鹿児島大学は、学生の潜在能力の発見と適性の開花に努め、幅広い教養教育と高度な専門教育を行うとともに、地域の特性を活かした進取の気風を養う。

鹿児島大学は、真理を愛し、高い倫理性と社会性を備え、向上心を持って自ら困難に立ち向かい、国際社会で活躍しうる人材を育成する。

研 究

鹿児島大学は、個々の研究を重視するとともに、種々の学問分野における優れた研究者の連携により、21世紀を先導する研究者を育成する。

鹿児島大学は、地域の要請に応える研究を展開するとともに、普遍性を求める研究活動を推進し、世界水準の研究拠点をめざす。

社会貢献

鹿児島大学は、南九州を中心とする地域の産業の振興、医療と福祉の充実、環境の保全、教育・文化の向上など、地域社会の発展と活性化に貢献する。

鹿児島大学は、アジアや太平洋諸国との連携を深め、研究者や学生の双方向交流および国際共同研究・教育を推進し、人類の福祉、世界平和の維持、地球環境の保全に貢献する。

大学運営

鹿児島大学は、学長のリーダーシップのもと、全構成員が運営に責任をもって参画することにより、教育研究環境の充実を図る。

鹿児島大学は、大学の自治を礎とし、常に自己点検・評価を行うとともに、外部からの意見を積極的に反映させ、透明性の高い公正な大学運営を行うことにより、社会への責任を果たす。

平成19年11月15日制定
(第58回鹿児島大学開学記念日)



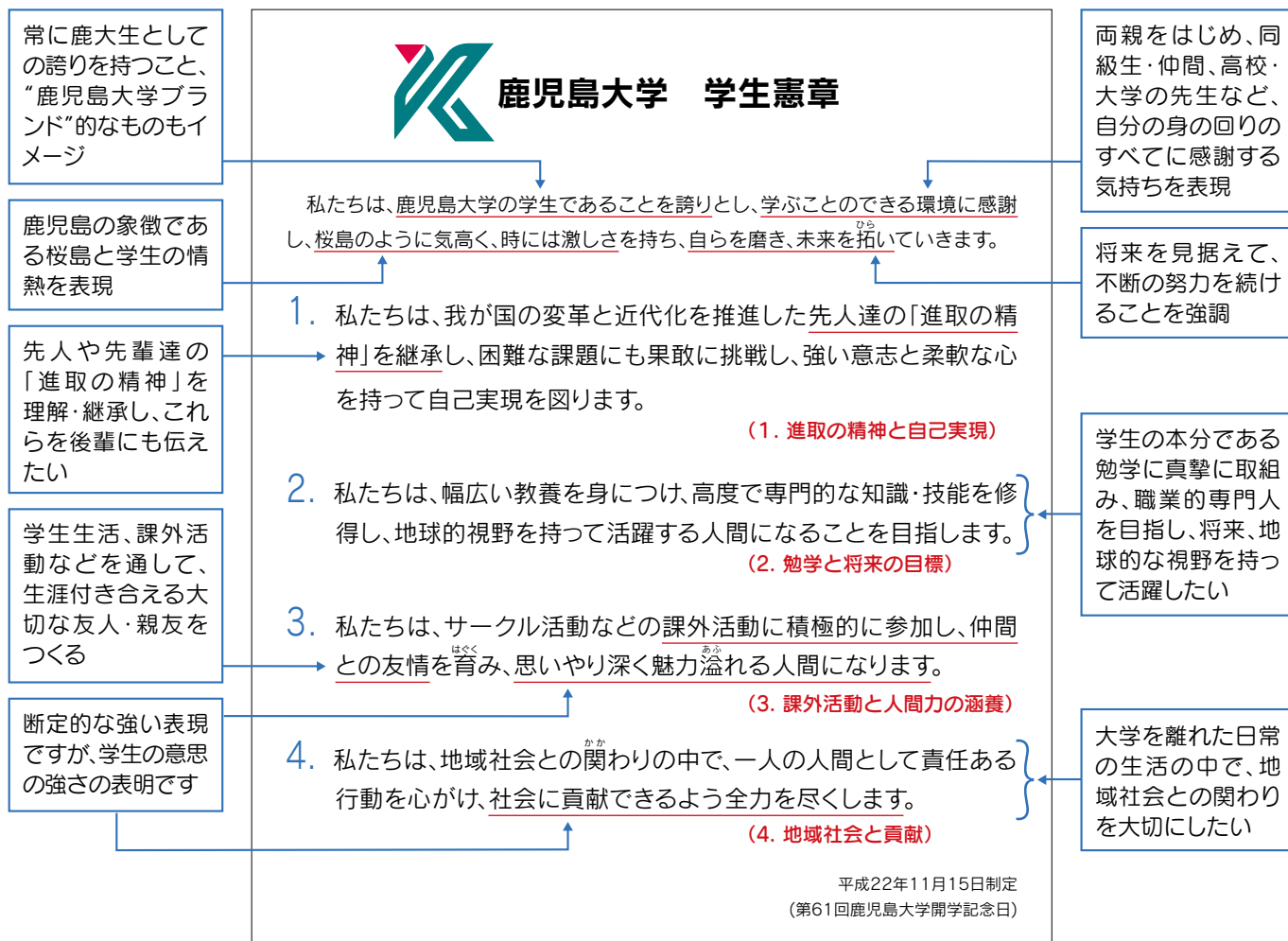
鹿児島大学 学生憲章

私たちは、鹿児島大学の学生であることを誇りとし、学ぶことのできる環境に感謝し、桜島のように気高く、時には激しさを持ち、自らを磨き、未来を拓いていきます。

1. 私たちは、我が国の変革と近代化を推進した先人達の「進取の精神」を継承し、困難な課題にも果敢に挑戦し、強い意志と柔軟な心を持って自己実現を図ります。
2. 私たちは、幅広い教養を身につけ、高度で専門的な知識・技能を修得し、地球的視野を持って活躍する人間になることを目指します。
3. 私たちは、サークル活動などの課外活動に積極的に参加し、仲間との友情を育み、思いやり深く魅力溢れる人間になります。
4. 私たちは、地域社会との関わりの中で、一人の人間として責任ある行動を心がけ、社会に貢献できるよう全力を尽くします。

平成22年11月15日制定
(第61回鹿児島大学開学記念日)

〈学生憲章の解説の一例〉



鹿児島大学教育目標

前文

鹿児島大学は、進取の気風にあふれる総合大学として、学生の潜在能力の発見と適性の開花に努め、自主自律と進取の精神を有する人材の育成を目指す。そのために次の教育目標を掲げる。

1. 幅広い教養と高度な専門的知識・技能を身につけ、諸課題を発見・探究・解決する能力を育む。
2. 豊かな人間性と倫理観を身につけ、向上心をもって自ら困難に立ちむかう態度を養う。
3. 地域における活動に積極的に関わり、社会の発展に貢献できる行動力を養う。
4. グローバルな視野をもち、国際社会の発展に貢献できる実践的な能力を育む。

平成23年12月15日制定



国立大学法人鹿児島大学の基本的な目標 第2期中期目標(平成22～27年度)

鹿児島大学は、「鹿児島大学憲章」に基づき、我が国の変革と近代化の過程で活躍した先人の意志を受け継ぎ、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を有する人材を育成し、地域とともに社会の発展に貢献する知の拠点として、『進取の気風にあふれる総合大学』をめざす。その実現のため、以下の基本目標を掲げる。

「進取の精神」を有する学士の育成

鹿児島大学は、幅広い教養の厚みに裏打ちされた倫理観と生涯学習力を備え、「進取の精神」を有する人材を育成するため、学士課程の基盤となる共通教育の改善を図るとともに、専門教育の質を保証するシステムを確立する。

大学の特色を活かした研究活動

鹿児島大学は、独創的・先端的な研究を積極的に推進するとともに、総合大学の特色を活かし、島嶼、環境、食と健康等の全人类的課題の解決に果敢に挑戦する。

地域社会の活性化に貢献

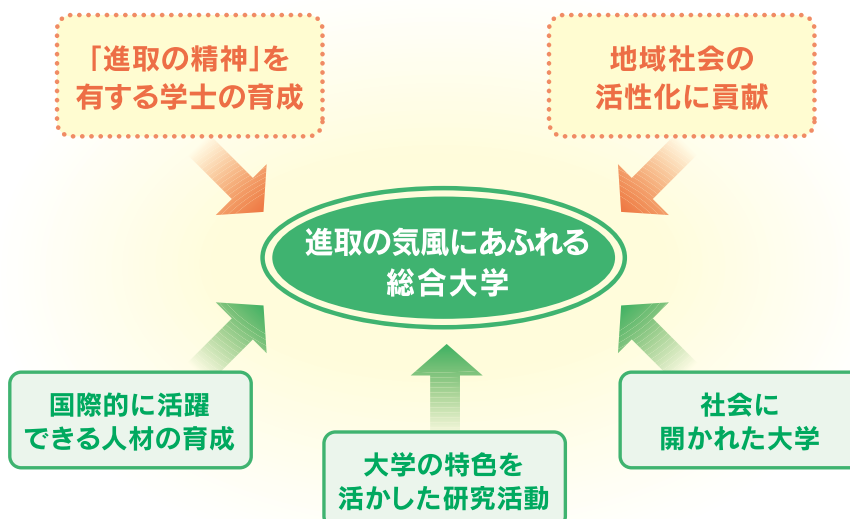
鹿児島大学は、知的・文化的な生涯学習の拠点として、地域との連携を重視するとともに、各学部等の特色を活かした社会貢献を推進し、地域社会の活性化に貢献する。

国際的に活躍できる人材の育成

鹿児島大学は、アジア・太平洋諸地域との学術交流・教育交流を通じて、国際交流拠点としての機能を高め、国際的課題の解決に貢献し、グローバル化時代に活躍できる人材を育成する。

社会に開かれた大学

鹿児島大学は、地域に開かれたキャンパス環境を整備するとともに、社会への積極的な情報提供に努め、透明性の高い公正な大学運営とその改革を図ることにより、社会への責任を果たす。



◆重点領域研究

概要

鹿児島大学は、平成19年に「鹿児島大学憲章」を制定し、「研究者の連携」や「地域の要請に応える研究」を研究活動の方針として掲げている。なかでも、南北600kmに及ぶ南西諸島をかかえる鹿児島県にあって、活火山の桜島や霧島、世界自然遺産の屋久島、生物多様性の豊富な奄美大島のような優れた自然環境に恵まれた地を、地元を擁する総合大学として、独創的かつ先端的な研究を積極的に推進している。

この総合大学の特色を活かした、島嶼、環境、食と健康等の全人类的課題の解決に果敢に挑戦していくために、平成22年度より、「島嶼」、「環境」、「食と健康」の各研究プロジェクトを立ち上げ、部局の枠を超えた全学横断的な研究活動を推進している。また、平成25年度からは、「エネルギー」と「水」に視点をあてた新たな研究プロジェクトをスタートし、さらなる研究活動の充実を図ることとしている。

このような研究活動は、大学の地域貢献として重要であるのみならず、研究者の知的な好奇心をかきたてるものであり、さらに掘り下げて研究をすることにより、鹿児島大学の特徴を生かした独自の研究に発展することを目指している。



▲研究コアプロジェクト(島嶼、環境、食と健康) 報告会
(平成25年3月7日)の様子

①島嶼

国内外島嶼地域における自立的発展に寄与する研究の推進:

鹿児島大学はその創立以来、鹿児島県下の島嶼域はもちろんのこと東南アジアや南太平洋の島々をフィールドとした研究が各学部で独自に行われてきた。

このような歴史的伝統を踏まえ、南九州からアジア・太平洋諸地域などの産業振興、医療と福祉の充実、環境の保全、教育・文化の向上など、地域や国際社会の発展に貢献するとともに、世界水準の教育・研究拠点となることを目指し、次の3プロジェクトが行われている。

【環境変動に適応する「国際島嶼教育研究拠点」形成プロジェクト】

自然や社会の環境変化の影響を受けやすい島嶼域の教育研究機関や行政と連携し、国際的な島嶼教育研究拠点を形成する。

【島に生きる「島嶼社会」生活力向上プロジェクト】

人々の生活に関わる社会、歴史、文化、医療、情報等の研究テーマを調査分析し、その相互関係も含めた総合的な生活力向上の改善策を構築する。

【島嶼地域発展のための適応策構築プロジェクト】

県内島嶼域の農林畜産水産資源の探索、機能性成分の分析などを通じて地域産業の発展や振興策を構築し、そのための人材養成を行う。



▲鹿児島から連なる島々は島嶼社会や文化の多様性に満ちており調査・研究の適地であり、社会貢献的研究も求められている。
(写真は悪石島のボゼ[十島村役場提供])



▲海外島嶼での調査も継続的に行われており、その成果を地元還元するなどして国際貢献に努めている。
(写真はミクロネシア連邦コスラエ島における地元カウンターパートとの調査光景)

②環境

本プロジェクトは、次のプロジェクトで構成されている。

鹿児島環境学プロジェクトは、環境問題を地域から問い直し、屋久島や奄美という地域の諸課題を分析して現場において具体的な解決の道を探ろうとする日本で初めての試みである。平成24年度は、世界自然遺産候補地である奄美群島について、世界遺産を活用した自然環境の保全と地域づくりを考えることを目的とした「鹿児島環境学国際シンポジウムー奄美、世界遺産への道ー」を開催する他、生物多様性に関する情報の収集と発信を行った。

生物多様性プロジェクトでは、生物系教員ネットワーク(shikagaku)第3回セミナーを11月3日に奄美市大島高校で実施した(41名参加)。生物多様性調査のためのプロトコル第2集を発行した。徳之島三京での森林長期観測を続行するとともに、奄美大島の稀少草本類数十種のDNA鑑定精度検証を行った。奄美群島の魚類・昆虫類の文献データベース入力を行った。

地球温暖化プロジェクトでは、平成23年12月に民間企業と提携し、鹿児島市下田町にて小水力発電の実証実験を始めた。また、平成24年12月には本学との包括連携協定を結んだ出水市と共同研究をおこない「溜池公園」に環境学習施設を設置した。本プロジェクトは再生可能エネルギーとして小水力発電を広く普及させるべく、新しいライフスタイルを確立、提案し、普段注目されない中山間地の活性化をおこなっている。



▲鹿児島環境学III(表紙)



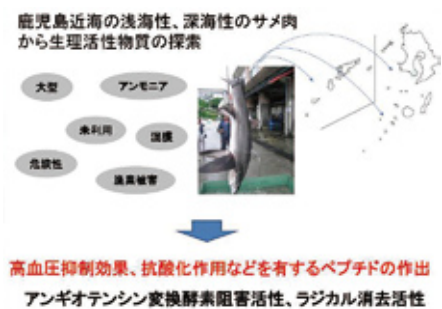
▲出水市溜池公園の水力発電によるイルミネーション

③食と健康

南九州、鹿児島を中心とした地域は、温帯から亜熱帯の気候と島嶼圏を擁する豊かな自然に恵まれ、農畜水産業を主産業とし、日本における食料供給の重要拠点である。同時に、アジアにおける食料生産や食文化において、歴史的に重要な関係が構築されてきている地理的特徴を有した地域である。日本では少子高齢化社会が急速に進行中で食料の需要量の減少が見込まれるが、世界では、アジア圏などで急激に人口が増加することが明らかであり、食料供給は今後の大きな課題である。農畜水産業のグローバルな位置付けは、今後益々重要となる。さらに、食による健康的な生活を実現することは、現代社会において重要な課題である。

「食と健康」プロジェクトでは、南九州に特徴のある農水産食品の健康機能性について科学的に研究を推進し、生活習慣病予防や老年症候群等との関連を明確にし、同時に、農畜水産業の現在の課題とこれら事業を取り巻く社会環境の変化に対応する資源循環型持続的農漁村の再構築や安全な食生活を可能とする食育教育・生産流通システムプランを計画する。これら地域と連携して行う学術研究の成果を応用し、アジア圏や地域の食を通じた健康的な生活基盤の構築や農畜水産業に関わる地域食産業の振興に貢献すると同時に、国際的な研究拠点となることを目標とする。農学・水産学・理工学・教育・医歯学など各研究科を連携した全学的研究・教育プロジェクトである。平成24年度にはシンポジウム「鹿児島島の食生活・食文化と機能性食品」を共催した。

図は、生理活性物質探索、評価系モデル動物の研究例を示した。



ヒト様環境・覚醒を示す大型哺乳動物モデルの開発：
食品素材機能評価への応用



◆ローカルシンフォニー

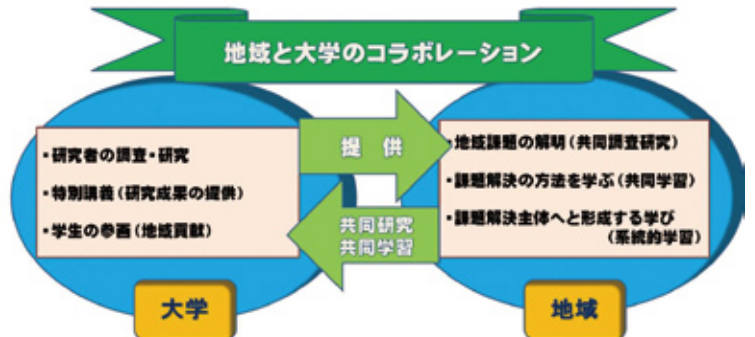
「地域と大学のローカルシンフォニー」～地域社会の発展と活性化のための大学地域貢献～

このプロジェクトは、様々な地域課題(ここでは、広く生活・文化・健康等の願いを含めている)を解決するために、①大学と市民とが協働の取り組みや調査研究を行い、②大学は蓄積した研究を背景に特別講座を提供し、③学生はそれぞれに参画して実体験して学ぶことを進める。また、④地域の行政や人々は、これを受け止めるネットワークを形成して、研究者や学生と共に学び行動していただくことをお願いしている。

これは、地域と大学とが、共同学習・共同研究で響きあうプロジェクトである。

また、研究、教育、社会貢献が三位一体となって推進されるプロジェクトである。

平成20年度に開始されたこの企画は、与論町と指宿市を中心に実施してきたが、熱心なご要望を受け止めて平成22年度からは、鹿屋市と大崎町でも実施するなど自治体の受け入れ体制も整ってきている。このプロジェクトは、自治体と地域のみなさんのご協力を得て、大学地域貢献のモデルづくりを志向する企画でもある。



▲児童を指導する教育学部美術専修の学生(指宿)



▲街並みワークショップ(指宿)



▲次世代の持続可能な社会のための国際協力と連携による人材育成国際フォーラム(大崎)



▲ヒマワリ搾油実演(与論)

◆かごしまルネッサンスアカデミー

地域を創り地域を興す人材育成

鹿児島大学では、平成18年度から22年度の間、文部科学省科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」による補助事業として、「食の安全管理コース」、「経営管理コース」、「健康・環境・文化コース」の3コースによる人材育成プログラム「かごしまルネッサンスアカデミー」を実施し、総計250名の修了者を地域に送り出してきた。



平成24年度からは、この成果を受け、本アカデミーの後継事業として、部局等が企画・実施する「履修証明制度」に基づく社会人向け人材養成プログラム(焼酎マイスター養成コース、林業生産専門技術者養成プログラム、稲盛経営哲学プログラム)を、新しい「かごしまルネッサンスアカデミー」として継続して実施し、プログラムの内容と質を保証している。



▲開講式(焼酎マイスター養成コース)



▲受講生(H24;第1期生)発案による
焼酎マイスターバッジ



▲講義(林業生産専門技術者養成プログラム)



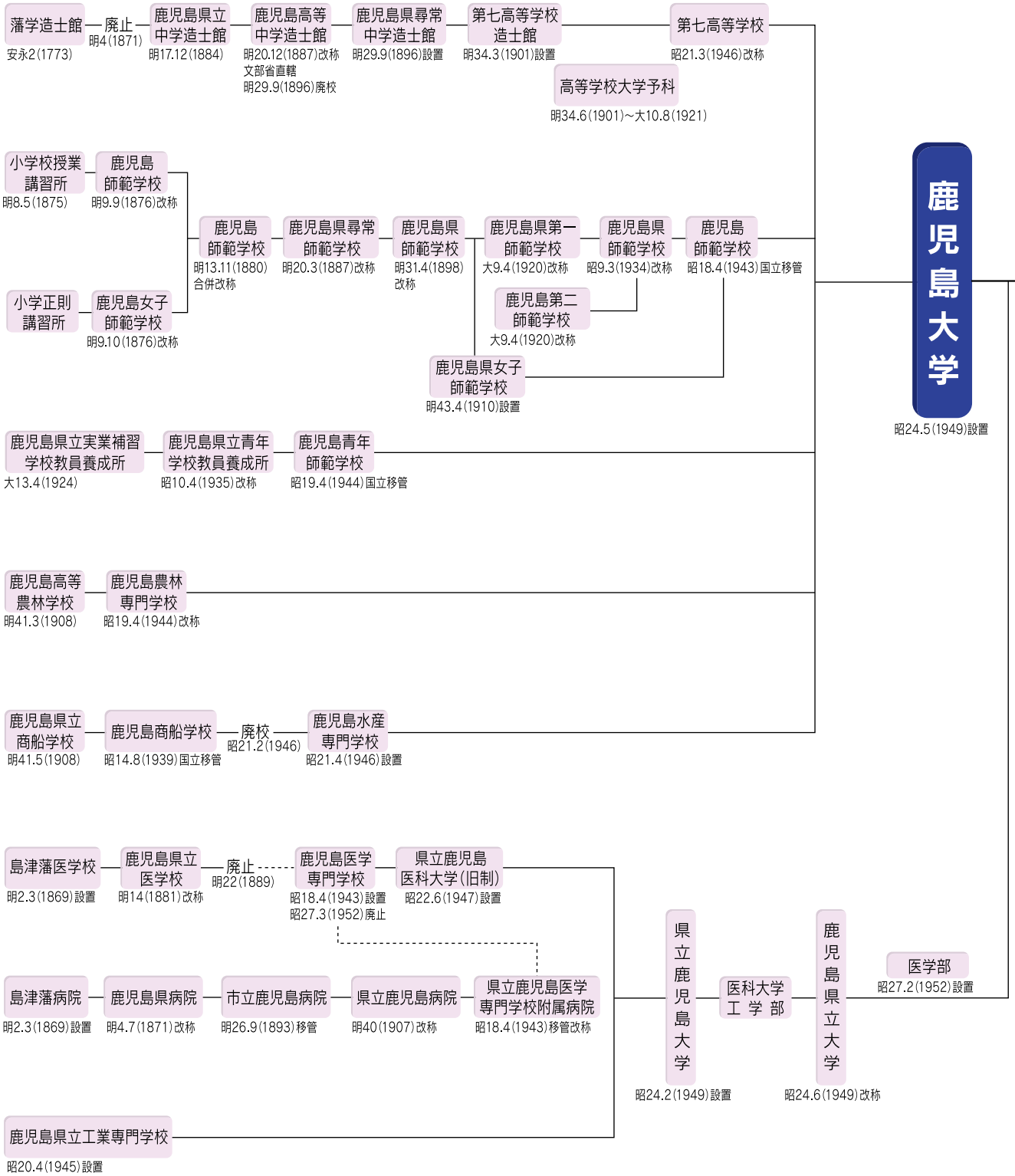
▲実習(林業生産専門技術者養成プログラム)



▲開講式(稲盛経営哲学プログラム)



▲講義(稲盛経営哲学プログラム)



鹿児島大学

昭24.5(1949)設置



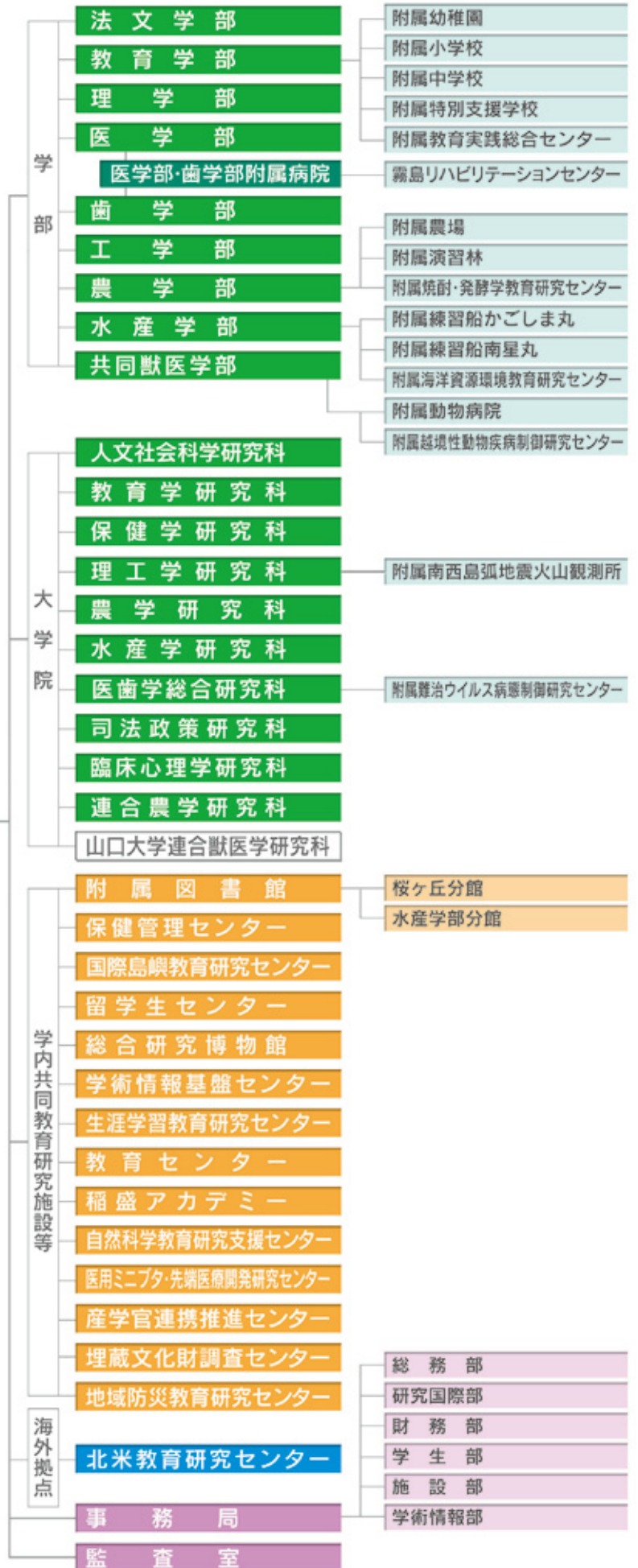
藩学造士館「三国名勝図会」(附属図書館「玉里文庫」所蔵)



第七高等学校造士館前景

学 部	文学部 昭47.3(1972)廃止	第七高等学校 昭25.3(1950)廃止	法文学部 昭40.4(1965)文学部を改組	附属幼稚園 昭26.4(1951)設置
	鹿児島師範学校 昭26.3(1951)廃止	鹿児島青年師範学校 昭26.3(1951)廃止	教育学部 昭24.5(1949)設置	附属小学校 昭24.9(1949)設置
			理学部 昭40.4(1965)文学部を改組	附属中学校 昭26.5(1951)設置
			医学部 昭30.7(1955)国立移管	附属特別支援学校 昭55.4(1980)設置、平19.4(2007)改称
	鹿児島立大学医学部 昭33.4(1958)廃止	鹿児島医科大学(旧制) 昭36.3(1961)廃止		附属教育実践総合センター 平14.4(2002)設置
	附属熱帯医学研究施設 昭35.4(1960)設置、昭57.3(1982)廃止	附属病院霧島分院 昭33.5(1958)設置、昭63.3(1988)廃止		附属教育実践研究指導センター 平元.5(1989)設置、平14.3(2002)廃止
	附属看護学校 昭33.5(1958)設置、昭63.3(1988)廃止	附属助産婦学校 昭33.5(1958)設置、平元.3(1989)廃止		
	附属保健婦学校 昭36.4(1961)設置、平元.3(1989)廃止	附属産婦学校 昭36.4(1961)設置、平元.3(1989)廃止		
	附属産婦学校 昭36.4(1961)設置、平元.3(1989)廃止	附属産婦学校 昭36.4(1961)設置、平元.3(1989)廃止		
	附属産婦学校 昭36.4(1961)設置、平元.3(1989)廃止	附属産婦学校 昭36.4(1961)設置、平元.3(1989)廃止		
		歯学部 昭52.10(1977)設置	医学部・歯学部附属病院 平15.10(2003)設置	
		工学部 昭30.7(1955)国立移管	医学部附属病院 昭33.5(1958)設置、平15.9(2003)廃止	
		農学部 昭24.5(1949)設置	歯学部附属病院 昭55.4(1980)設置、平15.9(2003)廃止	
		水産学部 昭24.5(1949)設置	霧島リハビリテーションセンター 医学部附属病院分院 昭33.5(1958)設置、平15.10(2003)改称	
		共同獣医学部 平24.4(2012)設置		
教 養 部	一般教養部 昭24.6(1949)学内措置、昭40.3(1965)廃止	教養部 昭40.4(1965)設置、平9.3(1997)廃止	附属農場	
			附属演習林	
大 学 院	法学研究科 昭54.4(1979)設置、平10.3(1998)廃止	人文科学研究科(博・前) 平10.4(1998)設置	附属焼酎・発酵学教育研究センター 平23.4(2011)設置	
	人文科学研究科 昭61.4(1986)設置、平10.3(1998)廃止	人文科学研究科(博・後) 平15.4(2003)設置	附属練習船かごしま丸 平24.3(2012)建造 [平22.3(2010)教育共同利用拠点認定]	
	鹿児島医科大学研究科(旧制) 昭29.5(1954)設置、昭36.3(1961)廃止	教育学研究科(修) 平6.4(1994)設置	附属練習船南星丸 平14.11(2002)建造	
	理学研究科 昭52.4(1977)設置、平10.3(1998)廃止	保健学研究科(博・前) 平15.4(2003)設置	附属海洋資源環境教育研究センター 平12.4(2000)設置	
		保健学研究科(博・後) 平17.4(2005)設置	附属水産実験所 昭47.5(1972)設置、平12.4(2000)廃止	
		理工学研究科(博・前) 昭43.4(1968)工学研究科修士設置	附属動物病院 鹿児島高等農林学校附属家畜病院 昭16.8(1941)設置 鹿児島農林専門学校附属家畜病院 昭19.4(1944)改称 農学部附属家畜病院 昭24.5(1949)移管	
		理工学研究科(博・後) 平6.4(1994)(修)を改組、平10.4(1998)改称	附属越境性動物疾病制御研究センター 農学部附属越境性動物疾病制御研究センター 平23.4(2011)設置、平24.4(2012)共同獣医学部へ移管	
		農学研究科(修) 昭41.4(1966)設置		
		水産学研究科(修) 昭44.4(1969)設置		
		医歯学総合研究科(博) 平15.4(2003)設置		
専 攻 科	医学研究科 昭34.4(1959)設置、平15.3(2003)廃止	司法政策研究科(専) 平16.4(2004)設置	附属南西島弧地震火山観測所 平3.4(1991)設置	
	歯学研究科 昭59.4(1984)設置、平15.3(2003)廃止	臨床心理学研究科(専) 平19.4(2007)設置	附属難治ウイルス病態制御研究センター 平16.4(2004)設置	
	教育専攻科 昭34.4(1959)設置、平6.3(1994)廃止	連合農学研究科(博) 昭63.4(1988)設置	医学部附属難治性ウイルス疾患研究センター 平5.4(1993)設置、平15.3(2003)廃止	
	理学専攻科 昭44.4(1969)設置、昭52.3(1977)廃止	山口大学大学院連合獣医学研究科(博) 平2.4(1990)構成大学として参加	医学部附属難治性ウイルス病態制御研究センター 平15.4(2003)設置、平16.3(2004)廃止	
	工学専攻科 昭34.4(1959)設置、昭43.3(1968)廃止			
	農学専攻科 昭29.4(1954)設置、昭41.3(1966)廃止			
	水産専攻科 昭34.4(1959)設置、昭44.3(1969)廃止			
	遠洋漁業学特設専攻科 昭28.4(1953)設置			
	水産専攻科 昭49.4(1974)			
	(遠洋漁業学特設専攻科を改称) 平15.3(2003)廃止			
附 属 函 書 館	文理学部分館 昭40.3(1965)廃止	桜ヶ丘分館 昭33.5(1958)設置、昭54.4(1979)改称、平4.4(1992)改称		
	農学部分館 昭40.3(1965)廃止	水産学部分館 昭24.7(1949)設置		
	教育学部分館 昭40.3(1965)廃止			
	工学部分館 昭40.3(1965)廃止			
	保健管理センター 昭47.5(1972)設置			
	国際島嶼教育研究センター 平22.4(2010)設置			
	留学生センター 平12.4(2000)設置			
	総合研究博物館 平13.4(2001)設置			
	学術情報基盤センター 平15.4(2003)設置			
	生涯学習教育研究センター 平15.4(2003)設置			
教育センター 平15.10(2003)設置				
稲盛アカデミー 平17.4(2005)設置、平20.4(2008)改組				
自然科学教育研究支援センター 平24.4(2012)設置				
医用ミニブ・先端医療開発研究センター 平24.4(2012)設置				
産学官連携推進センター 平24.4(2012)設置				
埋蔵文化財調査センター 平24.4(2012)設置				
地域防災教育研究センター 平23.6(2011)設置				
北米教育研究センター 平20.9(2008)設置				
医療技術短期大学部 昭60.10(1985)設置、平11.4(1999)医学部保健学科に改組、平14.3(2002)廃止				

組織



(平成25年6月1日現在)

役員

学長	前田芳實
理事 総務担当	島秀典
理事 企画担当	高松英夫
理事 教育担当	清原貞夫
理事 研究担当	住吉文夫
理事 財務担当(兼事務局長)	渡辺政美
理事 経営担当	大野芳雄
監事 業務監査	坂東義雄
監事 会計監査	押越武彦

学長特別顧問

前鹿児島大学学長	吉田浩己
----------	------

副学長

附属図書館担当	野呂忠秀
共通教育担当	飯干明
附属病院担当	熊本一朗

経営協議会委員

学長	前田芳實
独立行政法人国立高等専門学校機構 鹿児島工業高等専門学校長	赤坂裕
城山観光株式会社代表取締役社長	伊牟田均
鹿児島県高等学校長協会会長 鹿児島県立鶴丸高等学校校長	大平和男
株式会社丸屋本社代表取締役社長	玉川恵
株式会社新日本科学代表取締役社長	永田良一
独立行政法人国立病院機構 鹿児島医療センター名誉院長	中村一彦
鹿児島市副市長	松木園富雄
理事	島秀典
理事	高松英夫
理事	清原貞夫
理事	住吉文夫
理事(兼事務局長)	渡辺政美
医学部・歯学部附属病院長	熊本一朗

教育研究評議会評議員

学長	前田芳實
理事	島秀典
理事	高松英夫
理事	清原貞夫
理事	住吉文夫
理事(兼事務局長)	渡辺政美
法文学部	平井一臣 高津孝
教育学部	武隈晃理 土田
理学部	與倉昭治 藏淳一
医学部	佐野輝彰 木佐貫

歯学部	島田和幸 中村典史
工学部	福井泰好 渡邊睦
農学部	富永茂人 翔井和朗
水産学部	松岡達郎 越塩俊介
共同獣医学部	高瀬公三 宮本篤
医学部・歯学部附属病院長	熊本一朗
理工学研究科長	近藤英二
医歯学総合研究科長	鳥居光男
司法政策研究科長	米田健一
臨床心理学研究科長	松木繁
連合農学研究科長	杉元康志
附属図書館長	野呂忠秀
学内共同教育研究施設代表者	大嶋眞紀
教育センター長	飯干明

学長諮問会議委員

学長	前田芳實
公益社団法人鹿児島県医師会 会長	池田琢哉
京セラ株式会社名誉会長 日本航空株式会社名誉会長	稲盛和夫
鹿児島大学同窓会連合会 会長	江口正純
株式会社南日本新聞社 代表取締役社長	逆瀬川尚文
鹿児島商工会議所 会頭	諏訪秀治
株式会社南日本放送 代表取締役社長	中村耕治
日本芸術院会員/鹿児島大学名誉教授	中村晋也
株式会社鹿児島銀行 取締役会長	永田文治
鹿児島市長	森博幸

学長補佐

総務担当	采女博文
人事担当	橋本文雄
男女共同参画担当	鈴木廣志
危機管理・コンプライアンス担当	小栗實
法務担当	前田稔
企画・評価・IR担当	洪井進
広報担当	宮下正昭
情報担当	森邦彦
教育担当	有倉巳幸
就職・学生支援担当	前田雅人
ボランティア支援・ピアサポート担当	西隆一郎
入試担当	松元光香
研究担当	亀山正樹
産学官連携担当	福島誠治
社会貢献担当	木村郁夫
国際担当	竹内勝徳
留学生担当	畝田谷桂子
財務担当	田代正一
キャンパス計画担当	本間俊雄

事務局

事務局長	渡 辺 政 美
総務部長	森 山 都留男
総務課長	那加野 知 明
企画評価課長	川 西 正 美
人事課長	新 田 義 純
情報企画課長	中 園 康 弘
労務調査室長	通 山 裕 樹
研究国際部長	油 原 ゆう子
研究協力課長	稲 葉 成 人
社会連携課長	西 信 博
国際事業課長	荒 武 祐 宏
財務部長	迫 田 浩一郎
財務課長	池 尻 英 一
経理課長	平 原 安 昭
学生部長	諏訪原 敏 郎
教務課長	湊 哲 郎
学生生活課長	松野下 繁 文
入試課長	増 間 芳 雄
施設部長	須 崎 茂 弘
企画課長	藤 崎 司
建築課長	田 鍋 和 仁
設備課長	淵 上 清 久
学術情報部長	飯 田 昇 平
情報管理課長	松 田 孝 三
情報サービス課長	能 勢 明 雄

監査室

監査室長	新 留 英 史
------	---------

学 部 等

法文学部

学部長	平 井 一 臣
副学部長	高 津 孝
副学部長	金 丸 哲
事務長	中 村 智 子

教育学部

学部長	武 隈 晃
副学部長	土 田 理
副学部長	大 坪 治 彦
事務長	二 石 章
附属教育実践総合センター長	今 林 俊 一
附属幼稚園長	小 江 和 樹
附属小学校長	小 江 和 樹
附属中学校長	樋 口 晶 彦
附属特別支援学校長	新名主 健 一

理学部

学部長	與 倉 昭 治
副学部長	藏 脇 淳 一
副学部長	仲 谷 英 夫
副学部長	藤 井 伸 平

医学部

学部長	佐 野 輝
副学部長	木佐貫 彰
副学部長	出 雲 周 二
副学部長	深 野 佳 和

歯学部

学部長	島 田 和 幸
副学部長	中 村 典 史
副学部長	原 田 秀 逸
副学部長	野 口 和 行

医学部・歯学部附属病院

病院長	熊 本 一 朗
副病院長(医科担当)	中 川 昌 之
副病院長(歯科担当)	中 村 典 史
薬剤部長	武 田 泰 生
看護部長	向 窪 世知子
臨床技術部長	池 田 睦
事務部長	羽 生 守 彦
総務課長	島 森 俊 光
経営企画課長	鳥 居 時 政
管理課長	若 松 敏 広
医務課長	上 蘭 和 郎

工学部

学部長	福 井 泰 好
副学部長	渡 邊 睦
副学部長	本 間 俊 雄
副学部長	山 城 徹

農学部

学部長	富 永 茂 人
副学部長	初 井 和 朗
副学部長	岩 井 久
副学部長	境 雅 夫
附属農場長	佐 藤 宗 治
附属演習林長	岡 勝
附属焼酎・発酵学教育研究センター長	富 永 茂 人

水産学部

学部長	松岡達郎
副学部長	越塩俊介
副学部長	佐野雅昭
副学部長	上西由翁
附属練習船かごしま丸船長	東政能
附属練習船南星丸船長	内山正樹
附属海洋資源環境教育研究センター長	小山次朗
事務長	安武博隆

共同獣医学部

学部長	高瀬公三
副学部長	宮本篤
副学部長	三角一浩
附属動物病院長	川崎安亮
附属越境性動物疾病制御研究センター長	小原恭子

農学部・共同獣医学部等事務部

事務部長	神之門 悟
総務課長	上國料 宏
学務課長	本 忠 夫

大 学 院

人文社会科学研究科

研究科長	平井一臣
副研究科長	桑原季雄

教育学研究科長	武隈 晃
保健学研究科長	木佐貫 彰
農学研究科長	富永茂人
水産学研究科長	松岡達郎

理工学研究科

研究科長	近藤英二
副研究科長	與倉昭治
副研究科長	福井泰好
副研究科長	宮町宏樹
副研究科長	大塚作一
附属南西島弧地震火山観測所長	宮町宏樹

理工学研究科等事務部

事務部長	中村浩二
研究科事務課長	上白石 豊
理学系事務課長	野頭俊明
工学系事務課長	上村 敏

医歯学総合研究科

研究科長	鳥居光男
副研究科長	馬場昌範
副研究科長	宮脇正一
附属難治ウイルス病態制御研究センター長	有馬直道

医歯学総合研究科等事務部

事務部長	山本高師
総務課長	小澤結花
学務課長	坂口智子

司法政策研究科

研究科長	米田健一
副研究科長	志田惣一

臨床心理学研究科

研究科長	松木 繁
副研究科長	中原陸美

連合農学研究科

研究科長	杉元康志
副研究科長	山本 淳

学内共同教育研究施設等

附属図書館	
附属図書館長	野呂忠秀
桜ヶ丘分館長	武井修治
水産学部分館長	板倉隆夫
保健管理センター所長	伊地知信二
国際島嶼教育研究センター長	野田伸一
留学生センター長	大嶋真紀
総合研究博物館長	山根正氣
学術情報基盤センター長	森 邦彦
生涯学習教育研究センター長	岩元 泉
教育センター長	飯干 明
副センター長	富原一哉
稲盛アカデミー長	吉田浩己
自然科学教育研究支援センター長	藏脇淳一
医用ミニブタ・先端医療開発研究センター長	山田和彦
地域防災教育研究センター長	小林哲夫
産学官連携推進センター長	福島誠治
埋蔵文化財調査センター長	新田栄治

海外拠点

北米教育研究センター長	井手祐二
-------------	------

■現員

(平成25年5月1日現在)

部 局 等 名	学 長		役 員		教 授		准教授		講 師		助 教		助 手		小 計		教 諭		事務・技術・その他						合 計		
																			事務		技術		その他				
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
事 務 局	1		8												9			126	61	13		3			212		
国際連携推進センター							1								1	1								1	0		
保健管理センター					1		1					1			3								2		5		
国際島嶼教育研究センター					3		1								4									4	0		
留 学 生 セ ン タ ー						2		1		1					4									4	0		
総合研究博物館					2		1	1						1	5									5	3		
学術情報基盤センター					3		2				1				6									6	0		
生涯学習教育研究センター							1	1							2									2	1		
教 育 セ ン タ ー					1		3	2							6									6	2		
稲盛アカデミー					1		1								2									2	0		
自然科学教育研究支援センター					1		2					2			5				4					9	0		
医用ミニボタ先端医療開発研究センター					3		1								4									4	0		
産学官連携推進センター					1		1								2									2	0		
埋蔵文化財調査センター							1				1				2									2	1		
法 文 学 部					41	4	28	8	1				2		84			8	8					100	22		
教 育 学 部					32	4	37	10	5	3					91			12	5	1	1			110	23		
附 属 幼 稚 園																	1	3						4	3		
附 属 小 学 校																	31	6		2		1	1	32	9		
附 属 中 学 校																	22	10		2				34	12		
附属特別支援学校																	15	12	1	1				29	13		
附属教育実践総合センター					5		3	1	1						10									10	1		
医 学 部					13	5	4	2	1	4	5	15			49									49	26		
医学部・歯学部附属病院					1		5		43	5	74	17			145			48	28	8	1	164	671	1,065	722		
農 学 部					28		28	1			10	1			68				4					72	2		
附 属 農 場					1		1				1				3				13	4				20	4		
附 属 演 習 林					1		1								2				5					7	0		
附属焼酎・発酵学 教育研究センター					1		1				1				3									3	1		
共 同 獣 医 学 部					13		11	2			1	1			28									28	3		
附 属 動 物 病 院							1								1				1					2	0		
附属越境性動物疾病 制御研究センター					2	1									3									3	1		
農学部・共同獣医学部等事務部																		20	8					28	8		
水 産 学 部					18		15	1	2		6	2			44			7	5	3	2			61	10		
附属練習船かごしま丸					1				2		1				4							23		27	0		
附属練習船南星丸									1		1				2						12			14	0		
附属海洋資源環境 教育研究センター					2		2	1			1	1			7				6					13	2		
大学院理工学研究科(工学系)					46		45				31	1			123				20	6				149	7		
大学院理工学研究科(理学系)					27	1	25	1	1	1	9	1			66									66	4		
附属南西島弧 地震火山観測所					1						1				2				1					3	0		
理工学研究科等事務部																		18	14					32	14		
医 歯 学 総 合 研 究 科					56	1	31	6	19	1	76	28			218			1	4	7	3	2		235	45		
附属難治ウイルス 病態制御研究センター					3		2	1							6									6	1		
医歯学総合研究科等事務部																		28	14					42	14		
大学院司法政策研究科					11		1								12									12	0		
大学院臨床心理学研究科					3	1	3		2						9									9	1		
連 合 農 学 研 究 科					1										1									1	0		
計	1	0	8	0	342	19	298	41	79	15	221	69	0	3	1,036	147	100	69	31	269	152	86	17	203	676	1,516	1,023

法文学部



法文学部は、藩学造士館、旧制第七高等学校造士館の系譜を引く学部で、現在、法政策学科、経済情報学科、人文学科の3学科から構成される文系総合学部となっている。本学部では、社会や文化に関する確かな知識と幅広い教養を有し、現代社会の諸問題に適切に対処できる能力をもつ学生の育成を目指している。

法政策学科では、多方面に応用できる法的思考能力と政策立案能力を育成する現代型法学教育の展開、経済情報学科では、少人数教育、情報教育を基礎に3つの履修モデルによる問題解決型教育の推進、人文学科では、人間と社会の相互作用の認識や心のケア、多文化社会やメディア文化、地域の理解と文化の育成、国際交流など多方面の教育の充実を図っている。また、3つの学科の個性を生かしながら、キャリア教育やメディア教育など、今日的な課題に積極的に対応した教育を展開している。

学科・講座

法政策学科

- 政策科学
- 市民法
- 法交渉

経済情報学科

- 経済システム
- 経営情報
- 地域計画
- 国際協力

人文学科

- 人間科学
- 地域環境
- 日本・アジア総合文化
- ヨーロッパ・アメリカ総合文化

教育学部



教育学部は、明治初期に源をもつ各師範学校等、教員養成機関としての長い歴史を通じて、鹿児島県はもとより、全国の教育界など広く社会に有為の人材を送り出してきた。現在は、主に小・中学校、高等学校の教員を育成する学校教育教員養成課程、特別支援学校等で活躍する人材を育成する特別支援教育教員養成課程、社会教育分野などの指導者養成に当たる生涯教育総合課程の3課程で構成されており、教育に関する深い理解と指導力、そして豊かな人間性の形成を目指している。

課程・講座(専修等)

学校教育教員養成課程

- | | | |
|--------|------|-------|
| ■ 国語 | ■ 社会 | |
| ■ 数学 | ■ 理科 | |
| ■ 音楽 | ■ 美術 | |
| ■ 保健体育 | ■ 技術 | ■ 教育学 |
| ■ 家政 | ■ 英語 | ■ 心理学 |

特別支援教育教員養成課程

- 障害児教育

生涯教育総合課程

- 地域社会教育
- 国際理解教育
- 健康教育

附属教育研究施設等

- 幼稚園
- 小学校
- 中学校
- 特別支援学校
- 教育実践総合センター
- 寺山自然教育研究施設

理学部



「理学」は、自然現象の中に潜む真理を探究する学問であり、そこで明らかにされた自然法則は人類の英知や文化の中に蓄積され、科学技術の発展を支えてきた。こうして現代社会は豊かなものになったが、豊かさの裏では環境やエネルギーなどに関する新たな課題も生じた。このような問題を解決するためにも、真理の探究と共に、物事の原理を基礎から理解する「理学」のさらなる進展は不可欠である。鹿児島大学理学部は、南九州という自然に恵まれた地理的特色を生かしながら、基礎科学を中心とする自然科学の最新の教育・研究を進める。

〈育成する人材像〉

- * 自然科学の専門知識と幅広い教養を併せもち、論理的科学的思考力を身につけた人
- * 学問の高度化や多様化に柔軟に対応できる、創造力のある人
- * 社会性、国際性、学際性が豊かで、先端科学の知識と問題解決能力を身につけた人
- * 高い倫理観をもって人類の幸福と福祉に貢献できる人

学科

数理情報科学科

物理科学科

生命化学科

地球環境科学科

医学部



医学部は、明治2(1869)年にウィリアム・ウィリスを校長として設立された島津藩医学校を前身とし、昭和18(1943)年に医学科の母体となる県立鹿児島医学専門学校が開校された。その後幾多の変遷をたどり、昭和30(1955)年に鹿児島大学医学部に改称された。また、平成10(1998)年には保健学科が設置され、現在では医学科と保健学科の2学科で構成されている。この間、多くの人材を輩出し、日本各地で医学・医療の進歩と国民の健康と福祉のため多大な貢献をしている。本学部では、人間性豊かな、地域に貢献する、研究心旺盛な、国際的視野に立つ医学・医療を担う人を育成することを目指している。

学科・学科目等

医学科

- 医学概説学
- 疾病病因学
- 疾病病態学
- 医学実践学
- 臨床実践学

保健学科

- | | | |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 看護学専攻 ■ 総合基礎看護学 ■ 臨床看護学 ■ 母性・小児看護学 ■ 地域看護・看護情報学 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 理学療法学専攻 ■ 基礎理学療法学 ■ 臨床理学療法学 | <ul style="list-style-type: none"> ■ 作業療法学専攻 ■ 基礎作業療法学 ■ 臨床作業療法学 |
|---|---|---|

附属教育研究施設

- 医学部・歯学部附属病院

歯学部



歯学部は、沖縄を含む南九州全域における歯科医学の教育と研究ならびに歯科医療の中心的役割を果たすべく、昭和52(1977)年10月に設置された。

本学部では、う蝕、歯周疾患、顎関節症、咬合異常、口腔領域の形成異常(口唇口蓋裂など)、外傷、腫瘍(口腔癌など)などの各種疾患の原因を究明し、これらの疾患の治療法ならびに予防法を確立していくとともに、歯科医学を通して地域的にも国際的にも十分に貢献しうる人材を育成することを目標としている。また、共通・教養教育や基礎医学・隣接臨床医学教育にも力を注ぐとともに、良識ある人間形成に繋がる教育を心がけ、全人的歯科医療の実践と歯学分野における幅広い知識と技術を有し、創造性に富む歯科医師及び歯科医学教育者・研究者の育成を目指している。

また、県内離島の歯科巡回診療を毎年実施し、地域のニーズに応える歯科医療を実践するとともに、学生にも離島歯科巡回診療の実習を体験させている。

学科・学科目

歯 学 科

■ 歯科常態学 ■ 歯科病態学 ■ 発達育成歯科学 ■ 口腔顎顔面歯科学

附属教育研究施設

■ 医学部・歯学部附属病院

工学部



工学部の母体である鹿児島県立工業専門学校は、工業専門の理科学系学生の教育を目的として昭和20(1945)年4月に設置され、同30(1955)年に国立移管された。

本学部は、工学の面白さを学びたい、ものづくりに取組みたい、技術開発に挑戦したい等の夢をもつ一人一人の学生に、幅広い教養と高度な専門能力を授け、獲得した知識や技術等を統合的に活用することにより、実社会における課題解決のために応用できる知恵として身につけることができる教育に心がけている。今日まで連綿と国際的な通用性を踏まえた教育改革を進め、グローバルに活躍できる工学系人材として必要な基礎的能力を育む教育を実践している。

また、本学部は、我が国のものづくりの主要な分野を網羅する7学科編成で、社会の変革を担う人材育成、知的基盤の形成やイノベーションの創出などに寄与する「知の拠点」としての展開に取り組んでいる。

学科

機 械 工 学 科
電 気 電 子 工 学 科
建 築 学 科

環 境 化 学 プ ロ セ ス 工 学 科
海 洋 土 木 工 学 科
情 報 生 体 シ ス テ ム 工 学 科

化 学 生 命 工 学 科

農学部



農学部は、明治41(1908)年開設の鹿児島高等農林学校に始まり、昭和24(1949)年鹿児島大学農学部となった。日本有数の食料生産基地に位置する本学部は、生物生産学科(5講座)、生物資源化学科(3講座+焼酎学コース)、生物環境学科(4講座)および獣医学科(平成23年度入学生まで所属)の4学科から構成され、附属施設として、附属農場、附属演習林および附属焼酎・発酵学教育研究センターを有している。温帯から亜熱帯へ南北数百kmに及ぶ多様な自然環境と生物資源に恵まれた地域の特性を生かして、食、農、地域資源、環境、生命に関する教育を行っている。また、フィールドでの教育、地域産業と連動したキャリア教育を重視し、豊かな人間性、現場での実践力、優れた応用力、広い視野と国際性を備え、地域社会と発展途上国に貢献できる技術者・指導者を養成している。現在は、学部の上に修士課程(農学研究科)および博士課程(連合農学研究科)が設置されている。

学科・講座 等

生物生産学科

- 作物生産学
- 園芸生産学
- 病害虫制御学
- 家畜生産学
- 農業経営経済学

生物資源化学科

- 生命機能化学
- 食品機能化学
- 食糧生産化学
- 焼酎学

生物環境学科

- 森林管理学
- 地域資源環境学
- 環境システム学
- 生産環境工学

獣医学科(平成23年度入学生まで)

- 基礎獣医学
- 病態予防獣医学
- 臨床獣医学

附属教育研究施設

- 附属農場
- 附属演習林
- 附属焼酎・発酵学教育研究センター

水産学部



水産学部は、鹿児島水産専門学校を母体として昭和24(1949)年に誕生した。「海を怖れず、海を愛し、海を拓け」をモットーに、鹿児島から東南アジア・南太平洋を含む海洋や陸水域をフィールドとし、水産資源の持続的生産とその合理的利用、水圏環境の保全、生活文化の創出の分野で、地域社会と国際社会に貢献する人材を育成することを教育の目的としている。食料生産の確保と海洋環境の保全といった時代の要請に応えるため、高度で先端的な教育を受けた技術者を養成し、水産海洋科学の分野から、鹿児島は勿論のこと、熱帯・亜熱帯水域の発展途上国で活躍できる、国際的視野を持った卒業生を送り出している。平成15年には大学教育の分野では初めて、国際的な品質基準であるISO9001認証を取得した。また、平成19年には、カリキュラム改革に伴い、講座を廃止し、教育分野による教育組織を構築した。

学科等・教育分野

水産学科

- 水産生物・海洋学分野
- 養殖学分野
- 食品・資源利用学分野
- 漁業工学分野
- 水産経済学分野

水産教員養成課程

- 水産教員養成課程分野

附属教育研究施設

- 附属練習船かごしま丸:1,284トン(国際トン数)
- 附属練習船南星丸:280トン(国際トン数)
- 附属海洋資源環境教育研究センター
- 東町ステーション
- 食品・資源利用学実習工場
- 回流水槽実験室
- 鴨池海洋生産実験室

共同獣医学部



共同獣医学部は、昭和14年に鹿児島高等農林学校に創立された獣医学科を前身とし、農学部獣医学科を経て、平成24年に鹿児島大学9番目の学部として設置された。本学部では欧米水準を目指した獣医学教育を山口大学との共同教育課程により行う。豊かな人間性と正しい倫理観を持ち、行動規範に従って職務を遂行し、国際社会に貢献できる専門性の高い獣医師の養成を目指す。獣医師養成のための教育病院である附属動物病院には軽種馬診療センターが併設され、伴侶動物だけでなく産業動物の中核動物診療施設としても地域に貢献する。また、我が国屈指の畜産地帯を背景に、鳥インフルエンザなどの越境性動物疾病の研究を行う附属越境性動物疾病制御研究センターも設置されている。

学科・講座

獣医学科

■基礎獣医学

■病態予防獣医学

■臨床獣医学

附属教育研究施設

■附属動物病院

■軽種馬診療センター

■附属越境性動物疾病制御研究センター

人文社会科学部

人文社会科学部は、平成10年、既に開設されていた法学研究科〔昭和54(1979)年設置〕、人文科学研究科〔昭和61(1986)年設置〕を発展的に解消して設置された。現在は博士前期課程4専攻(法学専攻、経済社会システム専攻、人間環境文化論専攻、国際総合文化論専攻)および博士後期課程1専攻(地域政策科学専攻)からなっている。

本研究科では、各専門分野における高度な研究・教育を行うとともに、プロジェクト研究を中心とする地域に密着した実践的な研究に取り組んでいる。また、昼夜開講制による社会人学生の積極的な受け入れや、奄美サテライト教室〔奄美大島、徳之島分室〕を通じた離島地域での授業開講、外国人留学生特別選抜指定校推薦入試(秋入学)による留学生の受け入れなど、社会のニーズに積極的に応えている。さらに、博士前期課程では中学校および高等学校教諭専修免許の資格を取得することができる。

課程・専攻

博士前期課程

法学 ■ 経済社会システム ■ 人間環境文化論 ■ 国際総合文化論

博士後期課程

■ 地域政策科学

教育学研究科

教育学研究科は、平成21年4月に「学校教育専攻」と「教科教育専攻」の2専攻から「教育実践総合専攻」の1専攻に改組された。すなわち、教科や学問分野に細分化されたコース・専修を融合し、より広範な単位である学修コースを設置することによって、現実の課題に即した総合的な講義や研究方法の指導が可能となり、視野の広い高度の専門的知識・技能を背景に、広く教育の分野において優れた指導力を有する高度専門職業人の養成を図ることとした。

さらに、小学校以外の教員免許状を取得している人においては「小学校教員免許取得プログラム(長期在学履修)」も選択できるようになった。なお、現職教員をはじめとする社会人が夜間でも受講可能で修士の学位を取得することのできる昼夜開講制を実施している。

本研究科「教育実践総合専攻」は、「学校臨床系」、「人間発達系」、「生活・健康系」、「言語・社会系」、「理数・環境系」、「芸術・スポーツ系」の6つの学修コースから構成され、各教科に関する専門的知識に加えて学際的知識も修め、教育・研究能力を高めることをめざしている。

課程・専攻

修士課程

■ 教育実践総合専攻

保健学研究科

保健学研究科は、看護学・理学療法学・作業療法学に関する高度な専門知識・技術をもつ専門職者ならびに優れた教育や研究のできる指導・管理者および離島や国際的な保健・医療に貢献できる人材を養成し、併せて教育研究の成果および情報を社会に広く提供し貢献することを理念として、平成15年4月に博士前期課程、平成17年4月に博士後期課程が設置された。

本研究科では、(1)高度な専門知識・技術を身につけた専門職者、指導・管理者の育成、(2)医療専門職としての質の高い教育・研究者の育成、(3)学生の能力開発に効果的な教育や独自の研究のできる人材の育成、(4)地域の保健・医療において指導・管理者として実践できる人材の育成、(5)離島・へき地の保健・医療の指導者として実践できる人材の育成、(6)国際保健医療活動を推進できる人材の育成、を教育目標としている。

なお、平成24年度より、博士前期課程(看護学領域)の中に放射線看護専門コース(募集人員2名)を設置した。

課程・領域・分野

博士前期課程

■ 看護学領域
基礎看護・地域看護学分野
臨床看護学分野

■ 理学療法・作業療法学領域
理学療法学分野
作業療法学分野

博士後期課程

■ 保健看護学分野
■ 神経運動障害基礎学分野
■ 臨床精神神経障害学分野

理工学研究科

理工学研究科では、「真理を愛し、高い倫理観を備え、自ら困難に挑戦する人格を育成し、時代の要請に対応できる教育研究の体系と枠組みを創成することによって、地域ならびに国際社会の進展に寄与する」という教育研究理念のもとに、理工学の基礎から応用にわたる学術の真理と理論を教授研究し、その深奥を極めて文化の進展に寄与する人材育成を目的とする。

そのために、今日の諸課題に対応できる倫理的判断力および人間生活を取り巻く自然についての総合的知識を有し、自然科学に関する学問の高度化と多様化に幅広く柔軟に対応可能な次世代を担う技術者、研究者、高度専門職業人を養成しつつ、地域社会との連携と世界に開かれた研究科であるように努めている。

博士前期課程に10専攻、博士後期課程に3専攻を設置し、自然科学の深化および理学と工学の融合により科学創成をリードする教育研究活動を展開している。

課程・専攻・コースワーク

博士前期課程					博士後期課程
機械工学専攻 生産工学 エネルギー工学 機械システム工学	電気電子工学専攻 電子物性デバイス工学 電気エネルギー工学 通信システム工学	建築学専攻 建築設計 環境設計 構造設計	化学生命・化学工学専攻 化学工学 応用化学 生命工学	海洋土木工学専攻 環境システム工学 建設システム工学	博士後期課程 物質生産科学専攻 システム情報科学専攻 生命環境科学専攻
情報システム工学専攻 情報システム工学 認知システム工学	数理情報科学専攻 数理構造 現象数理 情報数理	物理・宇宙専攻 物理 宇宙	生命化学専攻 分子機能化学 有機生化学 生命機能	地球環境科学専攻 地球科学 環境解析 多様性生物学	附属教育研究施設 南西島弧地震火山観測所

農学研究科

農学研究科は、昭和41(1966)年に開設され、現在、生物生産学専攻、生物資源化学専攻および生物環境学専攻の3専攻が設置されている。わが国有数の食料生産基地を抱え、かつ温帯から亜熱帯に分布する多様な生物資源と自然環境などを生かし、自然環境に調和した食料生産技術の開発、生物機能の解明と応用、自然生態系の保全と修復、農山村社会の活性化などに関する研究に取り組んでいる。また、バイオテクノロジーや先端技術を導入し、農林食産業分野における新技術の開発を中心とした教育研究を行っている。農林・食産業を取り巻く状況を把握し、広い視野と倫理観を持って科学技術を応用し、豊かな専門性と実践力・創造力、地域が抱える特色や課題に積極的に取り組む高度専門技術者の養成、さらに博士後期課程へ進学する発展的研究者を養成している。

課程・専攻

修士課程		
生物生産学専攻	生物資源化学専攻	生物環境学専攻

水産学研究科

水産学研究科では、水産生物・海洋学、養殖学、食品・資源利用学、漁業工学、水産経済学の分野で高度技術者・研究者を養成するための研究と教育が行われており、修了者は各地の水産試験場や民間の研究機関などで専門的な仕事についている。中国、東南アジアや中東、アフリカ、中南米からの留学生も多く、留学生の多い講義の中では英語が用いられることもある。

フィリピン大学ピサヤス校との大学院生レベルでの交流事業も活発に行われており、グローバルな視野を有する国際的に通用性の高い人材の育成を図っている。この修士課程を修了した大学院生の中には、引き続き大学院連合農学研究科(博士課程)に進学する者もいる。

課程・専攻・講座

修士課程
水産学専攻

医歯学総合研究科

医歯学総合研究科は、疾病の予防と治療を使命とする医学と歯学を有機的に結合して、生命医療科学領域における先端的研究と高度の教育を遂行し、多様な社会的要請に迅速に対応することを目指しており、平成15年4月に大学院博士課程(健康科学専攻および先進治療科学専攻)、平成16年4月には修士課程(医科学専攻)が設置された。本研究科は、(1)生命科学領域の教育研究のリーダーの育成、(2)地域の特性を生かした生命医療科学領域の教育研究拠点の創出、(3)専門性を備えながら医の倫理観を備えた生命医療人の育成を目標としている。

本研究科には、現在、11講座、3プロジェクト講座、3連携講座のほか、HTLV-1をはじめとしたウイルス性疾患の病態制御をめざした難治ウイルス病態制御研究センター(平成16年4月)、鹿児島県に多い離島やへき地の医療に携わる人材育成を目指した離島へき地医療人育成センター(平成19年4月)を含む6研究センター、5寄附講座が設置されている。



桜ヶ丘キャンパス全景

課程・専攻・講座

博士課程

健康科学専攻

人間環境学
社会・行動医学
感染防御学
発生発達成育学
国際島嶼医療学(プロジェクト講座)
宇宙環境医学(連携講座)
長寿口腔科学(連携講座)

先進治療科学専攻

神経病学
感覚器病学
運動機能修復学
循環器・呼吸器病学
生体機能制御学
顎顔面機能再建学
腫瘍学
再生・移植医療学(プロジェクト講座)
臨床腫瘍学(プロジェクト講座)
先端医療学(連携講座)

修士課程

医科学専攻

附属教育研究施設

■ 難治ウイルス病態制御研究センター

寄附講座

- 医療関節材料開発講座(京セラメディカル)
- システム血栓制御学講座(メディポリス連携医学)
- 近未来運動器医療創生学講座〔(医)くすのき会〕
- 分子応用外科学講座
- HGF組織修復・再生医療学講座

司法政策研究科

司法政策研究科(法科大学院)は、平成16年4月設置の3年制専門職大学院である。司法過疎と呼ばれる南九州に位置する法科大学院として、これからの司法の在り方を構想、実現していく活動的な法曹を養成することを目的としている。修了者には法務博士の学位と新司法試験の受験資格が授与される。専任教員15名(研究者教員11名、実務家教員4名)による徹底した少人数教育を行い、法律実務家をめざす明確な問題意識や関心を育てつつ、21世紀の我が国社会を支える法曹としての能力を鍛えている。



課程・専攻

専門職学位課程(法務博士)

法曹実務

臨床心理学研究科

臨床心理学研究科は、臨床心理士という高度職業専門人養成を目的とする日本で初めての独立研究科として、平成19年4月に設置認可された専門職大学院である。本研究科の教育理念は、(1)個別支援, 集団支援, 地域支援, 危機介入支援のできる人材, (2)地域文化を視野に入れた心理臨床ができる人材を育成することにある。この理念達成のために、実習を充実・強化した教育課程を設定し、個別・少人数による指導を行っている。第1期～第V期生までの就職率は100%で、教育・福祉・医療・司法・矯正の各領域で地域に根差して活躍している。

さらに、本研究科は、文部科学省より平成20～21年度には「臨床心理実習における客観的評価方法の構築」、平成22～24年度には、「地域支援プロジェクト」の事業支援を受けてきた。今後も即戦力の臨床心理士養成のために、臨床実践、地域貢献、現場教育を主眼においた教育プログラムの開発を行っていく。



▲TV会議を利用した地域と大学との事例検討会の様子
(地域支援プロジェクト)

課程・専攻

専門職学位課程(臨床心理修士)

臨床心理学

連合農学研究科

連合農学研究科は佐賀大学、琉球大学、鹿児島大学が連合し、それぞれの地域特性を生かした農学・水産学が学べる博士課程の大学院である。最先端のバイオテクノロジー技術を駆使して人々に安全・安心な食糧生産と環境保全の達成を目指す、農林水産学分野の高度な専門教育と研究を行っている。水資源の総合利用といった視点から林学・農業工学・水産学を融合した農水圏資源環境科学専攻や、民間企業(タカラバイオ(株))との連携大学院を持つ先端応用生命科学連合講座などが特徴である。修了者には農学・水産学・学術のいずれかの博士号が付与される。学位修得者は、日本人以外に多くの留学生が含まれ、国際的に幅広い分野で、研究者、教育者、高度技術者として活躍している。

(注)連合農学研究科は、3大学(佐賀、琉球、鹿児島)で構成



課程・専攻・連合講座

博士課程

生物生産科学専攻

熱帯資源・植物生産科学
動物資源生産科学
地域・国際資源経済学

応用生命科学専攻

生物機能化学
食品機能科学
先端応用生命科学

農水圏資源環境科学専攻

生物環境保全科学
地域資源環境工学
水産資源環境科学

山口大学連合獣医学研究科

山口大学連合獣医学研究科は、鹿児島大学、鳥取大学、山口大学が連合して設置している修業年限4年の博士課程で、基幹校は山口大学である。

本研究科は、1専攻(獣医学専攻)で、基礎獣医学、病態・予防獣医学および臨床獣医学の3連合講座から成り、学生の入学定員は12人であり、創造性豊かな研究者や高度の専門的知識と能力を有する人材を養成する。学生1人につき、主指導教員1人、副指導教員2人が指導に当たる一方、他大学の教員ならびに学生相互の討論を通して、自己を高めると同時に相互の親睦と連帯感の形成に役立っている。毎年、海外からの留学生も多く受入れている。



課程・専攻・連合講座

博士課程

獣医学専攻

基礎獣医学 病態・予防獣医学 臨床獣医学

(注)山口大学連合獣医学研究科は3大学(鹿児島、鳥取、山口)で構成

医学部・歯学部附属病院

医学部・歯学部附属病院は、平成15年10月に医学附属病院と歯学部附属病院を統合し、診療科を疾患機能別に17センターとし、診療体制を再編成した。また、病院再開発計画として、平成19年から約16年間の予定で建物の増築・改修を行い、病院機能や建物を統合・集中化し、病院運営の合理化・省力化、患者サービスの向上、先進医療の積極的導入、地域医療の充実を目指している。

平成18年には「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定され、鹿児島県におけるがん医療に中心的な役割を果たしている。

さらに、平成20年には、医療提供の質が多面的に評価され、九州の国立大学病院として初めて病院機能評価 Ver.5の認定を取得し、平成24年度に病院機能評価 Ver.6が認定されました。

教育面では、卒後臨床研修センターが中心となり、協力病院と共同で「卒後臨床研修プログラム」を実施し、優れた医師・歯科医師の人材育成に努め、平成25年度には「総合臨床研修センター」を設置します。

診療センター	部門科	中央診療施設等
循環器センター	心臓血管内科 心臓血管外科	■検査部 ■手術部 ■放射線部 ■救急部 ■集中治療部 ■輸血部 ■周産母子部 ■全身管理歯科治療部 ■血液浄化療法部 ■病理部 ■光学医療診療部 ■歯科技工室 ■リハビリテーション部 ■中央採液室 ■臨床心理室 ■歯科総合診療部 ■遺伝カウンセリング室 ■外来化学療法室 ■腫瘍センター ■肝疾患相談センター ■漢方診療センター ■てんかんセンター ■医療器材管理部 ■医療情報部 ■治験管理部 ■卒後臨床研修センター ■医療環境安全部 ■地域医療連携センター ■医療相談室 ■地域医療支援センター ■女性医師等支援センター ■栄養管理室
消化器センター	消化器内科 消化器外科	
脳・神経センター	神経内科 脳神経外科	
呼吸器・ストレスケアセンター	呼吸器内科 呼吸器外科 心身医療科	
腎臓・泌尿器センター	腎臓内科 泌尿器科	
血液・内分泌・糖尿病センター	血液・膠原病内科 糖尿病・内分泌内科 乳腺・内分泌外科	
メンタルケアセンター	神経科精神科	
小児診療センター	小児科 小児外科	
女性診療センター	産科、婦人科	
整形・運動機能センター	整形外科・リウマチ外科	
感覚器センター	皮膚科 眼科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	
放射線診療センター	放射線科 顎顔面放射線科	
麻酔全身管理センター	麻酔科 歯科麻酔科	
リハビリテーションセンター	リハビリテーション科	
発達系歯科センター	口腔保健科 矯正歯科 小児歯科	
成人系歯科センター	保存科 歯周病科 冠・ブリッジ科 義歯補綴科	
口腔顎顔面センター	口腔外科 口腔顎顔面外科	
		■薬剤部 ■看護部 ■臨床技術部 ■事務部

医学部・歯学部附属病院患者数

(平成24年度)

医科部門			歯科部門			
部門科名	患者数		部門科名	患者数		
	入院	外来		入院	外来	
内科	心臓血管内科	8,412	16,151	口腔保健科	-	5,856
	消化器内科	12,223	11,536	矯正歯科	-	6,834
	神経内科	7,205	8,462	小児歯科	4	8,300
	呼吸器内科	8,455	5,977	保存科	-	10,977
	腎臓内科	1,172	2,371	歯周病科	-	11,254
	血液・膠原病内科	9,290	12,000	冠・ブリッジ科	-	12,413
	糖尿病・内分泌内科	2,537	8,885	義歯補綴科	-	12,323
外科	心臓血管外科	9,058	2,331	口腔外科	4,401	9,013
	消化器外科	18,889	5,979	口腔顎顔面外科	4,836	9,975
	呼吸器外科	7,436	3,201	顎顔面放射線科	-	5,094
	乳腺・内分泌外科	2,110	4,249	歯科麻酔科	-	1,222
	救急科※	524	138	全身管理歯科治療部	-	1,409
脳神経外科	10,781	6,762	歯科総合診療部	-	3,298	
心身医療科	1,299	3,374	計	9,241	97,968	
泌尿器科	7,267	8,502				
神経科精神科	12,609	14,361				
小児科	13,719	8,914				
小児外科	4,877	3,013				
産科	8,150	3,031				
婦人科	8,250	11,056				
整形外科・リウマチ外科	18,527	11,004				
皮膚科	7,909	11,052				
眼科	9,502	25,168				
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	10,066	8,535				
放射線科	3,864	6,988				
麻酔科	196	4,636				
リハビリテーション科	15,502	5,952				
放射線治療室	/					
集中治療室						
特別室						
感染室						
共通						
休床(病院再開発のため)						
計	219,829	213,628				

※救急科は平成24年1月からの実績

病棟別配分病床数

医科病棟	床
医科病棟	671
歯科病棟	32(4)
霧島リハビリテーションセンター	50
休床(病院再開発のため)	13
医学部・歯学部附属病院合計	770

※()の数字は感染病床で外数。合計の770床については、感染病床を含む

学部・大学院等



▲医科診療棟



▲歯科診療棟



▲霧島リハビリテーションセンター

附属図書館

附属図書館は、中央図書館(郡元地区)、桜ヶ丘分館(桜ヶ丘地区)および水産学部分館(下荒田地区)の3館で組織されており、教育・研究に必要な学術資料を広い分野にわたり収集し、利用に供している。3館とも、本学の学生・教職員はもとより、地域住民に対しても開放されている。

近年は、ラーニングcommonsとしての機能強化を図るとともに、文献情報データベース、電子ジャーナル等の電子情報資料の整備充実にも努めるほか、本学で作成された電子的学術研究成果を無償で国内外に発信する鹿児島大学リポジトリを運用している。

なお、島津久光および玉里島津家の旧蔵書である「玉里文庫」等の貴重書や古書籍等のコレクションも所蔵し、毎年その一部を公開している。

【中央図書館】

開館時間

月～金曜日	土・日曜日
8:30～21:30	10:00～18:00

休館日

- 国民の祝日
- 年末年始等(12月27日～1月3日)

施設

鉄筋地上5階地下2階建 (平成8年12月竣工)	
延床面積	12,697m ²
閲覧スペース	4,459m ²
サービススペース	2,044m ²
収蔵スペース	2,359m ²
歴史資料展示室	140m ²
事務室等	775m ²
その他	2,920m ²
総座席数	910席
収容可能冊数	972,000冊



【桜ヶ丘分館】

開館時間

月～金曜日	土・日曜日
8:30～21:30	10:00～18:00

(偶数月の第1土曜日は14:00～18:00)

休館日

- 国民の祝日
- 年末年始等(12月27日～1月3日)

施設

鉄筋3階建 (昭和52年4月竣工、昭和56年5月増築)	
延床面積	1,980m ²
閲覧スペース	1,229m ²
サービススペース	208m ²
収蔵スペース	189m ²
事務室等	211m ²
その他	143m ²
総座席数	158席
収容可能冊数	192,000冊



【水産学部分館】

開館時間

月～金曜日	土曜日
8:30～20:00	10:00～17:00

休館日

- 日曜日、国民の祝日
- 年末年始等(12月27日～1月3日)

施設

鉄筋2階建 (昭和45年2月竣工)	
延床面積	849m ²
閲覧スペース	307m ²
サービススペース	47m ²
収蔵スペース	233m ²
事務室等	113m ²
その他	149m ²
総座席数	78席
収容可能冊数	41,000冊



【平成24年度利用状況】

区 分	開館日数	総 入 館 者 数				
		平 日			土・日 及び祝日	合 計
		17:15まで	17:15以降	計		
中央図書館	306	237,290	86,379	323,669	47,694	371,363
桜ヶ丘分館	345	67,520	30,833	98,353	17,069	115,422
水産学部分館	276	19,611	3,036	22,647	1,363	24,010
合 計		324,421	120,248	444,669	66,126	510,795

【蔵 書】

図書(冊)

(平成25年4月1日現在)

区 分	総 記	哲 学	歴 史	社会科学	自然科学	技 術	産 業	芸 術	言 語	文 学	合 計	
和漢書	中央図書館	66,292	41,754	77,825	202,122	108,375	70,757	51,845	29,795	27,436	69,738	745,939
	桜ヶ丘分館	938	1,886	695	5,241	94,511	1,169	367	647	1,691	1,432	108,577
	水産学部分館	1,840	425	1,404	9,853	13,203	6,796	13,577	820	1,140	689	49,747
	小 計	69,070	44,065	79,924	217,216	216,089	78,722	65,789	31,262	30,267	71,859	904,263
洋書	中央図書館	15,078	17,976	16,962	52,653	84,055	19,268	19,677	4,897	13,507	32,575	276,648
	桜ヶ丘分館	744	363	114	670	78,237	93	74	83	409	427	81,214
	水産学部分館	443	102	237	705	6,173	2,240	4,173	234	273	66	14,646
	小 計	16,265	18,441	17,313	54,028	168,465	21,601	23,924	5,214	14,189	33,068	372,508
合 計	85,335	62,506	97,237	271,244	384,554	100,323	89,713	36,476	44,456	104,927	1,276,771	

学部・大学院等

雑誌(種類数)

区 分	和雑誌	洋雑誌	合 計
中央図書館	18,378	8,243	26,621
桜ヶ丘分館	3,530	2,300	5,830
水産学部分館	2,570	1,218	3,788
合 計	24,478	11,761	36,239



▲玉里文庫所蔵資料

【貴重書・古書籍等コレクション】

文庫名	内 容 等					
玉里文庫	島津久光及び玉里島津家の旧蔵書 久光の直筆本、島津家編輯本、和漢書の写本類、薩摩藩関係史誌、幕末洋学関係翻訳書の写本等 18,730冊					
岩元文庫	旧制第一高等学校教授であった岩元禎氏の旧蔵書 漢籍と文学・哲学関係の洋書 漢籍4,515冊、洋書826冊					
松本文庫	旧制第八高等学校漢文学教授であった松本亦一氏の旧蔵書 漢籍と和書、医書を多く含む 2,186冊					
小北文庫	旧制鹿児島高等農林学校長小出満二氏が渡豪中に実業家北村寅之助氏の助力を得て収集し、後に同校図書館に寄贈したオーストラリア、太平洋諸島関係洋書 686冊					
小野文庫	元法政大学教授小野武夫博士の旧蔵書 農業経済、農業史、地方史を中心とするコレクション 4,127冊					
鹿児島県地券台帳	明治15年鹿児島県における地券発行原簿のコレクション 出水、川辺、揖宿、肝属、大隅、熊本、馭謨、臼杵の各郡が比較的多くまとまっている。附属資料として共有地台帳、地価修正一筆限帳等が含まれる 2,944冊					
諸家文書	市来家文書	105点	川田家文書	116点	木脇家文書	18点
	山田家文書	30点	寺尾家文書	387点	伊集院家文書	17点
	有馬家文書	61点	志々目家文書	37点	長野家文書	141点
	斑目家文書	17点	伊勢家文書	695点	新納家文書	122点
	肝付家文書	65冊	八田家文書	2巻(13点)		

教育学部附属学校

附属幼稚園

明治12(1879)年4月創立の附属幼稚園は、全国で2番目に古い歴史をもつ幼稚園である。今年度は、3歳児20人、4歳児34人、5歳児35人、計3学級89人が在籍している。研究主題に「協同性を育む保育の在り方～遊びにおける協同性の育ち～」を掲げて、本県の幼稚園教育の向上の役割を果たしている。そして、学部と連携し研究を深めるとともに、親子が共に育つ場としての幼稚園をめざしている。



附属小学校

附属小学校は創立136周年を迎え、児童数927名(学級数27)で国立大学法人の附属小学校の中でも大規模を誇る学校である。小学校教育に関する理論的・実践的な研究の推進、教育実習生の指導の充実、研究や実践の公開による本県の小学校教育向上への貢献という3つの使命を持ち、複式教育や外国語活動における先進的な研究、実践でも高い評価を得ている。平成23年度から二学期制を導入しており、平成24年度の入学児童からは、1学級35名の定員としている。



附属中学校

附属中学校は、創立62年目を迎え、597名(学級数15)の生徒が在籍している。平成21年度には校舎改修工事、平成23年度にはグラウンド改修工事が完了し施設・設備も一新された。校舎に沿うように並ぶ七本の銀杏の木は、校訓である「真理・理想・自律・誠実・友愛・剛健・雄飛」のシンボルツリーでもある。本校は、「学部と一体となり中学校教育に関する理論的・実践的研究を行う。」「学部の計画に従い、学生の教育実習の場として、その指導に当たる。」「研究会並びに共同研究、教育交流を行い、現職教育の振興に寄与する。」という三つの使命を果たすべく日々前進する学校である。



附属特別支援学校

附属特別支援学校は、知的障害を主な障害とする小学部・中学部・高等部の児童生徒60人が在籍している。特別支援教育の理念の下、「明るく、仲よく、がんばる児童生徒」の育成のため、大学をはじめとする関係機関との連携を図りながら、「一人一人の子供の成長と自立を支え、共に向上し続ける学校」、「附属学校として質の高い研究と教育実習を追求し続ける学校」、「保護者や教育関係者、地域のニーズに丁寧に応え続ける学校」を目指している。



保健管理センター

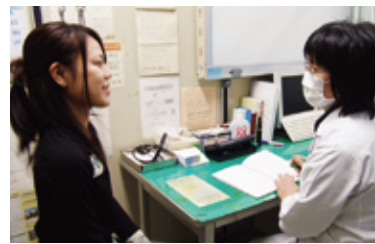
保健管理センターは、学生および教職員の心身の健康の保持ならびにその増進を図ることを目的とし、保健管理に関する実施計画の立案等を行っている。

センターでは、専任の医師4名、保健師3名のほか、学医として学内の各科の専門医（内科、精神神経科、整形外科、眼科、耳鼻科、婦人科、皮膚科、歯科）による健康相談業務を行い、さらにカウンセラーとして法文学部と教育学部の心理学の教員および非常勤の臨床心理士が心理相談にあたっており、ソーシャルワーカーによる学生支援も年々充実している。

また、禁煙サポートプログラムの開発、定期健康診断の予約システムの確立や診断結果のデータのデジタル化およびその結果解析など、調査研究も活発に行っている。

【業務内容】

- 定期健康診断ならびに臨時健康診断と事後指導
- 心理相談ならびに学生支援・職員支援
- 一般診療、急性疾患に対する短期的投薬、他医療施設への紹介・受診指導
- 健康診断証明書発行
- 健康教育活動（学生・教職員への健康啓発講演会開催など）
- 保健管理に関する調査研究
- 環境衛生および感染症予防に関する指導
- 保健管理センター年報の発行
- 禁煙サポート
- 心肺蘇生法講習会



国際島嶼教育研究センター

国際島嶼教育研究センターは鹿児島県からアジア・太平洋までを含む島嶼域を対象とした教育・研究を推進している。鹿児島大学憲章に基づいて、教育・研究戦略のコアとしての役目を果たす施設である。特に島嶼域の諸問題について本大学の資源を集中し、先進的な教育・研究を目指すとともに、各研究成果を地域に還元し、研究科横断的な教育システムにも役割を果たしている。



▲ミクロネシア連邦ボンベイ州ビンゲラップ環礁で調査地に向かう様子

留学生センター

留学生センターは、外国人留学生および海外留学を希望する本学の学生に、必要な教育および指導助言等を行うことにより、本学における国際交流の推進に寄与することを目的として、平成12年4月に設置された。この目的のために、外国人留学生に対する日本語日本文化教育、学習カウンセリング、地域社会との交流推進や、海外留学を希望する学生への情報提供などを行っている。



総合研究博物館

総合研究博物館は、平成13年4月に旧国立大学では7番目の大学総合博物館として設置された。鹿児島大学とその前身である明治以降の複数の学校で教育や研究に使用された貴重な学術資料を一元的に保存・管理・調査・公開し、これからの教育や研究に資するとともに、鹿児島大学の文化遺産・知的財産に関する情報を社会に広く発信すべく活動を行っている。常設展示のほか、毎年様々なテーマで特別展を開催している。また、ニューズレター・モノグラフ・研究報告の発行など、学内外に向けた出版広報活動と並行して、年に数回、市民講座・研究交流会・公開講座を開き、自然体験ツアーなども行っている。本館が保管している学術標本・資料は、これまでに学内にとどまらず外国も含めて多数の利用があり、これらを利用して得られた成果は学術論文として報告されているほか、学生の卒業論文などにも活用されている。



▲公開講座

学術情報基盤センター

学術情報基盤センターは、鹿児島大学の情報基盤を担う中核的組織として、教育研究用計算機システムおよびキャンパス情報ネットワークの運用管理、大学全体の情報セキュリティ対策支援、情報システムの企画・開発・ホスティング・運用、IT相談等、教育研究全般の情報化支援に積極的に取り組んでいる。

センターには、情報メディア基盤部門、学術情報処理研究部門、情報システム開発部門の3部門がおかれ、それぞれの部門に属する専任教員が情報通信技術に関する研究開発、情報通信技術を生かした地域との連携、マルチメディア教材の研究開発、情報教育支援体制の整備による学内局との連携、学術情報データの蓄積と発信に関する研究開発を推進すると共に、学内の教育研究の高度情報化に指導的な役割を果たしている。



生涯学習教育研究センター

生涯学習教育研究センターでは、大学が蓄積する知的資産を活用した公開講座、セミナー、シンポジウム等を企画・提供している。また、指導者の養成、地域の生涯学習への支援、公開授業による大学開放を推進している。

これと並行して、各地域の特性に基づく生涯学習の課題とその解決方法を探るため、生涯学習に関する研究活動を行っている。



▲公開授業の案内パンフレット



公開講座「親子孫で楽しむ環境講座」▶



▲公開講座「親子で冒険 かのしまの海と山」



教育センター（共通教育）

教育センターは、平成15年10月に設置され、その任務は「鹿児島大学の教育の充実・発展」と「共通教育の実施」である。

共通教育は、旧制第七高等学校時代以来、連綿と引き継がれてきた学士課程教育で、幅広い知識・教養・技能等を有するとともに、進取の精神、自主自律の精神に富み、深い歴史感覚、鋭い現実感覚、高い公共意識に裏付けられた判断力と構想力を有する個性豊かな人材の育成を目指しており、どの学部の学生にも必要な大学教育の大きな柱の一つとなっている。

教育センターは、全学共通教育（基礎教育を含む）と外国語教育の企画・運営、学士課程教育の充実・推進と全学的ファカルティ・デベロップメント（FD）の企画・促進、さらには大学院共通科目・特別コースの企画・推進を目的としている。

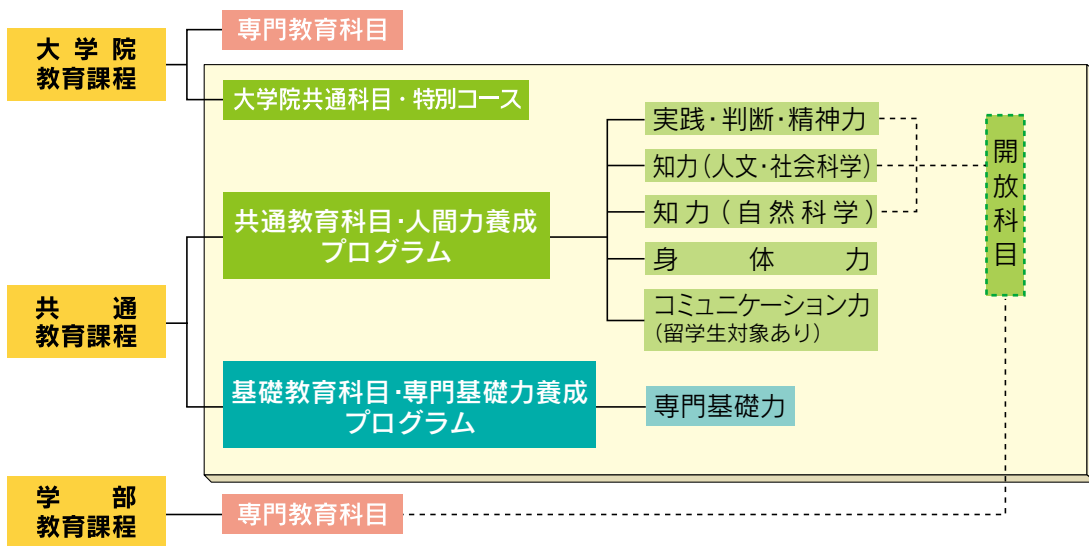
教育センターの組織構成

<p>【共通教育企画実施部】 共通教育科目・人間力養成プログラムと、基礎教育科目・専門基礎力養成プログラムの研究開発・実施</p>	<p>【高等教育研究開発部】 高等教育の教育方法・教育支援・FDの研究開発、授業改善・教育評価・自己点検などの研究開発</p>	<p>【外国語教育推進部】 全学の外国語教育の研究・改善・提言およびカリキュラム開発</p>	<p>【大学院共通科目・特別コース推進部】 大学院共通科目教育の企画・立案・実施</p>
--	--	---	---

学部・大学院等

鹿児島大学教育課程

（大きな枠内が教育センターの教育）



▲共通教育科目「屋久島の環境文化Ⅱ - 生き物 -」授業風景



▲共通教育棟1号館

稲盛アカデミー

工学部の卒業生である稲盛和夫氏(京セラ株式会社名誉会長)および京セラ株式会社からの寄附により、平成17年に、全学共同教育研究施設『稲盛経営技術アカデミー』として設置し、平成20年4月に、『稲盛アカデミー』へ改組した。

稲盛アカデミーは、「世のため、人のために尽くす高い倫理観を持った『21世紀型市民』の輩出を目標に掲げ、地域社会から望まれるリーダーを育成する」を基本理念とした授業科目等を開発し、全学共通教育に提供する一方、様々な体験の場を提供し、その中で学生が自らの理念やビジョンを模索し、真のリーダーのあるべき姿を探求しつつ、実行力と責任感を体得させることで、人間力の総合的育成をめざしている。

開講科目

基本理念として、「稲盛アカデミー」における開講科目は、全て、稲盛和夫氏の「豊かな人間力をもった次世代を担う若者」を育てたいという思いを、全学および共通教育の教育・学習目標に整合させて、開講されている。

実務経験による「人間力」育成と、「地域」や「国際社会」への貢献をキーワードとする本アカデミーの特色を活かした科目構成となっている。

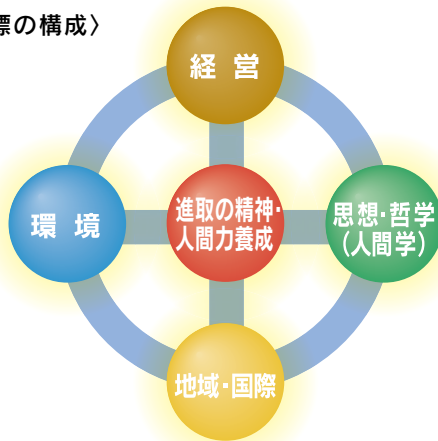
教育目標

進取の精神を有する人材の育成を目指し、

1. 豊かな人間性と倫理観を身につけ、向上心をもって自ら困難に立ち向かう態度を養う。
2. 地域社会の活性化に貢献できる行動力を養う。
3. グローバルな視野をもち、国際社会の発展に貢献できる実践的な能力を育む。



〈教育目標の構成〉



〈開講科目〉

- 稲盛セミナー - I (先人の生き方) / II (人間観の構築)
- 経営哲学 ● 先人に学ぶリーダーシップ ● 地域経営入門
- 生き方と道徳 ● 戦後日本外交史
- 国際平和と有徳 ● 人間力経営 ● 日本の経営思想
- 陽明学入門 ● 現代の日本政治 ● 近現代日本の公共政策
- 公共哲学論(近世編)/(近現代編)
- 環境教育・ESD論(入門)/(応用)
- ESDとサブカルチャー(入門)
- 持続可能な開発と東洋思想(入門)
- エネルギー環境教育論(入門)
- 循環と共生の科学技術社会

(全21科目)

埋蔵文化財調査センター

埋蔵文化財調査センターでは、学内の施設整備に伴うキャンパス内遺跡の発掘調査等を行い、そこから得られた埋蔵文化財の整理、研究、報告書作成を行っている。調査時には、一般市民向けの体験発掘や、遺跡見学会を開催している。

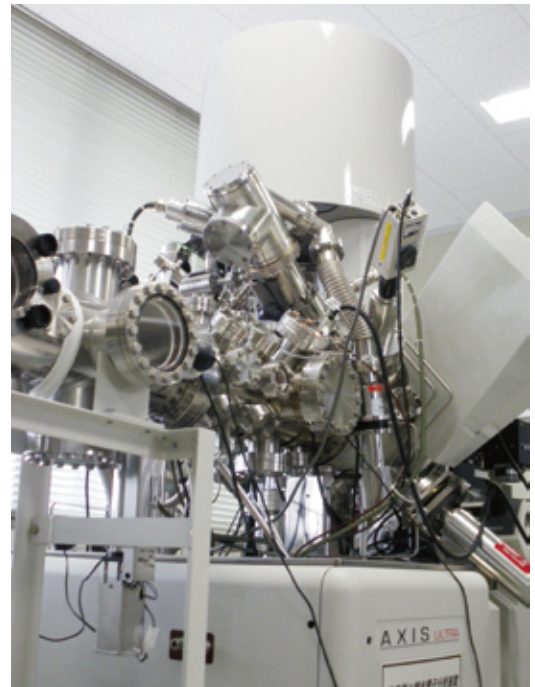


▲発掘調査の様子

自然科学教育研究支援センター

自然科学教育研究支援センターは、4施設から構成されており、高度先端研究機器・設備、遺伝子実験、動物実験及びRIを活用した教育研究を支援し、先端的な生命科学・自然科学の教育・研究・開発の進展に資することを目的としている。

機器分析施設は、大型・高性能機器の計画的導入および集中管理による各種計測・分析機器の有効かつ円滑な共同利用を図っている。遺伝子実験施設は、遺伝子に関連する教育研究を行うための実験室、設備および解析機器類を整備している。動物実験施設は、実験動物および動物実験に関する教育研究、実験動物の品質管理および安全管理を行い、動物実験の適正化を図っている。アイソトープ実験施設は、放射性同位元素および放射線を利用する教育研究を推進するとともに、本学の放射線施設の安全管理を担っている。



▲走査型X線光電子分析装置(島津AXIS-ULTRA DLD)

医用ミニブタ・先端医療開発研究センター

医用ミニブタ・先端医療開発研究センターは、鹿児島大学における前臨床研究(トランスレーショナルリサーチ)を主眼とした重点的研究課題を推進するセンターである。

生命科学における重点の先端研究課題を遂行するために、三つの研究分野が設置されている。

臓器置換・異種移植外科分野(山田和彦教授)では、先進医用ミニブタの開発と前臨床研究拠点形成を主たるプロジェクトとし、国内外における大動物(ミニブタ・サル)を用いた前臨床移植研究(Translational Transplantation Research)の中核拠点としての地位を確立し、特に「同種移植での免疫寛容誘導方法の確立と異種臓器移植の臨床応用を目指す」ことを最終的な研究目標として掲げ、臓器・細胞移植(同種・異種)および再生医療を中心とした研究課題を進めている。

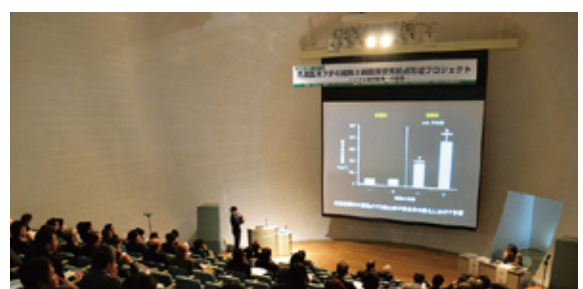
遺伝子発現制御学分野(佐藤正宏教授)では、遺伝子工学及び細胞工学的な方法を用いて、ブタ細胞のゲノム改変(遺伝子の強発現、標的遺伝子の破壊など)に関する新規技術の開発を展開している。この細胞を起点にブタからヒトへの異種移植が可能な医用ブタの開発を目指している。他方、マウスを用い臓器や生殖細胞への生体内遺伝子導入法の開発も行い、発生工学の基盤技術開拓も手掛けている。

先端医療開発分野(高尾尊身教授)では、癌幹細胞プロジェクトとして、浸潤・転移・薬剤耐性など癌の特性を担う癌幹細胞に対する治療戦略の開発研究、腫場内微小環境で癌細胞を取り巻く宿主の細胞群と癌細胞との相互作用における癌幹細胞の役割についての基礎研究およびミニブタを用いた内視鏡手術の教育と開発を研究課題の中心としている。

また産学官および一般市民を対象とした公開シンポジウムを積極的に開催することによって、研究プロジェクトに対する幅広い理解を得る機会を設けている。



▲国内初となる異種移植抗原をノックアウトしたGalT-KOブタ腎のサルへの異種移植の成功例(臓器置換・異種移植外科分野)



▲先進医用ブタの開発と前臨床拠点形成プロジェクト第2回公開シンポジウム「ブタの医用動物への展開」の開催(2012年3月22日)

産学官連携推進センター

産学官連携推進センターは、鹿児島大学が地域とともに社会に貢献するために、産業界や地方公共団体などと鹿児島大学の教員の連携活動を計画・推進・支援することを目的としている。

産学官連携部門

地域社会、地方公共団体や民間企業等外部機関との共同研究、技術開発、技術教育などに関する要請に対して、地域の拠点である鹿児島大学のさまざまな「知」を広く社会に提供するための基盤とネットワークの整備、企画、コーディネートを行っている。

知的財産部門

教育研究活動の中で生まれた発明等の知的財産の創出、権利化、活用を一元的に取り扱い、学生および教職員に対する教育・啓発活動を行っている。また、研究者と情報交換を行い、研究戦略と特許戦略の連携を図り、本学教員の研究環境の向上、ひいては、本学の国際競争力強化を目指している。

事業化支援部門

ベンチャー企業や産学官連携事業のためのインキュベーション機能を有する教育研究施設。インキュベーションプロジェクトとしては、ナノテクノロジー・バイオテクノロジー関連および社会科学関連の研究テーマも受け入れている。

ベンチャー創業時に必要な実践ビジネス教育プログラムとして、「知的財産戦略構築実務論」や「技術経営と社会連携」を大学院科目として開講している。

管理部門

センターの学内外総合窓口、センターの会議および各種事務業務等を担う管理部門を置き、研究国際部社会連携課が担当している。



▲産学官連携推進センター



◀研究シーズ集(2012)

地域防災教育研究センター

南九州から南西諸島につらなる地域では、豪雨、台風、火山噴火、地震などに起因する様々な自然災害(風水害、土砂・地盤災害、火山・地震災害、津波災害等)が発生している。地域防災教育研究センターは、それら自然災害の防止と軽減を図るため、災害の実態解明、予測、防災教育、災害応急対応、災害復旧復興等の課題に地域と連携し、組織的に取り組み、地域防災体制の向上に貢献することを目的として、平成23年6月に設置された施設である。

なお本センターでは上記した自然災害だけでなく、原発立地県であることも考慮して、以下のような部門・分野を置き、地域防災力の向上のための活動を行っている。

調査研究部門

総合防災分野: 災害時の応急対応、災害心理・心のケア、医療・福祉、ライフライン、復旧復興策、防災対策、警戒避難等に関する調査研究

水害・土砂災害分野: 台風、大雨によって引き起こされる洪水害や山崩れ、土石流などによる土砂災害に関する調査研究

火山災害分野: 桜島や霧島等の噴火に伴う災害に関する調査研究

地震・津波災害分野: 地震・津波によって引き起こされる災害に関する調査研究

放射線災害分野: 放射線によって引き起こされる災害に関する調査研究

教育部門

- 本学の共通教育・専門教育・大学院教育、小・中・高等学校、市民講座等における防災教育の企画・運営

- 地域防災の核となる防災リーダーの養成支援

地域連携部門

- 地方公共団体、地域住民と連携して地域防災に係る課題の解決

- 市民、マスコミ等からの防災に関する問い合わせの対応



▲センター1周年企画シンポジウム



▲津波防災シンポジウム

国際連携推進センター

国際連携推進センター(KUCIP:Kagoshima University Center for International Planning)は、国際企画推進室の中核組織として、留学生センター及び北米センターとの連携強化を図り、本学の国際化を推進することを業務とする。学長補佐(国際担当)をセンター長とし、専任教員2名が配置されている。

本センターは、教育研究を通じた国際交流や国際社会への貢献を展開するために、次の機能を有している。

- ①国際的な教育プログラムの企画及び実施
- ②国際的な研究・協力プロジェクトの支援
- ③海外の研究機関・大学との連携強化
- ④国際社会に向けた情報発信



▲タイ学生海外研修の様子

男女共同参画推進センター

男女共同参画推進センター(愛称:“muse缪姆”)は、平成23年3月に策定した鹿児島大学における「男女共同参画推進に係る長期(10年)及び短期(3年)行動計画」に基づき、男女共同参画に関する広報・意識啓発活動、教職員のワーク・ライフ・バランスに配慮した教育・研究環境及び就業環境の整備・充実、学生のキャリア形成支援や中高生向け進路選択支援事業などに積極的に取り組んでいる。

また、平成23年度には、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、女性研究者の積極的な採用・登用及び次世代女性研究者の裾野拡大に向けて、研究支援や相談体制の充実などの取組を展開している。



▲女子中高生のための鹿大科学体験塾

鹿児島大学男女共同参画基本理念(平成22年1月制定)

鹿児島大学は、大学憲章の精神に則り、教育・研究機関として男女共同参画のもとに社会貢献を続けることができる人材を育成・支援し、個々を尊重するとともに、一人ひとりがあらゆる場面において個性と能力を発揮できる大学を実現します。

「一人ひとりが伸びやかに 自分らしく輝くために」



男女共同参画推進センター
シンボルマーク

※muse(むぜ)

ギリシャ神話の女神「ムーサ」の英語名であるとともに、鹿児島弁の「むぜ(かわいい)」を掛けた表現。

ボランティア支援センター

ボランティア支援センターは、鹿児島大学生のボランティア活動の推進およびその支援を図ることを目的として、平成20年7月に設置された。

同センターは、学生が様々なボランティアに参加し、地域との関わりを持つことで人間力を高め、学生による地域貢献や地域の活性化を図るため、ボランティア教育への支援や災害等発生時の復旧支援活動、ボランティアに関する情報の収集・提供、ボランティア関係機関・団体との連絡調整などの業務を行っている。

また、同センターは、従来のボランティア活動に加え、次のようなボランティアプロジェクトを計画し、支援することとしており、特に②の災害ボランティアについては、平成23年4月から災害ボランティアを行う学生に対する経済的支援として、活動費の一部助成を行っている。

- ① 教育補助等ボランティア
- ② 災害ボランティア
- ③ 観光ボランティア
- ④ 限界集落支援ボランティア
- ⑤ 希少生物保護ボランティア
- ⑥ キャンパスクリーンボランティアなど



▲ ボランティア支援センターのオフィス

東京リエゾンオフィス

東京リエゾンオフィスは、首都圏における活動、情報の収集および発信等を活発に行うため、平成16年12月に東京都港区芝浦のキャンパス・イノベーションセンター（CIC）内に設置された。

主に、鹿児島大学の各種情報（大学概要・広報誌等）の提供、入試情報（各学部・研究科案内および募集要項等）の提供、首都圏における学生の就職支援および企業との技術相談・共同研究等に関する連絡調整、各同窓会との連絡調整を行っている。

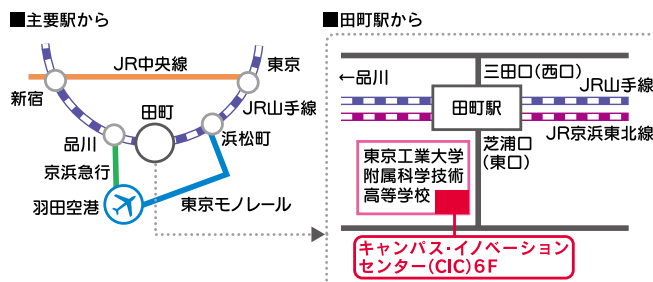
■ 交通アクセス

1.所在地

〒108 - 0023 東京都港区芝浦三丁目3番6号
キャンパス・イノベーションセンター（CIC）607号室

2.アクセス

JR田町駅 芝浦口（東口）から徒歩1分



▲ オフィスの様子



▲ キャンパス・イノベーションセンター（CIC）

教育関係共同利用拠点：水産学部附属練習船かごしま丸

平成24年3月30日に新しい「かごしま丸(4代目)」が竣工し、平成24年度から運航を開始している。この船は、斜め移動やその場回頭などが可能な特殊操船能力を持った新鋭船である。今まで出来なかった荒海中での実験・観測をはじめ、最新の観測機器の導入による新しい研究・教育の充実が可能となった。この船は前かごしま丸(3代目)に引き続き、文部科学大臣から教育関係共同利用拠点としての認定を受けている。この認定制度は、練習船ばかりでなく、留学生センターや農場などさまざまな教育関係施設の中から、我が国の高等教育の重点分野ごとに、施設を保有する大学以外の大学の学生・大学院生にも質の高い教育を提供する拠点を形成していくために、新たに設けられたものである。具体的には、かごしま丸は、「熱帯・亜熱帯水域における洋上教育のための共同利用拠点」として認定された。これは、我が国南方の熱帯・亜熱帯水域が、水産資源や地球環境に大きな影響を及ぼすことと、この水域で長年活動してきたかごしま丸及び本学の実績が認められたものである。このため、本学学生ばかりでなく他大学の学生も、本船を利用して充実した乗船実習教育を受け単位を取得できるようになった。今後は、我が国ばかりでなく東南アジア・南太平洋水域も含めた、洋上教育の拠点としての活動が期待されている。



■学 部

(平成25年5月1日現在)

学 部	学 科・課 程	入 学 定 員	3年次 編入学 定 員	収 容 定 員	現 員							
					1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計	
法文学部	法 政 策 学 科	95	10	380	101 (48)	95 (39)	104 (42)	124 (52)	-	-	424 (181)	
	経 済 情 報 学 科	145		580	150 (66)	151 (85)	153 (68)	177 (81)	-	-	631 (300)	
	人 文 学 科	155		620	160 (113)	161 (122)	165 (129)	204 (159)	-	-	690 (523)	
	小 計	395		1,600	411 (227)	407 (246)	422 (239)	505 (292)	-	-	1,745 (1,004)	
教育学部	学校教育教員養成課程	225	10	900	229 (115)	227 (117)	237 (123)	287 (150)	-	-	980 (505)	
	特別支援教育教員養成課程	15		60	15 (10)	15 (11)	16 (12)	19 (14)	-	-	65 (47)	
	生涯教育総合課程	35		140	38 (25)	36 (18)	42 (28)	50 (33)	-	-	166 (104)	
	小 計	275		1,100	282 (150)	278 (146)	295 (163)	356 (197)	-	-	1,211 (656)	
理学部	数理情報科学科	40	10	160	41 (2)	43 (2)	54 (11)	40 (3)	-	-	178 (18)	
	物 理 科 学 科	45		180	49 (9)	49 (12)	72 (13)	36 (2)	-	-	206 (36)	
	生 命 化 学 科	50		200	51 (19)	54 (20)	59 (27)	47 (14)	-	-	211 (80)	
	地球環境科学科	50		200	51 (20)	53 (18)	59 (18)	55 (19)	-	-	218 (75)	
	小 計	185		740	192 (50)	199 (52)	244 (69)	178 (38)	-	-	813 (209)	
医学部	医 学 科	107	10	692	108 (42)	119 (28)	129 (58)	107 (29)	108 (28)	108 (42)	679 (227)	
	保 健 学 科	120	20	520	121 (90)	124 (96)	134 (103)	127 (106)	-	-	506 (395)	
	小 計	227	30	1,212	229 (132)	243 (124)	263 (161)	234 (135)	108 (28)	108 (42)	1,185 (622)	
歯学部	歯 学 科	53		318	56 (30)	53 (26)	57 (21)	47 (19)	56 (27)	51 (17)	320 (140)	
工学部	機 械 工 学 科	94	20	376	120 (0)	116 (2)	107 (1)	92 (1)	-	-	435 (4)	
	電 気 電 子 工 学 科	78		312	98 (2)	97 (1)	99 (5)	78 (2)	-	-	372 (10)	
	建 築 学 科	55		220	69 (24)	60 (12)	77 (24)	58 (18)	-	-	264 (78)	
	環境化学プロセス工学科	35		140	40 (10)	48 (7)	36 (7)	37 (7)	-	-	161 (31)	
	海洋土木工学科	48		192	56 (6)	57 (7)	51 (3)	45 (4)	-	-	209 (20)	
	情報生体システム工学科	80		320	97 (8)	98 (17)	90 (15)	77 (12)	-	-	362 (52)	
	化学生命工学科	50		200	54 (19)	53 (15)	57 (17)	57 (21)	-	-	221 (72)	
	応用化学工学科※						1 (0)		-	-	1 (0)	
	情報工学科※						4 (0)	8 (0)		-	-	12 (0)
	生体工学科※						1 (0)			-	-	1 (0)
	小 計	440		1,800	534 (69)	529 (61)	523 (72)	452 (65)	-	-	2,038 (267)	
農学部	生物生産学科	80	10	320	84 (40)	90 (44)	82 (38)	95 (44)	-	-	351 (166)	
	生物資源化学科	60		240	63 (29)	63 (40)	64 (38)	73 (30)	-	-	263 (137)	
	生物環境学科	65		260	69 (21)	65 (26)	70 (19)	73 (23)	-	-	277 (89)	
	獣医学科※						32 (20)	32 (14)	30 (14)	32 (14)	126 (62)	
	小 計	205		820	216 (90)	218 (110)	248 (115)	273 (111)	30 (14)	32 (14)	1,017 (454)	
水産学部	水 産 学 科	130	10	520	132 (28)	129 (49)	149 (42)	151 (47)	-	-	561 (166)	
	水産教員養成課程	10		40	10 (4)	10 (4)	11 (3)	9 (3)	-	-	40 (14)	
	小 計	140		560	142 (32)	139 (53)	160 (45)	160 (50)	-	-	601 (180)	
共同獣医学部	獣 医 学 科	30		180	32 (12)	31 (11)					63 (23)	
合 計		1,950	60	8,330	2,094 (792)	2,097 (829)	2,212 (885)	2,205 (907)	194 (69)	191 (73)	8,993 (3,555)	

- (注) 1. ()は女子で内数。
 2. 現員には外国人留学生を含む。
 3. 医学部医学科の編入学定員は2年次後期の編入学定員。
 4. ※印は旧学科(課程)である。

<東京海洋大学水産専攻科>

入 学 定 員	現 員
10	7

- (注) 1. 水産学部の学生は連携により東京海洋大学水産専攻科に進学することができる。
 2. この専攻科を修了した者は、海技士として船舶運航に従事するために必要な資格を得ることができる。

■大学院

(平成25年5月1日現在)

研究科	入学定員	収容定員	現 員								合 計
			修士課程(博士前期)			博士課程(博士後期)又は専門職学位課程					
			1年	2年	計	1年	2年	3年	4年	計	
人文社会科学研究科	28	56	26 (12)	31 (10)	57 (22)	-	-	-	-	-	57 (22)
	6	18	-	-	-	2 (1)	7 (2)	12 (3)	-	21 (6)	21 (6)
教育学研究科	38	76	36 (13)	39 (8)	75 (21)	-	-	-	-	-	75 (21)
保健学研究科	22	44	17 (8)	25 (16)	42 (24)	-	-	-	-	-	42 (24)
	6	18	-	-	-	5 (3)	4 (0)	18 (13)	-	27 (16)	27 (16)
理工学研究科	286	572	265 (33)	295 (47)	560 (80)	-	-	-	-	-	560 (80)
	24	72	-	-	-	21 (6)	21 (4)	34 (5)	-	76 (15)	76 (15)
農学研究科	69	138	61 (21)	68 (21)	129 (42)	-	-	-	-	-	129 (42)
水産学研究科	32	64	37 (8)	33 (6)	70 (14)	-	-	-	-	-	70 (14)
医歯学総合研究科	10	20	12 (5)	10 (7)	22 (12)	-	-	-	-	-	22 (12)
	50	200	-	-	-	51 (13)	55 (17)	48 (15)	196 (49)	350 (94)	350 (94)
医学研究科※			-	-	-	-	-	-	12 (2)	12 (2)	12 (2)
司法政策研究科	15	45	-	-	-	6 (4)	6 (4)	8 (3)	-	20 (11)	20 (11)
臨床心理学研究科	15	30	-	-	-	15 (14)	14 (10)	-	-	29 (24)	29 (24)
連合農学研究科	23	69	-	-	-	27 (7)	39 (12)	55 (19)	-	121 (38)	121 (38)
計	624	1,422	454 (100)	501 (115)	955 (215)	127 (48)	146 (49)	175 (58)	208 (51)	656 (206)	1,611 (421)
山口大学大学院連合獣医学研究科	12		-	-	-	7 (0)	4 (2)	5 (2)	6 (2)	22 (6)	22 (6)

(注) 1. ()は女子で内数。

2. 現員には外国人留学生を含む。

3. 司法政策研究科(法科大学院)、臨床心理学研究科は専門職学位課程である。

4. 連合農学研究科は鹿児島・佐賀・琉球の3大学の構成によるものである。

5. 山口大学大学院連合獣医学研究科の現員数は、鹿児島大学(指導教員)に属する学生数である。

6. ※印は旧研究科である。

■大学院の社会人選抜入学者数

(平成25年5月1日現在)

研究科	平成25年度	
人文社会科学研究科	博士前期	10
	博士後期	-
教育学研究科		6
保健学研究科	博士前期	15
	博士後期	3
理工学研究科	博士前期	1
	博士後期	6
農学研究科		2
水産学研究科		-
医歯学総合研究科	修士課程	6
	博士課程	15
司法政策研究科		-
臨床心理学研究科		-
連合農学研究科		-
計		64

(注) 現職教員を含む。

学部

(平成25年度)

学 部	入学定員	志 願 者 数	入 学 者 数	入学者の出身地別割合(%)	
				県 内	県 外
法 文 学 部	395	1,447 (745)	411 (227)	56.0	44.0
教 育 学 部	275	1,021 (529)	282 (150)	62.1	37.9
理 学 部	185	555 (135)	192 (50)	37.5	62.5
医 学 部	227	1,589 (709)	228 (132)	55.3	44.7
歯 学 部	53	323 (150)	53 (30)	26.4	73.6
工 学 部	440	1,397 (195)	467 (68)	40.7	59.3
農 学 部	205	667 (302)	216 (90)	30.1	69.9
水 産 学 部	140	699 (207)	142 (32)	28.9	71.1
共同獣医学部	30	164 (69)	32 (12)	37.5	62.5
合 計	1,950	7,862 (3,041)	2,023 (791)	45.7	54.3

※()内は女子を内数で表す。

○入学者出身地別内訳(出身高校等所在地による)

(注) その他は、高等学校卒業程度認定試験合格(従前の大学入学資格検定合格を含む)の入学者を表す。

九州地区

	法	教	理	医	歯	工	農	水	獣	合計
鹿児島	230	175	72	126	14	190	65	41	12	925
沖縄	2	0	3	2	2	0	1	1	1	12
宮崎	40	17	27	16	2	53	16	5	1	177
大分	21	10	11	7	2	27	9	5	0	92
熊本	32	24	15	15	5	52	17	8	3	171
長崎	21	12	11	8	3	40	24	4	1	124
佐賀	4	6	5	4	2	4	4	0	0	29
福岡	42	19	22	23	5	66	47	10	5	239
合計	392	263	166	201	35	432	183	74	23	1,769

北海道地区

法	0
教	0
理	3
医	2
歯	1
工	1
農	0
水	2
獣	0

東北地区

法	0
教	0
理	1
医	0
歯	0
工	0
農	0
水	1
獣	0

中部地区

法	1
教	5
理	1
医	3
歯	1
工	3
農	7
水	13
獣	2

中国地区

法	7
教	8
理	5
医	5
歯	3
工	9
農	11
水	10
獣	2

関東地区

法	2
教	2
理	3
医	5
歯	4
工	4
農	0
水	15
獣	2

近畿地区

法	3
教	2
理	8
医	8
歯	9
工	12
農	11
水	19
獣	1

四国地区

法	2
教	2
理	2
医	3
歯	0
工	3
農	3
水	8
獣	1

外国の学校

法	2
教	0
理	2
医	1
歯	0
工	3
農	1
水	0
獣	0

その他

法	2
教	0
理	1
医	0
歯	0
工	0
農	0
水	0
獣	1

沖縄

合計	12
----	----

29

124

239

925

171

177

92

24

60

73

36

37

2

9

■大学院(志願者・受験者・合格者状況)

【修士課程・博士前期課程】

(平成25年度)

研究科	専攻等	入学定員	志願者数					受験者数					合格者数					入学者数
			一般	社会人	留学生	推薦	計	一般	社会人	留学生	推薦	計	一般	社会人	留学生	推薦	計	
人文社会科学研究科	法学	5	2	4	0	-	6	2	4	0	-	6	2	4	0	-	6	6
	経済社会システム	10	6	5	1	-	12	6	5	1	-	12	2	5	1	-	8	7
	人間環境文化論	5	1	0	4	-	5	0	0	4	-	4	0	0	4	-	4	4
	国際総合文化論	8	4	2	3	-	9	4	2	3	-	9	4	2	3	-	9	9
	計	28	13	11	8	-	32	12	11	8	-	31	8	11	8	-	27	26
教育学研究科	教育実践総合	38	27	7	6	-	40	27	7	6	-	40	27	6	5	-	38	36
保健学研究科	看護学	12	0	6	0	-	6	0	6	0	-	6	0	6	0	-	6	5
	理学療法・作業療法	10	2	10	0	-	12	2	10	0	-	12	2	10	0	-	12	12
	計	22	2	16	0	-	18	2	16	0	-	18	2	16	0	-	18	17
理工学研究科	機械工学	50	69	0	1	-	70	68	0	1	-	69	57	0	1	-	58	50
	電気電子工学	45	67	0	0	-	67	63	0	0	-	63	49	0	0	-	49	46
	建築学	25	26	0	0	-	26	23	0	0	-	23	22	0	0	-	22	20
	化学生命・化学工学	42	57	0	1	-	58	55	0	1	-	56	46	0	1	-	47	42
	海洋土木工学	18	23	0	0	-	23	19	0	0	-	19	18	0	0	-	18	11
	情報生体システム工学	42	46	0	5	-	51	45	0	5	-	50	38	0	5	-	43	40
	数理情報科学	14	11	0	0	-	11	9	0	0	-	9	9	0	0	-	9	8
	物理・宇宙	15	44	0	0	-	44	42	0	0	-	42	20	0	0	-	20	19
	生命化学	18	25	0	0	-	25	24	0	0	-	24	20	0	0	-	20	15
	地球環境科学	17	14	1	0	-	15	14	1	0	-	15	14	1	0	-	15	14
	計	286	382	1	7	-	390	362	1	7	-	370	293	1	7	-	301	265
農学研究科	生物生産学	26	29	0	4	-	33	27	0	4	-	31	24	0	4	-	28	28
	生物資源化学	21	16	0	0	2	18	15	0	0	2	17	13	0	0	2	15	13
	生物環境学	22	20	2	0	2	24	19	2	0	2	23	17	2	0	2	21	20
	計	69	65	2	4	4	75	61	2	4	4	71	54	2	4	4	64	61
水産学研究科	水産学	32	44	0	8	-	52	40	0	8	-	48	32	0	8	-	40	37
医歯学総合研究科	医科学	10	7	9	0	-	16	7	9	0	-	16	6	6	0	-	12	12
	合計	485	540	46	33	4	623	511	46	33	4	594	422	42	32	4	500	454

※教育学研究科の「社会人」は、「現職教員等」を表す。

【博士課程・博士後期課程】

(平成25年度)

研究科	専攻	入学定員	志願者数				受験者数				合格者数				入学者数
			一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	
人文社会科学研究科	地域政策科学	6	0	1	1	4	0	1	1	4	0	0	1	3	2
			2		2										
保健学研究科	保健学	6	2	3	0	5	2	3	0	5	2	3	0	5	5
理工学研究科	物質生産科学	8	3	2	0	5	3	2	0	5	3	2	0	5	5
	システム情報科学	8	4	2	1	7	4	2	1	7	4	2	1	7	6
	生命環境科学	8	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6	6
	計	24	9	6	3	18	9	6	3	18	9	6	3	18	17
医歯学総合研究科	健康科学	19	10	5	1	16	10	5	1	16	10	4	1	15	14
	先進治療科学	31	16	11	2	29	16	11	2	29	16	11	2	29	29
	計	50	26	16	3	45	26	16	3	45	26	15	3	44	43
連合農学研究科	生物生産科学	7	4	2	2	8	4	2	2	8	4	2	2	8	8
	応用生命科学	8	2	2	4	8	2	2	4	8	2	2	4	8	8
	農水圏資源環境科学	8	1	2	6	9	1	2	6	9	1	2	6	9	9
	計	23	7	6	12	25	7	6	12	25	7	6	12	25	25
	合計	109	-	-	-	97	-	-	-	97	-	-	-	95	92

※人文社会科学研究科の下段は、進学者選考の数を表す。

【専門職学位課程】

(平成25年度)

研究科	専攻	入学定員	志願者数				受験者数				合格者数				入学者数
			一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	一般	社会人	留学生	計	
司法政策研究科	法曹実務	15	10	-	-	10	8	-	-	8	4	-	-	4	4
臨床心理学研究科	臨床心理学	15	35	0	0	35	35	0	0	35	15	0	0	15	15
	合計	30	45	0	0	45	43	0	0	43	19	0	0	19	19

■卒業生数・就職状況

(平成25年5月1日現在)

学部	卒業生数 (累計)	平成24年度 卒業生数	就職状況																
			就職希望者数	就職者数	就職率(%)	業種別						地区別							
						農林業 漁業	建設製造 電気ガス水道 情報通信運輸 卸売・小売	金融保険 医療福祉 教育学習 サービス	公務員	教員	その他	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	鹿児島 県内	その他
法文学部	15,047	396	319	283	88.7		78	119	56	6	24	44	2	3	4	1	97	132	
教育学部	18,144	284	220	181	82.3		19	35	14	108	5	5		2		2	47	123	2
理学部	6,522	176	85	81	95.3		26	23	14	15	3	6	2	3	2	2	37	28	1
医学部	6,425	225	111	110	99.1		1	101	7	1		7		5	1		41	56	
歯学部	1,854	56																	
工学部	16,997	397	164	156	95.1		110	22	19		5	54	14	20	1		30	36	1
農学部	12,095	236	153	148	96.7	9	56	40	26	3	14	14	10	7	5		64	42	6
水産学部	7,291	126	74	73	98.6	5	44	13	9	1	1	19	6	6	3	1	20	17	1
(文理学部)	2,651																		
合計	87,026	1,896	1,126	1,032	91.7	14	334	353	145	134	52	149	34	46	16	6	336	434	11

(注) 1. 卒業生数(累計)は昭和24年5月本学設置以降の全数を計上した。ただし、医・工学部については昭和30年国立移管以降について計上した。
 2. 卒業生数は9月卒業生を含む。
 3. 医学部の就職状況は保健学科を表す。

■大学院修了生数

(平成25年5月1日現在)

研究科	修士課程・博士前期課程		博士課程・博士後期課程		専門職学位課程	
	修了生数 (累計)	平成24年度 修了生数	修了生数 (累計)	平成24年度 修了生数	修了生数 (累計)	平成24年度 修了生数
人文社会科学 研究科	482	22	13	1	-	-
教育学 研究科	671	35	-	-	-	-
保健学 研究科	189	20	2	-	-	-
医学 研究科 *	-	-	580	4	-	-
理工学 研究科	5,492	282	342	12	-	-
農学 研究科	1,928	49	-	-	-	-
水産学 研究科	1,096	34	-	-	-	-
医歯学総合 研究科	134	17	227	56	-	-
司法政策 研究科	-	-	-	-	122	8
臨床心理学 研究科	-	-	-	-	74	17
連合農学 研究科	-	-	641	24	-	-
法学 研究科 *	123	-	-	-	-	-
人文科学研究科 *	120	-	-	-	-	-
理学 研究科 *	539	-	-	-	-	-
歯学 研究科 *	-	-	112	-	-	-
計	10,774	459	1,917	97	196	25

(注) 1. 博士課程については、単位修得後退学した者は含まない。
 2. *印は旧研究科である。

■学位授与状況

(平成25年5月1日現在)

研究科	修士課程・博士前期課程		博士課程・博士後期課程				専門職学位課程	
	累計	平成24年度 授与	課程		論文		累計	平成24年度 授与
			累計	平成24年度授与	累計	平成24年度授与		
人文社会科学 研究科	482	22	21	2	-	-	-	-
教育学 研究科	671	35	-	-	-	-	-	-
保健学 研究科	189	20	6	1	-	-	-	-
医学 研究科	-	-	698	4	1,484	-	-	-
歯学 研究科	-	-	136	-	71	-	-	-
理工学 研究科	5,492	282	384	14	64	1	-	-
農学 研究科	1,928	49	-	-	-	-	-	-
水産学 研究科	1,096	34	-	-	-	-	-	-
医歯学総合 研究科	134	17	241	59	9	4	-	-
司法政策 研究科	-	-	-	-	-	-	122	8
臨床心理学 研究科	-	-	-	-	-	-	74	17
連合農学 研究科	-	-	781	34	132	3	-	-
(法学 研究科)	123	-	-	-	-	-	-	-
(人文科学研究科)	120	-	-	-	-	-	-	-
(理学 研究科)	539	-	-	-	-	-	-	-
計	10,774	459	2,267	114	1,760	8	196	25

(注) 医学研究科については、昭和30年国立移管後の数を計上した。

■奨学生状況

(平成25年5月1日現在)

学部・研究科等	在学生数	日本学生支援機構		各種団体 育英会	計	在学生に対する 百分率	
		第一種奨学生	第二種奨学生				
学部	法文学部	1,745	333	543	31	907	52.0
	教育学部	1,211	237	348	15	600	49.5
	理学部	813	163	272	13	448	55.1
	医学部	1,185	201	295	19	515	43.5
	歯学部	320	45	79	3	127	39.7
	工学部	2,038	379	679	28	1,086	53.3
	農学部	1,017	198	288	18	504	49.6
	水産学部	601	82	169	9	260	43.3
	共同獣医学部	63	6	11		17	27.0
計	8,993	1,644	2,684	136	4,464	49.6	
大学院 (修士課程・ 博士前期課程)	人文社会科学研究科	57	9	2		11	19.3
	教育学研究科	75	20	1		21	28.0
	保健学研究科	42	2	1		3	7.1
	理工学研究科	560	173	20	1	194	34.6
	農学研究科	129	32	4	1	37	28.7
	水産学研究科	70	11	3	1	15	21.4
	医歯学総合研究科	22					0.0
	計	955	247	31	3	281	29.4
大学院 (博士課程・ 博士後期課程)	人文社会科学研究科	21	1			1	4.8
	保健学研究科	27	4	1		5	18.5
	理工学研究科	76	17	1	2	20	26.3
	医歯学総合研究科	350	19	1	2	22	6.3
	連合農学研究科	121	18	1	1	20	16.5
	医学研究科	12					0.0
計	607	59	4	5	68	11.2	
大学院 (専門職学位課程)	司法政策研究科	20	7	3	1	11	55.0
	臨床心理学研究科	29	8			8	27.6
合計	10,604	1,965	2,722	145	4,832	45.6	

<備考:日本学生支援機構奨学金月額(平成25年度入学者)>

- 第一種奨学生
 - 学部生:自宅通学30,000・45,000円/自宅外通学 30,000・45,000円・51,000円
 - 大学院生:修士・博士前期課程 50,000・88,000円/博士後期課程80,000・122,000円
- 第二種奨学生
 - 学部生:30,000・50,000・80,000・100,000円・120,000円
 - 大学院生:50,000・80,000・100,000・130,000円・150,000円

■大学独自の経済支援制度

(1)鹿兒島大学大学院メディポリス教育振興基金授業料免除

大学院に在籍する学生の修学・研究環境の向上等を図ることを目的として、財団法人メディポリス医学研究財団からの寄附金を原資とした鹿兒島大学大学院メディポリス教育振興基金を平成23年度に設立し、学業、人物ともに優れ、かつ経済的支援を必要とする大学院学生(外国人留学生含む)に対して、毎年度、後期の授業料全額免除を実施している。

なお、平成24年度からは、後期の授業料全額免除者35名に加え、大学院学生1名に対して、後期授業料相当額の奨学金を支給している。

(2)鹿兒島大学学業成績優秀学生奨学金

学生の勉学意欲の向上及び優秀な人材の輩出などを図ることを目的に、平成19年度から新入生を対象に開始したスタートダッシュ学資金制度(大学院生は平成20年度から開始)を見直し、平成23年度からは対象者(外国人留学生含む。)を学部の全学年に拡大するとともに、在籍中の成績評価により奨学金を給付する制度に改め、毎年度85名の学生に支給している。

なお、大学院生を対象としたスタートダッシュ学資金制度は、上記授業料免除制度に移行した。

(3)種村完司私費外国人留学生奨学金

鹿兒島大学名誉教授で、元教育学生担当理事の種村完司氏からの寄附金を原資として、本学に在籍するアジア諸国からの私費外国人留学生を支援するために、平成22年7月に設立されたもの。出入国管理及び難民認定法別表第1の4の表に規定する「留学」の在留資格を有する者で、本学の学部及び大学院の正規課程に在籍する私費外国人留学生を対象として、毎年度5名の学生に支給している。

学生等

■附属学校

【教育学部附属幼稚園】

(平成25年5月1日現在)

附属幼稚園	入園定員	現 員				学 級 数
		3歳児	4歳児	5歳児	計	
	3年保育 20	20	34	35	89	3歳児、4歳児、5歳児 各1学級 計3学級
	2年保育 15					

(注)4歳児は3年保育進級児と2年保育入園児、5歳児は4歳児の進級児

【教育学部附属小学校】

(平成25年5月1日現在)

附属小学校	学級区分	入学定員	現 員						学 級 数	
			1年	2年	3年	4年	5年	6年		計
单式学級	1~2年	140	139	137					880	各学年4学級 計24学級
	3~6年	160			154	152	150	148		
複式学級	1年	8	8					47	1・2年で1学級	
	2年	8		7					3・4年で1学級 計3学級	
	3年	8			8				5・6年で1学級	
	4年	8				8				
	5年	8					8			
6年	8						8			
計	1~2年 148 3~6年 168		147	144	162	160	158	156	927	計27学級

【教育学部附属中学校】

(平成25年5月1日現在)

附属中学校	学級区分	入学定員	現 員				学 級 数
			1年	2年	3年	計	
	普通学級	200	200	199	198	597	各学年5学級 計15学級

【教育学部附属特別支援学校】

(平成25年5月1日現在)

附属特別支援学校	学級区分	入学定員	現 員						学 級 数	
			1年	2年	3年	4年	5年	6年		計
	小学部	3	3	3	3	3	3	3	18	1・2学年で1学級 3・4学年で1学級 計3学級 5・6学年で1学級
	中学部	6	6	6	6	-	-	-	18	各学年1学級 計3学級
	高等部	8	8	8	8	-	-	-	24	各学年1学級 計3学級

■特別経費(運営費交付金)

区 分	事業名	部局(実施主体)	平成25年度 運営費交付金予算額 (単位:千円)	事業期間
幅広い職業人の養成や 教養教育機能の充実	学生一人一人の「人文系共通技能」を伸ばす学士課程の構築	法文学部	6,980	平成22～25年度
大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実	「動く遺伝子」のゲノム侵入機構の解析と「運び屋」による汎用型遺伝子導入システムの開発	農学部	8,491	平成22～25年度
	治療法の確立をめざした動脈硬化モデル大動物開発	医歯学総合研究科	11,819	平成22～26年度
	難治性の慢性ウイルス疾患を対象とした医・理工連携による先端的発症予防・治療法確立を目指した基盤構築 ー鹿児島県に多発するATL,HAM および、AIDS,ウイルス肝炎に対する新規発症予防・治療法の開発に向けてー	医歯学総合研究科	35,518	平成25～29年度
地域貢献機能の充実	南九州から南西諸島における総合的防災研究の推進と地域防災体制の構築	地域防災 教育研究センター	45,000	平成24～28年度
	増養殖環境保全のための赤潮モニタリングおよび対策法の高度化 ー南九州における赤潮研究拠点の構築ー	水産学部	38,807	平成25～29年度
教育関係共同 実施分	かごしま丸の熱帯・亜熱帯水域洋上教育共同利用拠点機能の充実	水産学部 附属練習船かごしま丸	13,366	平成23～26年度

■リポジトリ

(平成25年3月31日現在)

学 部 等	論 文 数
法 文 学 部	891
教 育 学 部	1,714
理 学 部	583
歯 学 部	187
工 学 部	980
農 学 部	2,318
水 産 学 部	1,010
医 学 部	33
共 同 獣 医 学 部	1
人 文 社 会 学 研 究 科	44
理 工 学 研 究 科	143
医 歯 学 総 合 研 究 科	200
保 健 学 研 究 科	1
司 法 政 策 研 究 科 (法 科 大 学 院)	2
臨 床 心 理 学 研 究 科 (専 門 職 大 学 院)	0
連 合 農 学 研 究 科	84
学 内 共 同 教 育 研 究 施 設 等	1,226
山 口 大 学 連 合 獣 医 学 研 究 科	4
医 学 部 ・ 歯 学 部 附 属 病 院	32
教 養 部 (1965.4-1997.3)	15
関 連 学 会 等	8
計	9,476



(注)鹿児島大学の研究成果(学術論文、紀要論文、博士論文等)をデータベース(機関リポジトリ)に恒久的に保存し、インターネットを通じて一般公開している。
<http://ir.kagoshima-u.ac.jp>

■学術刊行物

学 部	刊 行 物	発 行 回 数
法 文 学 部	鹿児島大学法文学部紀要(法学論集、経済学論集、人文学科論集)	年 2 回
	鹿児島大学法文学部国語国文学会誌(国語国文学薩摩路)	年 1 回
	鹿大史学会誌(鹿大史学)	年 1 回
	鹿児島大学英文学会誌(鹿大英文学)	年 1 回
	地域政策科学研究	年 1 回
	Discussion Papers In Economics and Sociology	不 定 期
教 育 学 部	鹿児島大学教育学部研究紀要(人文・社会科学編、自然科学編、教育科学編)	年 1 回
	鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属幼稚園研究誌	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属小学校研究紀要	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属中学校研究紀要	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属特別支援学校研究紀要	隔 年 1 回
理 学 部	鹿児島大学理学部紀要	年 1 回
医 学 部	鹿児島大学医学雑誌	年 2 回
	鹿児島大学医学部保健学科紀要	年 1 回
歯 学 部	鹿児島大学歯学部紀要	年 1 回
工 学 部	鹿児島大学工学部研究報告	年 1 回
農 学 部	鹿児島大学農学部学術報告	年 1 回
	鹿児島大学農学部農場研究報告	年 1 回
	鹿児島大学農学部農場技術調査報告書	隔 年 1 回
	鹿児島大学農学部農場年報	年 1 回
	鹿児島大学農学部演習林研究報告	年 1 回
水 産 学 部	鹿児島大学水産学部紀要	年 1 回
国際島嶼教育研究センター	南太平洋研究	年 2 回
	南太平洋海域調査研究報告	不 定 期
留 学 生 セ ン タ ー	年報	年 1 回
総合研究博物館	鹿児島大学総合研究博物館研究報告	不 定 期
	鹿児島大学総合研究博物館モノグラフ	不 定 期
学術情報基盤センター	年報	年 1 回
生涯学習教育研究センター	年報	年 1 回
教 育 セ ン タ ー	年報	年 1 回
稲 盛 ア カ デ ミ ー	鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要	年 1 回
自然科学教育 研究支援センター	動物実験施設年報	年 1 回
	遺伝子実験施設年報	年 1 回
	機器分析施設年報	年 1 回

教育・研究・
社会貢献活動

■協定

協定名	協定締結年月日
与論町地域再生計画に伴う旧与論町立診療所の施設設備等の活用に係わる施設の賃貸借料に関する協定	平成17年 2月14日
社団法人鹿児島県工業倶楽部との包括連携協力協定	平成17年10月21日
鹿児島県酒造組合との包括連携協力協定	平成18年 3月 9日
奄美市との包括連携協定	平成18年 3月13日
日本政策投資銀行との連携協定	平成18年 5月31日
鹿児島市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成19年11月30日
株式会社鹿児島銀行と国立大学法人鹿児島大学との農業経営管理システム開発事業に関する連携協定	平成20年11月28日
社団法人鹿児島青年会議所と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成20年12月26日
垂水市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成21年 1月27日
財団法人横浜企業経営支援財団との産学官連携に関する基本協定	平成21年 5月28日
国立大学法人鹿児島大学と九州森林管理局との九州の林業再生のための必要な人材育成等に関する協定	平成21年10月29日
出水市と国立大学法人鹿児島大学との包括連携に関する協定	平成21年12月21日
伊仙町、国立大学法人鹿児島大学及び社団法人鹿児島県工業倶楽部との包括連携に関する協定	平成22年 3月30日
平川動物公園及びびかごしま水族館を活かした地域活性化プロジェクト推進に係る産学官連携協定	平成22年 8月 9日
大崎ものづくり会館の施設使用に関する協定	平成23年 6月24日
薩摩川内市と国立大学法人鹿児島大学との次世代エネルギーに関する協定	平成24年 5月 7日
南さつま市と国立大学法人鹿児島大学との健康長寿のまちづくり推進事業に関する連携協定	平成24年 7月27日

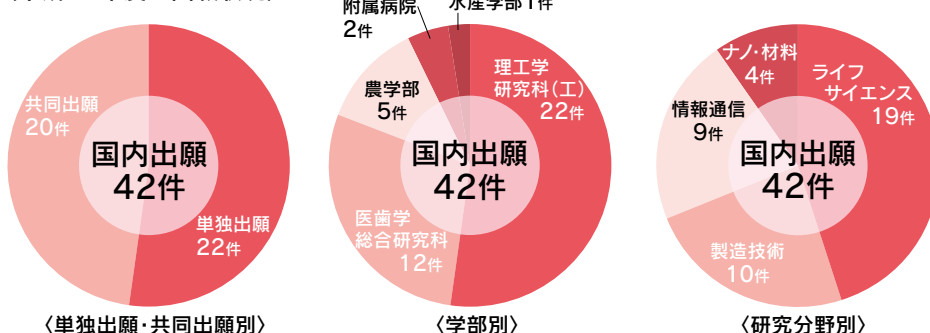
■寄附講座

部局名	講座名	設置期間	寄附者名	主な研究内容等
医歯学総合研究科	医療関節材料開発講座	平成18年6月1日～平成28年5月31日	京セラメディカル(株)	<ul style="list-style-type: none"> ●人工股関節の開発 ●人工骨頭手術におけるQOL評価 ●最小侵襲手術手技(MIS)の確立と器具の開発、間接潤滑、骨吸収、骨形成、軟骨再生
	システム血栓制御学講座	平成22年4月1日～平成27年3月31日	(株)新日本科学 財メディボリス医学研究財団 旭化成ファーマ(株) 旭化成クラレメディカル(株) エーザイ(株) バイエル薬品(株)	<ul style="list-style-type: none"> ●血栓症の発症機構とその制御法の基礎的、臨床的研究 ●血栓傾向、血栓症準備状態の診断技術・方法の開発と確立 ●陽子線治療の総合的研究 1.有効性の分子細胞生物学的基礎研究 2.陽子線治療法により有効な利用法の開発(増感と副作用軽減方策の研究など) ●伝統医学のサイエンス化
	近未来運動器医療創生学講座	平成23年6月1日～平成26年5月31日	医療法人くすのき会	<ul style="list-style-type: none"> ●腫瘍幹細胞の解明と治療への応用 ●脊髄再生医療
	分子応用外科学講座	平成23年7月1日～平成26年6月30日	中外製薬(株)	<ul style="list-style-type: none"> ●消化器癌における血中遊離癌細胞の検出 ●微小癌細胞の基礎および臨床研究
	HGF組織修復・再生医療学講座	平成25年4月1日～平成30年3月31日	エーザイ(株) 株)ミノファージェン製薬	<ul style="list-style-type: none"> ●HGFによる難治性疾患動物モデルに対する組織修復および再生促進作用に関する研究およびHGFによる難治性疾患の新規治療法の開発
医学部・歯学部 附属病院	地域医療支援システム学講座	平成23年4月1日～平成26年3月31日	鹿児島県	<ul style="list-style-type: none"> ●地域医療提供体制の分析・研究 ●地域医療機関における派遣医師の研修・就業支援体制等に係る研究 ●県内で就業する医師のキャリアパス形成支援に係る研究 ●患者紹介・受入体制構築に資する地域連携データベースの作成 ●研究成果等普及啓発を図るためのシンポジウム開催

教育・研究・社会貢献活動

■知的財産管理状況

〈平成24年度 出願状況〉



〈平成24年度末 特許保有件数〉

	登録済	出願中	合計
国内	149	198	347
外国	45	152	197

〈平成24年度 ライセンス実績件数〉

	新規件数	金額(千円)
特許	2	24,179
商標	2	1,408
ソフトウェア	0	151
ノウハウ	0	123
マテリアル	1	210
合計	5	26,071

■平成25年度公開講座等実施計画

講座名	学部等	開催期間	時間帯	時間数	講習料(円)	受講対象者	募集人員(人・組)	開催場所
ダンボールコンポスター実践講座	法文学部	5/22(水)	11:00~12:00	1	0	ダンボールコンポスターに取り組みたい方	20	法文学部1号館101号教室
小学生集まれ! ダンボールコンポスター実践講座	法文学部	7/24(水)	11:00~12:00	1	0	ダンボールコンポスターに取り組みたい小学生のお子様と保護者	15	法文学部1号館101号教室
TPPを考える	法文学部	10/5(土)、 12(土)、19(土) (全3回)	13:30~15:00	4.5	0	県民一般	10	法文学部1号館101号教室
「県内の自然・環境・文化に関する地域研究」 (人文学科公開講座)	法文学部	12月上旬 (予定)	13:30~17:00	3	0	一般社会人 (ただし高校生も受講可)	50	法文学部
教育臨床セミナー	教育学部	8/8(木)、 9(金)	9:00~16:20	12	6,400	現職教員を中心とした教育関係者	50	郡元キャンパス
授業に活かすコンピュータとインターネット	教育学部	8/19(月)、 20(火)	9:00~16:30	12	6,400	現場教員等の教育関係者	20	教育学部附属教育実践総合センター
楽しい合唱表現一発声の基礎から学ぶ	教育学部	6/6、13、20、27 (全て、木曜)	19:00~21:00	2	4,000	一般社会人	20	県民交流センター内ホール
宇宙戦艦ヤマトに見る物理と天文学	理学部	6/29(土)	14:00~16:00	2	0	一般市民・高校生以上 (希望すれば中学生以下でも可)	60	かごしま県民交流センター
スーマリハビリテーションの基本	医学部	7/6(土)	9:30~17:00	6.5	5,400	保健師、助産師、看護師、 准看護師	50	医学部保健学科教育棟・研究棟
看護研究の基礎およびデータ解析入門	医学部	7/20(土)	9:30~17:10	6	5,400	看護職	70	医学部保健学科
理学療法士・作業療法士のための やさしい生体力学	医学部	6/15(土)、 29(土)	13:30~16:30	6	3,200	理学療法士、作業療法士 など	30	医学部保健学科研究棟 2階 運動療法実習室
臨床理学療法学講座	医学部	8/31(土)	13:30~18:30	5	5,000	医療・介護職・一般市民	40	医学部保健学科2階 運動療法実習室
Active Aging -リハビリテーションからケアまで- (霧島市牧園町)	医学部	8/4(日)	9:30~16:30	6	5,200	医師、看護師、保健師、 理学・作業療法士、ヘルパー、市民一般	100	霧島リハビリテーションセンター
Active Aging -リハビリテーションからケアまで- (鹿児島市)	医学部	9/15(日)	9:30~16:30	6	5,200	医師、看護師、保健師、 理学・作業療法士、ヘルパー、市民一般	100	医学部鶴陵会館
ELNEC-Jコアカリキュラム 看護師教育プログラム	医学部	7/14(日)、 15(月・祝)	9:00~16:30	12	6,600	看護師	40	医学部鶴陵会館中ホール
筋萎縮性側索硬化症(ALS)療養者の 在宅支援	医学部	9/14(土)	I 9:30~17:00 (講義・演習)	5.5	5,200	看護師、保健師、介護支援 専門員等	40	医学部保健学科研究棟:601号教室
			II 9:30~14:30 (講義のみ)	3.5	4,800		20	
もう一度おさえておきたい口腔機能の ベーシックサイエンス	歯学部	平成25年 11月予定	13:00~16:00	3	0	歯科医師、歯科衛生士、 看護師、保健師	50	未定
第1期 ランニングの実践と科学	工学部	6/2(日)~ 9/未	9:00~11:30	30	8,000	健康で週に1回以上のランニング習慣のある方でランニングに関する座学にも興味のある方	60	工学部講義室及びグラウンドなど
ものづくり体験	工学部	8/9(金)	9:30~終了まで (5時間程度)	約5時間	0	小学生・中学生 (学年・学科は問いません)	20	理工学研究科(工学部)中央実験工場
森林環境教育ワークショップinたかくま	農学部	8月中の3日間 (2泊3日)	1日目9:30~ 3日目15:30	23	0	教員および森林環境教育に関心のある方	20	農学部附属高隈演習林
かごしまの旨い魚たち2	水産学部	5/18(土)	13:00~16:30	3.5	0	魚に興味がある小学生から大人まで	100	水産学部講義棟23号教室
動物の生命(いのち)と人との係わり	共同獣医学部	8/3(土) (オープンキャンパスに合わせて開催)	13:00~15:00 (変更の場合有り)	2	0	高校生および一般市民	100	農学部・共同獣医学部共通棟 204講義室(予定)
TAD緊急セミナー 「中国における鳥インフルエンザA(H7N9)の人感染事例拡大」理解のために	共同獣医学部	4/25(木)	16:00~17:00	1	0	一般市民、畜産農家、鹿児島大学教職員学生	50	農学部・共同獣医学部共通棟3階310講義室
「バイオ研究が切り開く先端医療への道~再生医療・がん治療へ向けて」	医歯学総合研究科	7/27(土)	14:00~17:00	3	0	高校生から大学生・一般社会人	250	稲盛会館
鹿児島の医療を支える看護を考える -シームレスケアを目指して-	附属病院	①1回目 5/18(土) ②2回目 7/20(土)	13:00~16:30	4	0	看護職	① 100 ② 100	①1回目 医学部鶴陵会館 ②2回目 医学部・歯学部附属病院第5講義室
夏休み体験学習「放射線ってどんなもの?」	自然科学教育研究支援センター	8/2(金)	9:50~15:30	4.5	0	小・中学生・保護者・教員	20	自然科学教育研究支援センター アイソトープ実験施設

鹿児島大学大学院奄美サテライト教室（奄美市・徳之島町）

平成16年度、全国にも例のない離島でのサテライト教室が奄美市（旧名瀬市）に設置された。離島地区に高度専門教育サービスを提供することを目的として、平成19年度には徳之島町に分室を展開している。平成21年度から、大学院連携に基づいて、下関市立大学の大学院生が奄美に派遣され、離島での専門家養成にあたっている。

また、科目等履修生を中心にした受講生とサテライト教室出身の正規大学院生が集まり、熱心な授業が継続的に行われている。特に、人文社会科学部研究科では、サテライト独自の講義科目「奄美プロジェクト研究」を開設し、離島の受講生のキャリアアップに役立てるような講義テーマを設定している。



▲授業風景

大学地域コンソーシアム鹿児島

「大学地域コンソーシアム鹿児島」は、鹿児島県内13の高等教育機関が相互に連携・協力し、高等教育の質的向上を推進することにより、地域の教育および学術研究の充実・発展を図るとともに、魅力ある高等教育づくりと活力ある地域づくりに貢献することを目的として、平成21年1月6日に設立された。現在、「教育連携」「高大連携」「ICT活用」「FD・SD活動」「教員免許状更新講習」「産学官連携」「地域共同リポジトリ」の7事業部会を置き、活動を行っている。

〈構成大学等〉

鹿児島大学、鹿屋体育大学、鹿児島国際大学、鹿児島純心女子大学、志学館大学、第一工業大学
 鹿児島県立短期大学、鹿児島国際大学短期大学部、鹿児島純心女子短期大学、鹿児島女子短期大学
 第一幼児教育短期大学、鹿児島工業高等専門学校、放送大学鹿児島学習センター



▲かごしまフィールドスクール



▲かごしまフィールドスクール

北米教育研究センター

アメリカ合衆国カリフォルニア州サンタクララ市にあるピクセラ社内に、海外拠点として北米教育研究センターを設置している。平成16年12月に設置されたベンチャービジネスラボラトリーシリコンバレーオフィスを平成20年9月に全学組織である北米教育研究センターへ発展させた。また、平成23年4月には、本学のブランチオフィスとしてカリフォルニア州における法人登記を行い、名実共に本学の米国ベイエリア地区における海外拠点としての体制を整えた。センターは(1)学生および教職員の教育および研修、(2)海外の大学および企業等との共同研究または共同事業の推進、(3)セミナー、フォーラム等に関すること、(4)大学間の連携による国際化推進活動等を主な業務とし、主に北米地区における教育、研究および社会貢献に係る国際活動を推進している。

センターでは、日米未来フォーラム、国際科学技術フォーラム等を企画、実施しており、平成16年度から実施してきたシリコンバレーセミナーは、平成22年度から共通教育科目「海外研修基礎コース」として継続するとともに、共通教育科目として、「国際プロフェッショナル概論」及び「国際イノベーション概論」の2科目をスタートさせ、センターと本学との間でインターネットを利用した遠隔授業も行っている。

一方、ベイエリア地区に拠点を置く日本の大学間のネットワークであるJUNBA(サンフランシスコ・ベイエリア大学間連携ネットワーク)での情報交換や共同事業などにも積極的に参加しており、本学の教育・研究活動の場が更に広がっている。



▲北米教育研究センターのあるピクセラ社



▲ハワイ学生海外研修の様子

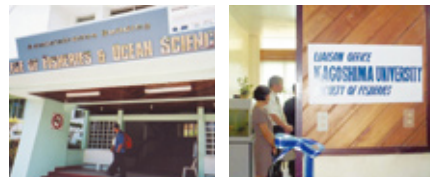
フィリピン大学ビサヤス校リエゾン・オフィス

鹿児島大学水産学部のキャンパスに、同学部と学術交流協定を締結しているフィリピン大学ビサヤス校(UPV)の日本オフィスが平成18年4月に開設された。水産学部のフィリピン・オフィスは平成18年2月にUPVのミヤガオ・キャンパスに開設されており、平成19年12月には両者の協定は大学間協定に改定された。大学間協定大学とリエゾン・オフィスを相互に開設するのは、鹿児島大学としても初めてである。研究室と実験室を併設したオフィスには、フィリピンから採用された准教授が常駐していた時期もあり、水産資源管理や水圏環境の管理・保全に関する共同研究の拠点となっている。

水産学部は、平成10年度から「フィリピンにおける水産資源と水圏環境の管理と保全に関する研究」をテーマに、UPVと拠点大学方式による研究交流を行ってきた。さらに、平成20年度から「水圏環境の保全と管理」を主なテーマとした、アジア研究教育拠点形成という国際的な事業を行っている。その結果、研究交流が各教員レベルに根付いており大学院生の交流も活発化している。



▲フィリピン大学ビサヤス校



▲ビサヤス校ミヤガオ・キャンパス

稲盛アカデミーベトナム事務所

平成19年に鹿児島大学はベトナム社会主義共和国ハノイ市のベトナム社会科学院と学術交流協定を締結し、その後、ベトナムにおける教育研究及び社会貢献に係る国際活動を推進するために、ベトナム社会科学院から施設の提供を受けて、平成21年6月に稲盛アカデミーベトナム事務所が開設された。

越日交流・研究と教育支援センターにベトナム事務所の管理を委託し、(1)ベトナム社会主義共和国における本学の学生及び職員の教育、研究、研修等、(2)ベトナム社会主義共和国内の大学との共同研究、(3)ベトナム社会主義共和国学生の日本への留学支援、(4)その他ベトナム社会主義共和国における教育、研究及び社会貢献に係る国際活動の推進を主な業務として、ベトナム教育研究交流活動等で活用している。



▲この建物の11階に事務所が入っている

鹿児島大学若手教員海外研修支援事業

次世代を担う若手教員の海外の教育研究機関等における研修を支援することにより教育研究能力等の向上を図り、本学の教育研究の国際的通用性・共通性の向上に資することを目的とする。(平成21年度より実施)

研修開始年度	部局名	研修先(国名)	研修題目
平成23年度 (研修人数7名)	教育学部	アメリカ	米国における社会科教育研究・実践についての研究ーよりよい社会科授業の開発・研究とその教員養成の解明をめざしてー
	水産学部	台湾	水生動物の感覚生理に関する研究の推進
	理工学研究科(理学系)	イギリス	次世代巨大電波干渉計SKAプロジェクト推進のための共同研究
	理工学研究科(工学系)	イギリス	力覚デバイスと神経学的手法を用いた運動時における触覚の特性についての研究
	医歯学総合研究科(医学系)	ドイツ	法医解剖・法医実務の研究に関して多面的な分野からの知識・技術の習得
	医歯学総合研究科(医学系)	アメリカ	脳損傷後の片麻痺に対するリハビリテーションに関する国際共同研究
	医学部・歯学部 附属病院	スイス	天然歯およびインプラント周囲の骨欠損における各種生体材料および治療法の効果に関する研究
平成24年度 (研修人数11名)	教育学部	フランス	在欧州日本古典籍の調査およびヨーロッパにおける古典教育の現状把握とその活用
	医学部	アメリカ	①大学院教育における小児看護教育領域の国際的通用性・共通性のある教授能力の向上 ②博士論文の継続研究「小児がんの子どもへの病名病状説明に対して親が抱く不確かさへの介入研究」に関する研究手法の獲得
	水産学部	スペイン アメリカ	生化学物質を使った動物プランクトン生産力の定量的測定法に関する研究
	理工学研究科(理学系)	イギリス	ボルネオ産植物標本の調査
	理工学研究科(工学系)	アメリカ	飽和や不感帯を有するむだ時間システムに対する最適制御
	医歯学総合研究科(医学系)	ドイツ	法医解剖・法医実務の研究に関して多面的な分野からの知識・技術の習得(※平成23年度からの継続支援)
	臨床心理学研究科	スウェーデン	①マウスを用いた神経因性疼痛モデルの行動評価(慢性疼痛の基礎研究) ②慢性疼痛への心理学的介入モデルとしてのSelf-control 理論の国際比較(慢性疼痛の臨床研究)
	医学部・歯学部 附属病院	スイス	天然歯およびインプラント周囲の骨欠損における各種生体材料および治療法の効果に関する研究(※平成23年度からの継続支援)
		イギリス	①医学教育の理論と実践に関する研究およびその歯科医学教育へ応用 ②世界医学教育連盟のグローバルスタンダードから鑑みる歯科医学教育のグローバルスタンダード
	国際連携推進センター	イギリス	国際開発研究、グローバル・スタディーズ
教育学部	アメリカ	テクノロジーリテラシー教育の調査と人的ネットワークの構築(※北米教育研究センター募集分)	
平成25年度 (研修人数5名)	教育学部	ドイツ	ドイツにおけるボールゲーム指導の現状と課題に関する研究-Ballschule実践のフィールド調査を通じて-
	医学部	アメリカ	中枢神経障害後のよりよい機能回復を促進する治療法の検討
	理工学研究科(理学系)	ドイツ・フランス	鉱物のナノスケール微細組織解析方法の習得
	理工学研究科(工学系)	オランダ	沿岸域を対象とした凝集性微細懸濁物質輸送モデルの高精度化
	医歯学総合研究科(歯学系)	アメリカ	酸化ストレス下におけるマンガンスーパーオキシドテリスマターゼ(MnSOD)の修飾

鹿児島大学学生海外研修支援事業

大学憲章に基づき、自主自律と進取の精神を併せ持ち、かつ社会の発展に貢献し、国際社会で活躍できる人材の育成を図るため、本学で実施する学生の海外研修を支援することを目的とする。(平成22年度より実施)

(平成24年度実績)

申請者	期別	授業科目名	授業担当部局	支援人数	研修期間(自)	研修期間(至)	日数	派遣国
教育センター長	前期	共生のためのフェアトレードII (海外実践編)	国際連携推進センター	7	H24.8.8	H24.8.14	7	中国・内モンゴル
教育センター長	前期	海外研修基礎コース in カナダ・アルバータ	北米教育研究センター	17	H24.8.17	H24.8.25	9	カナダ
教育センター長	前期	南米における進取の気風研修計画	国際連携推進センター	14	H24.8.25	H24.9.6	13	ブラジル・パラグアイ
教育センター長	前期	鹿児島大学砂漠緑化プログラム	法文学部	11	H24.9.13	H24.9.18	6	中国
教育センター長	前期	海外研修基礎コース in カリフォルニア	北米教育研究センター	21	H24.9.16	H24.9.24	9	米国
教育センター長	後期	国際人に求められる資質育成の実践	国際連携推進センター	13	H25.2.14	H25.2.23	10	タイ
			農学部	10	H25.3.9	H25.3.21	13	中国
教育センター長	後期	海外研修基礎コース in ハワイ	北米教育研究センター	12	H25.2.13	H25.2.19	7	米国(ハワイ)
教育センター長	後期	海外研修基礎コース in シンガポール	北米教育研究センター	13	H25.3.5	H25.3.10	6	シンガポール
教育センター長	後期	海外研修基礎コース in 香港	北米教育研究センター	3	H25.3.10	H25.3.14	5	中国(香港・深セン)
法文学部長	前期	海外短期留学1	法文学部	11	H24.9.1	H24.9.30	30	米国
法文学部長	前期	フィールド学実習(文化人類学)	法文学部	9	H24.9.5	H24.9.12	8	マレーシア
教育学部長	前期	国際理解教育調査研究I	教育学部	11	H24.8.19	H24.8.24	6	韓国
医学部長	前期	看護教育学	医学部	4	H24.9.12	H24.9.16	5	韓国
農学部長	前期	臨床獣医学特別研修	共同獣医学部	3	H24.8.16	H24.9.2	18	米国
農学研究科	前期	国際協力農業体験講座特論	農学部	7	H24.9.15	H24.9.24	10	ドイツ
水産学研究科長	後期	Advanced Lecture on Tropical Fisheries	水産学研究科	8	H24.12.3	H24.12.16	14	フィリピン
北米教育研究センター長	前期	国際プロフェッショナル養成プログラム	北米教育研究センター	7	H24.9.1	H24.9.30	30	米国
合計				181				

■日本学術振興会採択事業

事業名	課題	事業期間	実施主体部局	概要
頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム	次世代大型電波干渉計建設に向けた若手研究者の国際連携構築	平成23～25年度	理工学研究科	現在、国際協力によりSquare Kilometer Array (SKA)と呼ばれるセンチメートル波帯をカバーする次世代大型電波望遠鏡の建設準備が進められている。これにより生命の起源から宇宙の始まりまであらゆる天文学上の重要な諸問題を解決できると期待されている。 本事業ではSKA計画が進められている研究機関に若手研究者を派遣し、SKA建設に向けた(i)電波干渉計システムの開発および(ii)科学研究を進め、国際協力の促進と次世代大型観測装置を用いた国際共同研究を推進できる人材を育成することを目標とする。

■留学生交流支援制度 ショートステイ〔SS〕、ショートビジット〔SV〕プログラム

日本の大学、大学院、短期大学、高等専門学校第4年次以上(専攻科含む)、専修学校(専門課程)(以下、「大学等」という。)が実施する3か月未満の留学生受入れ、または3か月未満の学生派遣のプログラムに参加する学生を対象とした、日本学生支援機構(JASSO)が支給する奨学金。

(平成24年度実績)

プログラム名	実施期間	プログラム区分	受入		派遣	
			国または地域	人数	国または地域	人数
国際的視野を備えた水産技術者育成交流プログラム	平成24年4月26日～12月13日	SS & SV	フィリピン	4	フィリピン	8
国際協力(農業)体験講座-東南アジアファームステイ-	平成24年8月17日～9月20日	SV			タイ、ミャンマー、ベトナム	32
鹿児島大学・江陵原州大学 学生研修交流プログラム	平成24年8月19日～12月21日	SS & SV	韓国	16	韓国	11
大学連携による国際プロフェッショナル養成プログラム	平成24年9月1日～9月28日	SV			アメリカ合衆国	23
鹿児島大学・東北大学環境に関する学生研修交流プログラム	平成24年9月13日～9月18日	SV			中国	10
大学連携による海外研修 in 北アメリカ(カリフォルニア、ハワイ、アルバータ)	平成24年9月16日～平成25年2月17日	SV			アメリカ合衆国	44
鹿児島大学・雲南農業大学・学生交流プログラム	平成25年1月23日～平成25年3月20日	SS & SV	中国	10	中国	10
スタディ・カゴシマ・ショートステイ・プログラム	平成25年2月18日～3月1日	SS	中国、インド	10		
モンスーンアジアの水圏環境評価に関する研修計画	平成25年2月15日～2月22日	SV			タイ	12

■国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム

プログラム名	実施期間	実施部局	優先配置人数/年	概要
アジア・イスラム圏諸国の公衆衛生専門家養成	平成21～25年度	医歯学総合研究科	3名	本プログラムは、英語による教育プログラムであり、アジアの途上国、特にイスラム圏諸国からの主に女子留学生を対象とした、生命科学から社会医学までの広い視野と深い知識を持ち、国際的公衆衛生学・環境問題に対処できる公衆衛生専門家を育成しようとするものであり、公衆衛生の発展に資するだけでなく、女性の社会的地位向上にも貢献するものである。また、本プログラムは日本人学生も対象としており、日本人学生が外国人留学生と共に学ぶことにより、我が国の国際貢献にとって重要な人材育成にもつながると考える。

■大学間学術交流協定校(17カ国・地域、53機関)

(平成24年度実績)

国・地域	締結機関名	締結年月日	受入数	派遣数	共同研究
中国	湘潭大学	1986年12月11日	6 (6)	1 (1)	
	雲南農業大学	1989年5月11日	12 (10)	13 (10)	
	湖南農業大学	1989年6月2日	6 (4)	2	2
	中南大学	1993年6月15日	1	2	
	中国医科大学	1993年9月13日	3		3
	湖南大学	1995年8月23日			
	南京工業大学	1999年9月14日			
	東北師範大学	2001年11月13日			
	中国人民大学	2002年7月1日	2	2	
	東北大学	2004年12月3日	2 (2)	13 (12)	
	重慶大学	2006年5月22日			
	中国社会科学院日本研究所	2006年7月4日			
首都経済貿易大学	2013年3月1日			5	
韓国	釜慶大学校	1995年7月6日	3 (3)	42 (39)	
	全北大学校	1997年4月22日	4 (4)		
	群山大学校	2002年1月23日	1 (1)		
	済州大学校	1998年1月30日	7 (7)	1	
	群山看護大学校	2000年8月30日			
	江陵原州大学校	2001年2月8日	5 (5)	14 (13)	
	江原大学校	2002年4月5日	2 (2)	1 (1)	2
	公州大学校	2004年10月18日			
	木浦大学校	2012年8月7日	4	3	
祥明大学校	2013年5月13日		4		
インド	カルナタカ国立工科大学	2005年3月23日			
インドネシア	アングラサ大学	2003年12月1日	2	2	
	ボゴール農科大学	2010年6月4日	1		1
	ディボネゴロ大学	2010年6月30日	1	1	
	バンドン工科大学	2010年11月22日	3 (2)		1
マレーシア	マレーシアアレンガヌ大学	2005年4月22日			
	マレーシアサバ大学	2009年3月4日	1	6 (4)	1
	マレーシアプトラ大学	2010年3月16日	1	2 (1)	
台湾	淡江大学	2005年11月5日	1 (1)	3 (2)	
	メジヨー大学	2001年4月30日	8	18 (13)	
	カセサート大学	2008年7月1日	1 (1)	30 (20)	2
タイ	スラナリ工科大学	2009年4月17日	3	6 (5)	1
	フィリピン大学	2007年12月12日	1	42 (22)	3
	フィリピン大学	2007年12月12日	1	42 (22)	3
ベトナム	ハノイ農業大学	2002年3月6日			
	ハノイ貿易大学	2002年12月25日			
	ベトナム社会科学院	2007年5月23日		9 (7)	
南太平洋12カ国・地域	南太平洋大学	1982年7月21日			
バブアニューギニア	バブアニューギニア大学	1987年5月29日			
オーストラリア	ニューイングランド大学	1995年7月20日	2 (2)		
	シドニー工科大学	2000年3月1日	1 (1)	1	
アメリカ合衆国	ジョージア大学	1979年11月29日		4 (3)	
	マイアミ大学	1992年11月30日	1	21 (21)	
	グアム大学	2006年4月5日		1	
	アルフレッド大学	2006年11月8日			
	西ジョージア大学	2007年5月23日		46	
	サンノゼ州立大学	2012年4月23日		40 (39)	
スペイン	バレンシア工芸大学	2000年2月7日			
スウェーデン	リンシェーピング大学	2010年6月11日			
トルコ	アンカラ大学	2012年12月10日			
ブラジル	サンカルロス連邦大学	2011年8月19日		16 (14)	
合計			85 (51)	351 (227)	16

(注)受入数・派遣数欄の()は、学生交流数で内数。

■部局間学術交流協定校(18カ国・地域、44機関)

(平成24年度実績)

国・地域	締結機関名	締結年月日	受入数	派遣数	共同研究
法文学部					
ドイツ	ミュンヘン大学東アジア研究部日本センター	2003年10月29日	2 (2)	5 (3)	
韓国	釜山大学校社会科学大学	2007年3月8日	1	2 (1)	
ルーマニア	ブカレスト大学外国語学部	2008年10月1日			
中国	山東師範大学外国語学院	2009年12月24日	2 (2)	3 (2)	
	長江師範大学外国語学院	2012年3月25日	2 (2)	1	
フランス	レンヌ第2-オート・ブルターニュ大学舞台芸術学部	2010年7月1日	5 (4)	3 (3)	
教育学部					
ドイツ	ボン大学哲学部	2006年9月26日	4 (4)	1 (1)	
台湾	国立台北教育大学	2012年4月1日	2 (2)	11 (5)	
韓国	韓国外国語大学校日本語大学	2013年1月22日		4	
理学部					
インドネシア	インドネシア科学院生物学研究センター	2006年2月20日	1	10 (1)	8
医学部					
韓国	中央大学校赤十字看護大学	2012年11月15日	2	10 (4)	
歯学部					
インドネシア	国立アイルランガ大学歯学部	2012年11月19日	2	4	
工学部					
タイ	チュラロンコン大学石油及び石油化学研究科	2000年7月28日		2	
農学部					
タンザニア	ソコイネ農科大学	1999年8月30日			
タイ	国立モンクット王トンプリ工科大学生物資源工学研究科	2002年1月16日	7	16 (13)	
台湾	国立中興大学獣医学部	2009年4月1日	2 (2)		
	中国文化大学農学院	2012年10月3日		3	
エジプト	カフルアツシャイフ大学農学部	2011年9月5日	7		
中国	四川大学錦江学院醸造工学部	2011年12月16日			
水産学部					
韓国	韓国海洋研究所	2001年9月28日			
中国	大連海洋大学	2003年10月21日	2 (2)		
	上海海洋大学	2011年10月24日	2 (2)	3	
タイ	東南アジア漁業開発センター	2003年12月3日		19 (13)	
インドネシア	ハサヌアイン大学海洋科学水産学部	2007年11月17日			
	国立高雄海洋科技大学水圏学院	2008年2月29日			
	国立台湾海洋大学	2010年7月15日			
ベトナム	カントー大学水産・養殖学部	2009年5月25日		9 (7)	
エリトリア	海洋科学技術大学	2011年4月30日			
スペイン	アリカンテ大学	2012年3月28日			
フィリピン	サンカルロス大学文理学部	2012年5月30日			
理工学研究科					
インド	ジャワハルラル・ネール先端科学研究センター	2009年6月23日			
	国立バーバー原子力研究センター	2009年9月16日			
	南グジャラート大学大学院	2011年9月13日	1		
インドネシア	インドネシア大学工学部	2009年12月9日	2 (2)		
イスラエル	ベン・グリオン大学自然科学部	2010年1月5日			
台湾	成功大学工学院	2011年3月23日		1	
	マレーシア工科大学機械工学部	2011年12月26日	2 (1)		2
ベトナム	ベトロナス工科大学	2012年7月6日			
医歯学総合研究科					
インドネシア	ジェンパー大学医学部	2008年3月25日			
	セアリフヒダイトツラ州イスラム大学医学部	2008年6月25日			
	パジャジャラン大学医学部	2012年11月13日			
ベトナム	ハノイ医科大学	2008年5月9日			
タイ	プリンスオブソクラー大学医学部	2011年3月11日	1		
パキスタン	キングエドワード医科大学公衆衛生学部	2008年6月28日			
合 計			49 (25)	107 (53)	10

(注)受入数・派遣数欄の()は、学生交流数で内数。

■外国人研究者等受入状況

(平成24年度)

区 分	法文学部	教育学部	医学部	歯学部	医・歯学部 附属病院	農学部	水産学部	共同獣医 学部	理工学 (理学系)	理工学 (工学系)	医歯学総 合研究科	司法政策 研究科	学 共 施設等	合 計
外国人研究員					1	1			1	2	2		2	9
外国人教員等	5	1	2			2	2		1	3	2		3	21
国際協力機構(JICA)		18					8				10			36
日本学術振興会(JSPS)	1						2		1				1	5
科学研究費補助金									7	1			1	9
日本学生支援機構(JASSO)						10	4						12	26
外国政府・機関等支弁による研究員						5	9			2			1	17
その他の研究員						20	4	1	1	2	7		1	36
視察・来訪等	3	17	11	3		56	2	2	21	2	16	14	130	277
合 計	9	36	13	3	1	94	31	3	32	12	37	14	151	436

■教職員の海外渡航状況

【地域別】

(平成24年度)

区 分	法文学部	教育学部	医学部	医・歯学部 附属病院	農学部	水産学部	共同獣医 学部	理工学 (理学系)	理工学 (工学系)	医歯学総 合研究科	臨床心理 学研究科	学 共 施設等	事務局	合 計
アジア	34	25	8	27	42	43	8	44	51	42		33	8	365
中近東										2		2		4
大洋州	2	2		8	2	2		6	2	11		11		46
アフリカ				1		2	2	3		1		1		10
欧州	8	19	5	31	13	8	8	21	19	30	2	8	1	173
北米	7	8	6	41	4	7	2	11	32	53	2	23	8	204
中南米					2			2		1		4	2	11
合 計	51	54	19	108	63	62	20	87	104	140	4	82	19	813

【経費別】

(平成24年度)

経費の種類	法文学部	教育学部	医学部	医・歯学部 附属病院	農学部	水産学部	共同獣医 学部	理工学 (理学系)	理工学 (工学系)	医歯学総 合研究科	臨床心理 学研究科	学 共 施設等	事務局	合 計
文部科学省	1	9			2			1		1	1	3		17
その他の省庁					5			1	2	1				9
国際協力機構(JICA)					1	2			2	1				6
日本学術振興会(JSPS)		1			1	16		10	3	1		3		35
科学研究費補助金	16	13	6	12	13	3	4	37	27	34	1	22		188
鹿児島大学研究費	20	9	13	6	14	11	5	11	28	16	1	18	18	170
奨学寄附金等	1	3		77	17	9	7	12	23	56		2		207
外国の機関等	3	1		3	6	9	3	6	10	16		3		60
その他	10	18		10	4	12	1	9	9	15	1	31	1	121
合 計	51	54	19	108	63	62	20	87	104	140	4	82	19	813

■部局別国際共同研究実施件数

(平成24年度)

法文学部	教育学部	医・歯学部 附属病院	農学部	水産学部	共同獣医 学部	理工学研究科 (理学系)	理工学研究科 (工学系)	医歯学総 合研究科	学共施設等	合 計
1	3	3	9	5	2	31	18	28	25	125

■出身国(地域)別(45か国・地域 283名)(45か国・地域 288名 ※山口大学連合獣医学研究科を含む)

(平成25年5月1日現在)

地域	国(地域)	法文学部	教育学部	理学部	医歯学	工学部	農学部	水産学部	連合農学研究科	留学生センター	合計	連合獣医学研究科	
アジア地域	インド				1①	1①					2②		
	インドネシア			6①	7⑥	2		1	6①		22⑧		
	スリランカ								7③		7③		
	タイ								3①		3①		
	ネパール				5④	1					6④		
	パキスタン			2①	2①	1					5②		
	バングラデシュ				1			2②	4③		7⑤	2②	
	フィリピン								4④	1①	5⑤	1①	
	ベトナム		1			2①	4	3	1	7①	1①	19③	2①
	マレーシア	2	1	1			12			3	1①	20①	
	ミャンマー						1			3③	1①	5④	
	韓国	12	8①	1	5	5①	3	2	1①		37③		
台湾	1	2		1		1				5			
中国	26	12	1	7	27	11	8	4		96			
香港			1①								1①		
中近東地域	イラン				2②						2②		
アフリカ地域	ウガンダ								1①		1①		
	エジプト								2		2		
	エリトリア							3			3		
	ガボン									1①	1①		
	スーダン		1①								1①		
	タンザニア								1①		1①		
	ナイジェリア				1						1		
	マラウイ								1①		1①		
モーリタニア								1①		1①			
大洋州地域	オーストラリア	3	1								4		
	ソロモン諸島							1			1		
	ツバル							1			1		
	トンガ		1①						1①	1①	3③		
	フィジー								1①		1①		
マーシャル							1①			1①			
北米地域	アメリカ合衆国	1									1		
中南米地域	グアテマラ			1							1		
	コロンビア			1①							1①		
	パハマ									1①	1①		
	パラグアイ						1				1		
	ブラジル		1								1		
	ペルー					1					1		
ポリネシア								1		1			
ヨーロッパ地域	ドイツ	2	2								4		
	ハンガリー									1①	1①		
	フランス	2									2		
	ブルガリア	1①									1①		
	ラトビア	1①									1①		
英国			1①							1①			
合計		51②	30③	15⑤	34⑬	55②	19	20③	51⑳	8⑧	283⑥	5④	

(注)○印内は内数で国費留学生(日韓共同理工工学部留学生含む)を示す。

■在籍別

(平成25年5月1日現在)

在籍身分	法文学部	教育学部	理学部	医歯学	工学部	農学部	水産学部	連合農学研究科	留学生センター	合計	連合獣医学研究科	
大学院 博士(博士後期)	4			7⑤						7⑤	1①	
〃 〃	3	1	2①	6③	6①			21⑪		36⑯	2②	
〃 〃	2	2	4①	5③	2			18⑥		31⑩	1①	
〃 〃	1	2	3②	5④	1			12⑥		23⑫	1	
〃 修士(博士前期)	2	6①	3	2①	6	9	6②			33④		
〃 〃	1	8	5		6	4	8			31		
学部	6			2						2		
〃	5			2						2		
〃	4	1	1	4	4	2				12		
〃	3	2	1	2	6		1			13		
〃	2	5			15①					20①		
〃	1	2	2		7	1				12		
研究生		5②			1	2	1①			9③		
特別聴講学生	22①	16①			1	1	4			44②		
日本語研修コース生									8⑧	8⑧		
合計		51②	30③	15⑤	34⑬	55②	19	20③	51⑳	8⑧	283⑥	5④

※○印内は内数で国費留学生(日韓共同理工工学部留学生含む)を示す。

※大学院連合農学研究科51名の内訳:鹿大22⑫ 佐大14④ 琉大15⑦ (○内は国費留学生を示す。)

■経費種別

(平成25年5月1日現在)

種 別	国 費			私 費			合 計	
	大学院生	学部学生	研究生	学部学生	学部学生	研究生等		
国 費 留 学 生	47 (28)		3			2 (2)	8 (5)	60 (35)
日韓共同理工系学部留学生		1						1
外国政府派遣留学生	25 (9)	10 (4)						35 (13)
鹿児島県費留学生			2					2
私 費 留 学 生	89 (42)	50 (19)	4 (1)			42 (32)		185 (94)
計	161 (79)	61 (23)	9 (1)			44 (34)	8 (5)	283 (142)
連合獣医学研究科								
国 費 留 学 生	4 (1)							4 (1)
私 費 留 学 生	1							1
計	5 (1)							5 (1)

(注) ()は女子を内数で示す。

■学部別

(平成25年5月1日現在)

学 部	国 費		日韓共同理工系	外国政府派遣	私 費		合 計
	学部学生	研究生等	学部学生	学部学生	学部学生	研究生等	
法 文 学 部		1 (1)		2 (1)	8 (4)	18 (13)	29 (19)
教 育 学 部		3 (1)		1 (1)		16 (11)	20 (13)
理 学 部				1 (1)	3 (2)		4 (3)
医 学 部					5 (3)		5 (3)
歯 学 部					5 (1)		5 (1)
工 学 部			1	6 (1)	25 (5)	2	34 (6)
農 学 部					3 (3)	2 (1)	5 (4)
水 産 学 部					1 (1)	4 (3)	5 (4)
合 計	0 (0)	4 (2)	1 (0)	10 (4)	50 (19)	42 (28)	107 (53)

(注) ()は女子を内数で示す。

■大学院別

(平成25年5月1日現在)

研 究 科	国 費			外国政府派遣			私 費			合 計
	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	
人文社会科学研究科	1						13 (10)	5 (2)	3 (2)	22 (14)
教育学研究科							8 (5)		2 (2)	10 (7)
医歯学総合研究科		15 (12)			2			6 (4)		23 (16)
保健学研究科							1 (1)			1 (1)
理工学研究科	1 (1)	5 (1)		1	6 (1)		12 (3)	7 (3)		32 (9)
農学研究科							13 (8)		1 (1)	14 (9)
水産学研究科	2 (2)		1				12 (3)			15 (5)
連合農学研究科		23 (12)			16 (8)			12 (3)		51 (23)
合 計	4 (3)	43 (25)	1 (0)	1 (0)	24 (9)	0 (0)	59 (30)	30 (12)	6 (5)	168 (84)
連合獣医学研究科		4 (1)						1		5 (1)

(注) ()は女子を内数で示す。

■学内共同教育研究施設別

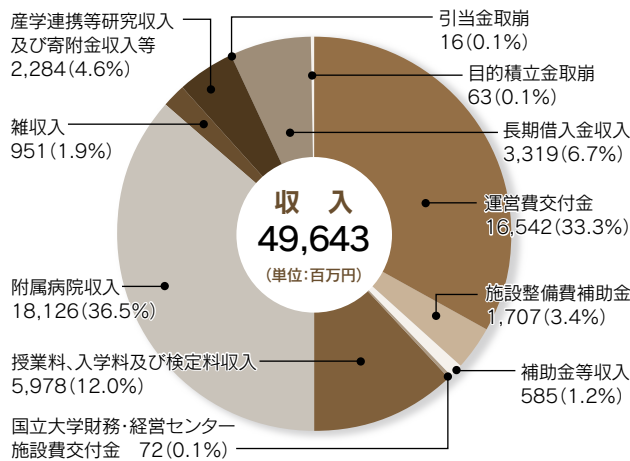
(平成25年5月1日現在)

学内共同教育研究施設	国 費			日韓共同理工系		私 費			合 計
	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	学部学生	研究生等	修士・博士前期	博士・博士後期	研究生等	
留学生センター			8 (5)						8 (5)
合 計			8 (5)						8 (5)

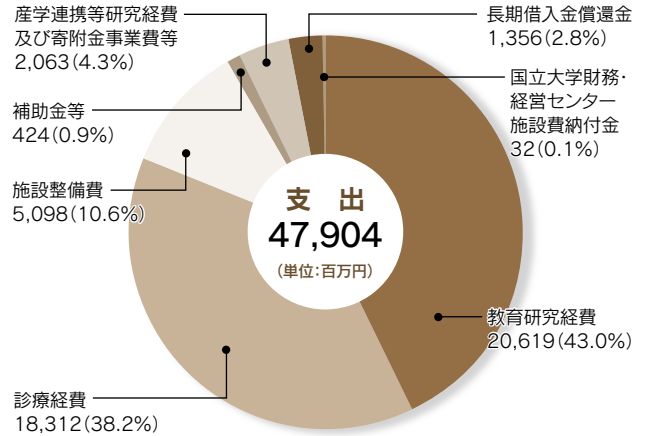
(注) ()は女子を内数で示す。

※ 山口大学連合獣医学研究科は外数。

■平成24年度収入・支出決算額

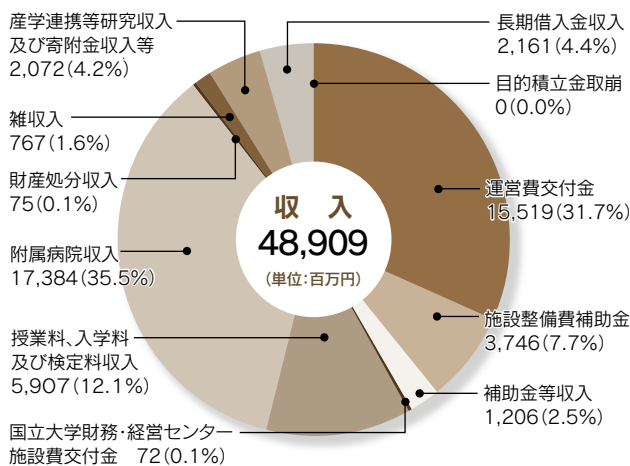


(単位:百万円)	
収入	金額
運営費交付金	16,542
施設整備費補助金	1,707
補助金等収入	585
国立大学財務・経営センター施設費交付金	72
授業料、入学料及び検定料収入	5,978
附属病院収入	18,126
雑収入	951
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	2,284
引当金取崩	16
長期借入金収入	3,319
目的積立金取崩	63
合計	49,643

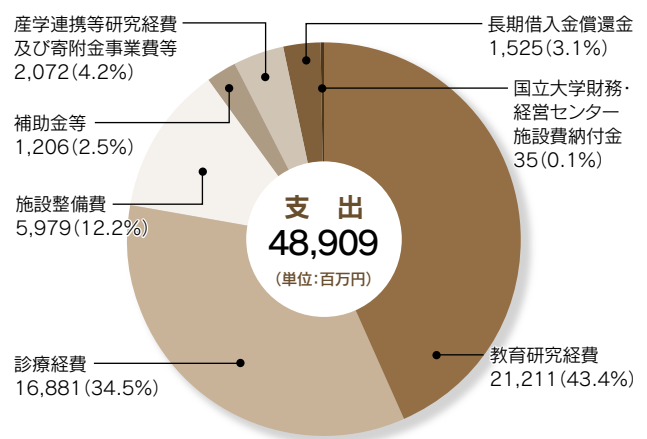


(単位:百万円)	
支出	金額
教育研究経費	20,619
診療経費	18,312
施設整備費	5,098
補助金等	424
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	2,063
長期借入金償還金	1,356
国立大学財務・経営センター施設費納付金	32
合計	47,904

■平成25年度予算



(単位:百万円)	
収入	金額
運営費交付金	15,519
施設整備費補助金	3,746
補助金等収入	1,206
国立大学財務・経営センター施設費交付金	72
授業料、入学料及び検定料収入	5,907
附属病院収入	17,384
財産処分収入	75
雑収入	767
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	2,072
長期借入金収入	2,161
目的積立金取崩	0
合計	48,909



(単位:百万円)	
支出	金額
教育研究経費	21,211
診療経費	16,881
施設整備費	5,979
補助金等	1,206
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	2,072
長期借入金償還金	1,525
国立大学財務・経営センター施設費納付金	35
合計	48,909

■科学研究費助成事業

【種目別採択状況(平成25年度)】

(単位:千円)

研究種目	件数	金額	研究種目	件数	金額
基盤研究(S)			若手研究(A)	4	9,900
基盤研究(A)	5	39,000	若手研究(B)	88	95,010
基盤研究(B)	47	175,700	研究活動スタート支援	4	4,000
基盤研究(C)	261	321,400	奨励研究	9	4,700
特定領域研究			特別研究員奨励費	8	7,300
新学術領域研究	2	7,900	研究成果公開促進費 (学術図書)	1	700
挑戦的萌芽研究	50	63,200	合計	479	728,810

(注)金額は直接経費

【学部等別採択状況】

(単位:千円)

学部等	平成25年度	
	件数	金額
学内共同教育研究施設等	21	37,700
法文学部	21	24,400
教育学部	29	28,700
大学院理工学研究科(理学系) (~21.3理学部)	30	52,600
医学部	15	17,300
医学部・歯学部附属病院	70	93,700
大学院理工学研究科(工学系) (~21.3工学部)	67	100,100
農学部	27	35,100
共同獣医学部	20	48,300
水産学部	14	17,900
大学院医歯学総合研究科	152	257,010
大学院司法政策研究科	2	6,100
大学院臨床心理学研究科 (~19.3大学院人文社会科学研究科)	6	4,800
大学院連合農学研究科	5	5,100
合計	479	728,810

■厚生労働科学研究費補助金

(単位:千円)

研究事業名	平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
創薬基盤推進研究事業	2	14,800 (4,440)	2	16,000 (4,800)	2	12,400 (3,720)
医療機器開発推進研究事業 (~H22低侵襲・非侵襲医療機器(ナノテク/ロジ)研究事業)	1	35,000 (10,500)				
第3次対がん総合戦略研究事業	1	12,928 (3,572)	1	11,924 (3,576)	1	10,154 (3,046)
難治性疾患克服研究事業	2	105,652 (24,848)	2	87,600 (24,600)	2	53,100 (15,930)
難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業	1	76,924 (23,076)	1	90,000 (10,000)	2	167,273 (13,127)
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業					1	10,000 (3,000)
がん臨床研究事業					1	15,077 (4,523)
合計	7	245,304 (66,436)	6	205,524 (42,976)	9	268,004 (43,346)

(注)下段()書きは、間接経費で外数

■奨学寄附金

(単位:千円)

学部等	平成22年度		平成23年度		平成24年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
事務局	11	14,650	15	2,172	13	169,658
学内共同教育研究施設	32	79,087	2,454	63,794	3,498	66,559
法文学部・臨床心理学研究科	15	6,077	15	11,919	14	5,108
教育学部(附属学校含む)	31	10,118	32	15,022	35	14,379
理学部						
医学部・保健学研究科	20	7,984	26	22,662	159	28,931
歯学部			1	1,283		
工学部						
理工学研究科	134	122,928	318	200,842	252	193,180
農学部	96	94,648	130	76,381	39	22,132
水産学部	32	32,465	62	73,066	39	24,241
共同獣医学部	—	—	—	—	24	13,653
大学院医歯学総合研究科	942	949,984	1,112	1,011,926	1,143	1,011,968
医学部・歯学部附属病院	138	80,459	145	235,385	161	178,396
合計	1,451	1,398,405	4,310	1,714,457	5,377	1,728,209

(注) 1. 件数、金額には、平成22年度…134件、194,121,371円 平成23年度…2,906件、381,557,909円 平成24年度…3,787件、362,499,427円の現物寄附を含む。
(平成23年度より現物寄附の件数に図書の入受冊数を含む)
2. 千円未満切捨てにより作成。
3. 理工学研究科における件数、金額には工学部を含む。

■受託研究

(単位:千円)

学部等	平成22年度		平成23年度		平成24年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
事務局	1	9,000	1	5,998		
学内共同教育研究施設等	5	4,055			2	4,271
法文学部			2	826		
教育学部	4	13,877	6	17,634	4	12,328
理学部						
医学部・保健学研究科	1	973	1	321	1	5,980
歯学部						
工学部	156	6,484	219	5,545	196	5,747
(うち、受託試験)	155	3,334	219	5,545	196	5,747
理工学研究科	31	167,944	39	240,525	39	270,183
農学部	377	79,686	376	64,178	315	11,721
(うち、動物病理組織検査)	349	5,476	350	4,530	303	4,340
水産学部	23	51,693	20	38,942	21	55,342
共同獣医学部	—	—	—	—	12	20,358
医歯学総合研究科	180	205,297	181	146,001	166	143,140
(うち、病理組織検査)	132	44,779	135	45,107	115	38,790
医学部・歯学部附属病院	148	72,551	144	95,251	174	113,069
(うち、医薬品等の臨床研究)	136	66,890	130	92,351	160	108,676
合計	926	611,562	989	615,224	930	642,144
(うち受託試験・病理組織検査・臨床研究等)	772	120,480	834	147,534	774	157,554

(注)千円未満切捨てにより作成。

■共同研究

(単位:千円)

学部等	平成22年度		平成23年度		平成24年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
事務局	1	0				
学内共同教育研究施設等	7	3,616	2	1,844	4	3,025
法文学部	1	1,921				
教育学部(附属学校含む)	1	400	1	400	1	400
理学部	11	6,993	12	50,185	12	9,489
医学部・歯学部附属病院	4	0	3	0	6	4,752
医歯学総合研究科	17	14,287	15	19,830	21	26,190
工学部	57	66,241	57	66,041	59	65,960
農学部	29	36,294	26	17,592	33	20,774
水産学部	17	20,904	18	5,645	17	20,478
共同獣医学部	—	—	—	—	9	20,200
合計	145	150,656	134	161,537	162	171,270

(注) 1. 上記額は、契約金額ベースで集計。
2. 共同研究契約については、金額の入受がない契約もあり。(必要な経費は各機関で措置する。)
3. 千円未満四捨五入により作成。

■土地・建物・船舶

(平成24年5月1日現在)

区 分	土 地(m ²)	建 物(延面積m ²)			備 考(単位:m ²)	
		木 造	非木造	計		
郡元地区	事 務 局	233,630 (22)		7,742	7,742	
	保 健 管 理 セ ン タ ー			561	561	
	附 属 図 書 館			12,703	12,703	
	法 文 学 部			6,930	6,930	
	理 学 部			13,841	13,841	
	工 学 部			40,190	40,190	
	農 学 部		169	34,016	34,185	
	共 通 教 育			19,008	19,008	
	そ の 他			10,705	10,705	
教 育 学 部	118,265	690	42,196	42,886		
小 計	351,895 (22)	859	187,892	188,751		
桜ヶ丘地区	医 学 部	218,726 (2)		21,992	21,992	看護師宿舎 (土地4,431 建物4,127)
	歯 学 部			3,115	3,115	
	医 歯 学 総 合 研 究 科			33,665	33,665	
	医 学 部・歯 学 部 附 属 病 院			70,070	70,070	
	附 属 図 書 館			1,978	1,978	
	自 然 科 学 教 育 研 究 支 援 セ ン タ ー			4,381	4,381	
	亀ヶ原総合グラウンド			52	52	
	桜ヶ丘寄宿舎			3,122	3,122	
小 計	218,726 (2)		138,375	138,375		
下荒田地区	水 産 学 部 地 区	49,514	93	13,714	13,807	宿舎 (土地3,383 建物2,028)
	国 際 交 流 会 館 (1 号 館)			1,430	1,430	
	国 際 交 流 会 館 (2 号 館)			1,259	1,259	
	国 際 交 流 会 館 (3 号 館)			1,507	1,507	
	外 国 人 研 究 者 宿 泊 施 設			686	686	
小 計	49,514	93	18,596	18,689		
および建物	唐 湊 寄 宿 舎	24,391		5,694	5,694	その他宿舎 (土地25,234 建物15,338)
	唐 湊 果 樹 園	72,682		1,207	1,207	
	唐 湊 林 園	9,958	19		19	
	寺山自然教育研究施設	300,855		885	885	
	教育学部附属特別支援学校	16,776	460	3,078	3,538	
	桜島火山観測点	298		31	31	
	霧島リハビリテーションセンター	15,426 (123)	6	4,415	4,421	
	高 隈 演 習 林	30,617,478		1,431	1,431	
	佐 多 演 習 林	2,974,908				
	入 来 牧 場	1,478,451 (25)	178	3,859	4,037	
	垂 水 実 験 地	4,623				
	桜島熔岩実験場	372,714				
	指 宿 植 物 試 験 場	40,909	313	2,047	2,360	
	東 町 ス テ ー シ ョ ン	16,902		1,183	1,183	
	鴨 池 臨 海 地	4,990 (94)		2,150	2,150	
	外 国 人 宿 泊 施 設	344		294	294	
	磯 艇 庫	408 (202)		243	243	
	海 音 寺 潮 五 郎 記 念 館	456		397	397	
	谷 山 心 頭	(776)				
	平 川 艇 庫	(595)		208	208	
	甌 島 観 測 点	(49)		24	24	
	伊 集 院 観 測 点	(7)				
	屋 久 島 観 測 点	(114)		40	40	
	串 間 観 測 点	(58)		58	58	
	紫 尾 観 測 点	(58)		58	58	
	黒 島 観 測 点	(58)		58	58	
佐 多 観 測 点	(58)		11	11		
高 岡 観 測 点	(106)		40	40		
吉 松 観 測 点	(47)					
田 代 観 測 点	(6)					
そ の 他	(283)		598	598		
小 計	35,952,569 (2,659)	976	28,009	28,985		
合 計	36,572,704 (2,683)	1,928	372,872	374,800	宿舎(土地35,983 建物22,313)	

(注) 1. 土地欄()内数量は借用地

2. 各地区土地及び建物数量には備考欄宿舎の数量は含まない。

船 名	トン数(トン)	機 関	馬 力	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	建造年月日
かごしま丸	935.00	電 気 推 進	1,800	57.42	12.10	7.00	平成24年 3 月30日
南 星 丸	175.00	デ ィ ー ゼ ル	500	34.20	7.50	3.30	平成14年11月28日

インフォメーションセンター

インフォメーションセンターは、一般市民、受験生や企業の方々との交流拠点として平成19年4月、正門に付設された。鹿児島大学の教育・研究・社会貢献活動の概要の紹介、各種イベント等の案内、研究成果物の展示を行っている。スタッフが常駐し、市民が利用できる施設の案内、学部・研究科等の概要や広報誌等の配布、入試問題の閲覧、鹿大ブランド焼酎、オリジナルグッズ、農学部附属農場生産物の販売を行うほか、大学紹介DVD等の視聴が可能。



開館時間	月～金曜日 (祝祭日等除く)	9:00～17:30
------	-------------------	------------

販売物	鹿大ブランド焼酎(「進取の気風」、「春秋謳歌」、「きばいやんせ」、「天翔宙」、「天翔宙希望の空」)、オリジナルグッズ(ブックカバー、ペンケース、キーホルダー、クリアファイル)、ねじめびわ茶(ティーバッグ、ペットボトル、サプリメント)、農学部附属農場生産物(野菜、穀類、果物等)
主な展示物	水産学部ツナ缶詰、ポストカード、鹿大ロゴ入り焼酎栓「とめもんそ」(教育学部技術科制作)



▲室内の様子



▲大学ブランド焼酎



▲農学部附属農場生産物

歴史展示室

鹿児島大学歴史展示室は、開学60周年を記念して平成21年11月に中央図書館1階に設置された。同室は、本学の源流である藩学「造士館」(1773年創立)及び医学院(1774年創立)から、現在の鹿児島大学の前身である第七高等学校造士館や鹿児島高等農林学校などを含めた237年の歴史を紹介している。第七高等学校造士館時代の寮報やのぼり、鹿児島高等農林学校時代の学生が残した卒業論文、昭和40年代に使われた計算尺など、約20点を展示している。また、情報閲覧用モニター2機を設置し、広報誌等が閲覧できる。



開館時間	月～金曜日	8:30～21:30
	土・日曜日	10:00～18:00
休館日	国民の祝日 年末年始等(12月27日～1月3日)	

総合研究博物館常設展示室（国有形登録文化財）

鹿児島大学では数多くの学術資料が蓄積されている。総合研究博物館常設展示室はその学術資料を展示公開するための施設である。

建物は昭和3(1928)年に鹿児島高等農林学校の図書館書庫として建てられたもので、当初の雰囲気を残しながら改装して開設している。初期の鉄筋コンクリート建物で、また学校施設としても最も古いものであることが評価され、国の登録文化財としての認定も受けている。

現在、展示室では鹿児島大学の歴史にかかわる考古学資料・教育研究史資料、鹿児島の自然史にかかわる化石・鉱石資料を中心に展示を行っており、観覧は学内外に関係なく自由に利用できる生涯学習施設としての役割も果たしている。

開館時間	午前10時～午後5時
観覧料	無料
休館日	毎週月曜日・日曜日・祝日・年末年始



▲常設展示室外観



▲展示室内

稲盛会館

稲盛和夫京セラ(株)名誉会長から寄贈されたもので、教育および学術の交流の場として本学の職員その他の関係者の利用に供することにより、本学の教育・研究の進展に資するとともに、学術および文化の向上に寄与することを目的としている。



キミ&ケサ メモリアルホール
(稲盛名誉会長のご両親の名前に由来)



日本を代表する著名な建築家 安藤忠雄氏の設計
(地下1階～地上3階建、建面積810.40㎡、延面積1,628.85㎡ 平成6年10月竣工)

植物園

鹿児島大学植物園は、明治42(1909)年鹿児島高等農林学校の開校に際し、初代校長玉利喜造の命により計画された。そして10年後の大正8(1919)年頃、約1ヘクタールの分類式花壇として完成した。第二次世界大戦の戦災によって壊滅的な被害を受けたが、戦後まもなく学生や教職員の手により整備が図られた。この頃から「林園」と呼称され、農学部林学科(現・森林科学コース)学生の樹木実習の場として利用されてきた。この間、初島住彦教授らにより主に南西諸島の樹木の植え込み、整備が行われ、現在の植物園の特色が形づくられた。

植物園には南九州の植物や南西諸島固有の植物、そして戦前に植栽された北アメリカなどの外国産の樹木も多数植栽されている。樹木の種類は昭和54(1979)年の調査では659種が確認されている。その後も定期的な樹木の調査や位置図の作成、映像記録の蓄積等が行われ、平成16年にはこれらの記録をまとめて「鹿児島大学植物園の樹木たち」が刊行された。植物園には、豊富な樹種を目当てに種々の渡り鳥たちが集い、地域の方々も散歩や自然観察に訪れている。キャンパス内の緑のオアシスには是非足を運んでいただきたい。



大学会館

大学会館は、学生相互ならびに学生と職員間の人間関係を緊密にし、かつ、学生の教養を高め、豊かな人間性・社会性を涵養するための課外教育活動を盛んにし、また、その厚生福祉に寄与することを目的に、昭和47(1972)年3月に設置された。

開館時間は午前9時から午後9時まで、休館日は日曜日・祝日および12月29日から翌年1月3日までとなっている。



階別	施設名	用途等
1	軽食堂	喫茶、食事 (52席)
	理髪室	理髪 (3台)
2	共用談話室	休憩、談話 (48人)
	音楽鑑賞室	音楽鑑賞 (51人)
3	会議室(1・2)	会議、研究会等(42人・20人)
	和室(1~5)	会議および邦楽、茶道・華道等の練習
4	ホール	音楽会、講演会、研究会等(300人)
	音楽練習室(1・2)	音楽等練習

課外活動施設

課外活動(サークル)は、大学教育における人間形成の上で必要不可欠であり、各キャンパス毎に課外活動施設を有している。体育系サークルが利用する体育施設、文化系サークルが主に利用する大学会館以外に、平成14年3月に設置された課外活動共用施設などがある。

課外活動共用施設は、サークル間の交流・連携の場(学生の交流プラザ)としての中庭を囲むようにして、防音設備完備の音楽練習室、シャワー室、共用ラウンジ、共用ミーティング室およびサークル室等を配置し、文化系、体育系合わせて90サークルが使用している。

施設名	所在地	備考
課外活動共用施設	郡元地区	文化系・体育系サークル
馬房(厩舎)	郡元地区	馬術
平川艇庫	平川町海岸	ヨット
磯艇庫	磯海岸	ボート
鴨池艇庫	鴨池臨海地	カッター



課外活動共用施設
(サークル棟)

体育施設(体育館等)



施設名	所在地	備考
陸上競技場	郡元地区	400mトラック、夜間照明あり
球技場	〃	夜間照明あり
亀ヶ原運動場	桜ヶ丘地区	野球場
桜ヶ丘グラウンド	〃	サッカー・ラグビー場
テニスコート	郡元地区	8面、夜間照明あり
〃	桜ヶ丘地区	7面
第1体育館	郡元地区	1,122㎡
第2体育館	〃	2,461㎡
桜ヶ丘体育館	桜ヶ丘地区	1,072㎡
武道館	郡元地区	391㎡
医・歯学部課外活動施設(武道場)	桜ヶ丘地区	451㎡
弓道場	郡元地区	39m×14m
〃	桜ヶ丘地区	38m×12m
室内プール	郡元地区	50m(7コース)

食 堂



中央食堂



郡元南食堂

施設名	延面積	席数	所在地
中央食堂	1,347㎡	492席	郡元地区
軽食堂(ガロア)	121㎡	54席	郡元地区
郡元南食堂	882㎡	222席	郡元地区
桜ヶ丘会館	417㎡	190席	桜ヶ丘地区
水産学部食堂	350㎡	120席	下荒田地区

学生寮



棟名	区分	面積(㎡)	延面積(㎡)	収容定員(人)
唐湊寄宿舍	A棟	鉄筋5階建	1,412	76
	B棟	〃	1,568	92
	C棟	鉄筋2階建	629	64
	女子寮	鉄筋4階建	1,600	81
	共用棟	鉄筋1階建	317	
桜ヶ丘寄宿舍		鉄筋5階建	2,696	99
合 計			8,222	412

国際交流会館

国際交流会館は、鹿児島大学の外国人留学生および本学において教育・研究に従事する外国人研究者に対し居住の場を提供し、国際交流の促進に資



することを目的に1号館が昭和54(1979)年4月に、2号館が平成6年10月に、3号館が平成25(2013)年4月に設置された。

(1号館)

室名	面積(㎡)	室数
単身室	12	35室
夫婦室	39	3室
家族室	59	2室
主事室	14	
事務室	16	
談話室	47	
娯楽室	94	
和室	25	
補食室	5~12	4室
浴室	5~8	4室
洗濯室	10	4室
管理人室	52	
倉庫	7	

備考:延面積/1,430㎡
建物構造/RC4

(2号館)

室名	面積(㎡)	室数
単身室	12	30室
夫婦室	40	6室
家族室	56	4室
補食室	11	4室
洗濯室	11	4室
ラウンジコーナー	49	
応接コーナー	14	

備考:延面積/1,259㎡
建物構造/R4

(3号館)

室名	面積(㎡)	室数
単身室	15.6	57室
洗濯室	31.2	5室
応接コーナー	15.6	1室

備考:延面積/1,507㎡
建物構造/RC5

外国人研究者宿泊施設

鹿児島大学を訪問する外国人研究者のための宿泊施設であり下荒田キャンパスに3棟、計22室の単身室がある。A棟は、鹿児島大学創立50周年記念事業の一環で寄付され、平成15年12月に完成した(鉄骨造地上2階、延床面積502㎡、計16室)。また、平成21年度からは共同研究終了後に譲渡された建物をB棟・C棟として新たに使用開始した(薄板軽量形鋼造地上2階、延床面積185.48㎡、計6室)。



郡元キャンパス

- 法文学部 理工学研究科
- 教育学部 司法政策研究科
- 理学部 臨床心理学研究科
- 工学部 連合農学研究科
- 農学部
- 共同獣医学部

- 1 北辰通り(大正4年第七高等学校第14回記念祭歌「北辰斜に」に由来)
- 2 銀杏並木通り
- 3 稲盛通り(稲盛和夫京セラ名誉会長の寄贈の稲盛会館に由来)
- 4 田園通り(附属農場越しに校島が望めます。)
- 5 みのりの小径
- 6 本部前・緒方通り(初代学長 緒方健三郎氏に由来)
- 7 植物園通り
- 8 ふれあい通り
- 9 教育学部通り
- 10 玉利通り(鹿児島高等農林学校初代校長 玉利喜造博士に由来)
- 11 工学部通り
- 12 理学部通り
- 13 森の小径
- 14 法文学部通り

- 1 インフォメーションセンター
- 2 事務局
- 3 保健管理センター
- 4 事務局車庫、埋蔵文化財調査センター
- 5 農・獣医共通棟(管理室・講義室・学生実験室・セミナー室)
- 6 共同獣医学部研究棟 A(獣医学科実験研究室)
- 7 // 研究棟 B(獣医学科実験研究室)
- 8 農学部研究棟 C(生物資源化学科実験研究室)
- 9 // 研究棟 D
(生物生産学科・生物資源化学科・生物環境学科実験研究室)
- 10 農学部研究棟 E(生物環境学科・附属演習林実験研究室)
- 11 共同獣医学部附属動物病院
- 12 軽種馬診療センター
- 13 焼酎・発酵学教育研究センター(北辰蔵)
- 14 農学部温室
- 15 農学部植物研究実験施設(温室)
- 16 // (硝子室)
- 17 農学部附属農場動物飼育棟
- 18 // 附属農場研究実習棟
- 19 // 低温貯蔵実験棟
- 20 // 水理実験棟
- 21 // 昆虫飼育棟
- 22 共同利用棟(獣医学科実験研究室)
- 23 遺伝子実験施設
(自然科学教育研究支援センター)
- 24 RI 実験施設(アイソトープ総合実験室)
- 25 馬術部馬房
- 26 連合農学研究科棟
- 27 総合研究博物館展示棟(常設展示室)
- 28 大学会館
- 29 売店
- 30 中央食堂
- 31 産学官連携推進センター棟 1
- 32 産学官連携推進センター棟 2(地域防災教育研究センター)
- 33 学術情報基盤センター
- 34 変電所
- 35 工学部情報工学科棟
- 36 // 中央実験工場
- 37 // 電気電子工学科棟
- 38 // 建築学科棟



- 39 工学部応用化学工学科 1 号棟
- 40 // 機械工学科第一実験棟
- 41 // 機械工学科第二実験棟
- 42 // 機械工学科第三実験棟
- 43 // 機械工学科 2 号棟
- 44 // 機械工学科 1 号棟
- 45 // 応用化学工学科 2 号棟
- 46 // 薬品庫
- 47 // 海洋波動実験棟
- 48 稲盛会館
- 49 工学系講義棟
- 50 倉庫
- 51 工学部海洋土木工学科棟
- 52 // 共通棟(生体工学科)
- 53 理工系総合研究棟
(自然科学教育研究支援センター・機器分析室)
- 54 理学部 1 号館(管理室・物理科学科・地球環境科学科・実験研究室・講義室)、理系先端研究棟
- 55 理学部 2 号館(数理情報科学科・生命化学科・地球環境科学科・実験研究室・講義室)
- 56 理学部 3 号館
(生命化学科・地球環境科学科・実験研究室・講義室)
- 57 総合研究博物館
- 58 共通教育棟 1 号館(管理室・講義室・教育センター・就職支援センター・留学生センター・生涯学習教育研究センター・ボランティア支援センター)
- 59 // 2 号館(文科研究室・講義室)
- 60 稲盛アカデミー棟
- 61 共通教育棟 3 号館(理科研究室・講義室・実験室・放送大学視聴室)
- 62 // 4 号館(理科研究室・講義室・実験室)
- 63 中央図書館
- 64 総合教育研究棟(国際島嶼教育研究センター・司法政策研究科・臨床心理学研究科)
- 65 法文学部 1 号館(管理・研究・講義棟)



- 66 法学部 2 号館 (講義棟)
- 67 // 3 号館 (講義棟)
- 68 学生サークル会館 I
- 69 屋内プール 50m
- 70 弓道場
- 71 学生サークル会館 I (武道場)
- 72 第一体育館
- 73 第二体育館
- 74 あおぞら保育園
- 75 教育学部体育科実験研究棟
- 76 // 武道場
- 77 郡元南食堂
- 78 教育学部管理棟・理系研究棟
- 79 // 実習棟
- 80 // 第一講義棟
- 81 // 生涯教育総合研究棟・第二講義棟
- 82 // 文系研究棟
- 83 附属教育実践総合センター
- 84 // 音楽美術科棟
- 85 // 附属幼稚園
- 86 // 附属小学校
- 87 // 附属小学校家畜舎
- 88 // 附属小学校昆虫飼育棟
- 89 // 附属小学校体育館
- 90 // 附属中学校
- 91 // 附属中学校体育館
- 92 学習交流プラザ
- 93 学生サークル会館 II



桜ヶ丘キャンパス

医学部
 歯学部
 医歯学総合研究科
 医学部・歯学部附属病院



- ① 医学部臨床講義棟
- ② 医歯学総合研究科棟3(臨床医学系)
- ③ // ④(新臨床医学系)
難治ウイルス病態制御研究センター
- ④ 医歯学総合研究科棟2(基礎医学系)
- ⑤ 医歯学総合研究科棟5
- ⑥ RI実験施設
- ⑦ 動物実験施設
(自然科学教育研究支援センター)
- ⑧ 福利厚生施設(桜ヶ丘会館)
- ⑨ 学生宿舎
- ⑩ 医学部・歯学部附属病院看護師宿舎
- ⑪ // 附属病院医科病棟
- ⑫ // 附属病院医科診療棟
- ⑬ // 附属病院管理棟
- ⑭ 医学部基礎講義実習棟
医歯学総合研究科共同利用研究棟
- ⑮ 中央機械棟
- ⑯ ポンプ室
- ⑰ 附属図書館桜ヶ丘分館
- ⑱ サークル棟
- ⑲ 実験廃液処理施設
- ⑳ 医学部・歯学部附属病院歯科診療棟・病棟
- ㉑ 医歯学総合研究科棟1(歯学系)

- ㉒ 歯学部講義実習棟
- ㉓ 桜ヶ丘体育館
- ㉔ 体育器具庫
- ㉕ 医学部保健学科東研究棟
- ㉖ 医学部保健学科西研究棟
- ㉗ 地域医療支援センター
- ㉘ 共通教育棟
- ㉙ MRI-CT装置棟
- ㉚ 医療情報施設
- ㉛ 鶴陵会館
- ㉜ 桜ヶ丘武道場
- ㉝ 弓道場
- ㉞ 患者用立体駐車場
- ㉟ さくらっ子保育園
- ㊱ 中央診療棟
- ㊲ 救急集中治療棟
- ㊳ レジデントハウス
- ㊴ 病棟



下荒田キャンパス

水産学部



- ① 水産学部1号館
- ② // 2号館
- ③ // 3号館(食品資源利用科学実習棟)
- ④ // 5号館
- ⑤ // 6号館
(1F:食堂・売店、2F:附属海洋資源環境教育研究センター)
- ⑥ 実験・実習支援棟
- ⑦ 水産学部4号館(講義棟)
- ⑧ 大型回流水槽実験棟
- ⑨ 変電室
- ⑩ 車庫・倉庫
- ⑪ 倉庫
- ⑫ サークル棟
- ⑬ 附属図書館水産学部分館
- ⑭ 国際交流会館(1号館)
- ⑮ // (2号館)
- ⑯ // (3号館)
- ⑰ 職員宿舎
- ⑱ 外国人研究者宿泊施設A
- ⑲ 外国人研究者宿泊施設B
- ⑳ 外国人研究者宿泊施設C

教育学部附属特別支援学校

下伊敷1丁目



- ① 校舎
- ② 体育館
- ③ 生活訓練棟
- ④ 水遊び場(プール)

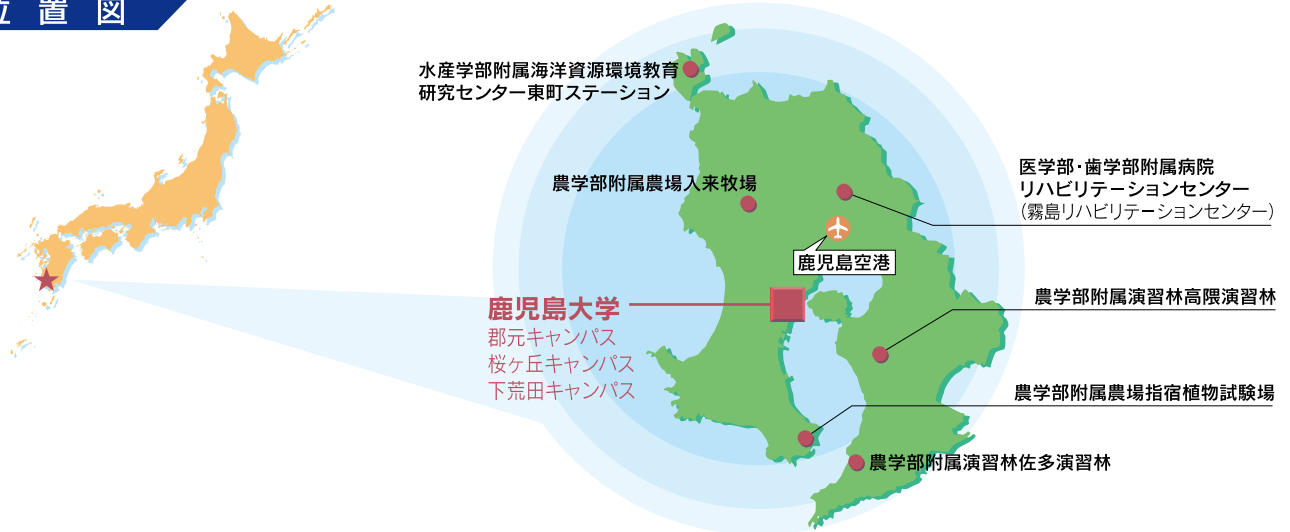
学生寮

唐湊3丁目



- ① 男子寄宿舍A棟
- ② // B棟
- ③ // C棟
- ④ 女子寄宿舍
- ⑤ 共用棟

位置図



鹿児島市へのアクセス 鹿児島空港から 鹿児島空港リムジンバスで鹿児島中央駅まで約40分

鹿児島市内交通アクセス

1 郡元キャンパス

- | | |
|--------------|---------------------|
| 事務局 | 附属図書館 |
| 法文学部 | 保健管理センター |
| 教育学部 | 産学官連携推進センター |
| 附属幼稚園 | 国際島嶼教育研究センター |
| 附属小学校 | 自然科学教育研究支援センター |
| 附属中学校 | 医用ミニブタ・先端医療開発研究センター |
| 附属教育実践総合センター | 総合研究博物館 |
| 理学部 | 稲盛アカデミー |
| 工学部 | 留学生センター |
| 農学部 | 学術情報基盤センター |
| 共同獣医学部 | 生涯学習教育研究センター |
| 理工学研究科 | 教育センター |
| 司法政策研究科 | 埋蔵文化財調査センター |
| 臨床心理学研究科 | 地域防災教育研究センター |
| 連合農学研究科 | インフォメーションセンター |
| | ボランティア支援センター |

市電

- 1系 騎射場電停下車
- 2系 唐湊電停下車 工学部前電停下車

市営バス <鹿児島中央駅経由> ※番号は系統を表す

- 鹿大正門前下車または、法文学部前下車
- 9 武岡・鴨池港線 11 鴨池・冷水線 18 大学病院線
- 20 緑ヶ丘・鴨池港線

徒歩 鹿児島中央駅から電車通り沿いに歩いて約25分

2 桜ヶ丘キャンパス

- 医学部 歯学部 大学院医歯学総合研究科
- 大学院保健学研究科 医学部・歯学部附属病院

市電

- 1系 脇田電停下車 ※シャトルバス有り

市営バス ※番号は系統を表す

- 大学病院前下車 18 大学病院線

鹿児島交通 <鹿児島中央駅経由> ※番号は系統を表す

- 大学病院前下車 17 18 19 桜ヶ丘方面

JR <指宿枕崎線>

- 宇宿駅下車 ※シャトルバス有り

3 下荒田キャンパス

- 水産学部

市電

- 1系 騎射場電停下車 徒歩約10分

市営バス ※番号は系統を表す

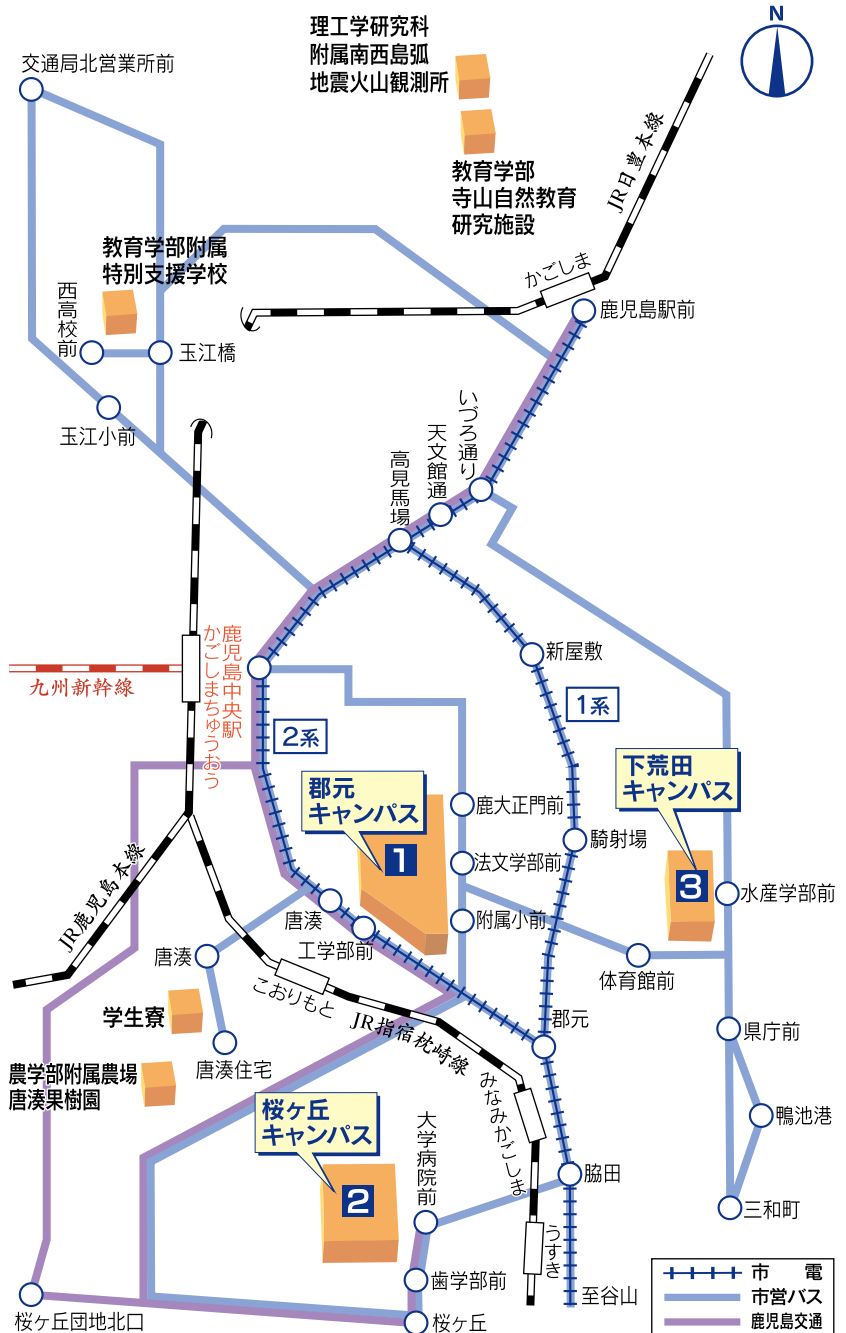
- 体育館前下車 徒歩約5分

- 11 鴨池・冷水線

- 水産学部前下車

- 27 県庁・与次郎線 12 海岸線

- 31 玉里・三和町線 32 城山・三和町線



キャンパス

●所在地一覽●

【事務局】	〒890-8580	鹿児島市都元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
【法文学部】	〒890-0065	〃 都元一丁目21番30号	☎099(285)7111(代表)
【教育学部】	〒890-0065	〃 都元一丁目20番6号	☎099(285)7111(代表)
附属幼稚園	〒890-0065	〃 都元一丁目20番15号	☎099(285)7990
附属小学校	〒890-0065	〃 都元一丁目20番15号	☎099(285)7962
附属中学校	〒890-0065	〃 都元一丁目20番35号	☎099(285)7932
附属特別支援学校	〒890-0005	〃 下伊敷一丁目10番1号	☎099(224)6257
附属教育実践総合センター	〒890-0065	〃 都元一丁目20番6号	☎099(285)7111(代表)
寺山自然教育研究施設	〒892-0871	〃 吉野町10857-1	
【理工学研究科】	〒890-0065	〃 都元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
附属南西島弧地震火山観測所	〒892-0871	〃 吉野町10861	☎099(244)7411
【理学部・理工学研究科(理学系)】	〒890-0065	〃 都元一丁目21番35号	☎099(285)7111(代表)
【工学部・理工学研究科(工学系)】	〒890-0065	〃 都元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
【農学部】	〒890-0065	〃 都元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
附属農場	〒890-0065	〃 都元一丁目21番24号	☎099(285)8771
唐湊果樹園	〒890-0081	〃 唐湊三丁目32番1号	☎099(254)1042
指宿植物試験場	〒891-0402	指宿市十町1291番地	☎0993(22)2848
入来牧場	〒895-1402	薩摩川内市入来町浦之名字大谷4018-3	☎0996(44)2204
附属演習林	〒890-0065	鹿児島市都元一丁目21番24号	☎099(285)8744
高隈演習林	〒891-2101	垂水市海潟3237番地	☎0994(32)6329
佐多演習林	〒893-2604	肝属郡南大隅町佐多大字馬籠349番地	
附属焼酎・発酵学教育研究センター	〒890-0065	鹿児島市都元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
【水産学部】	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4111(代表)
附属海洋資源環境教育研究センター	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4296
附属海洋資源環境教育研究センター東町ステーション	〒899-1403	出水郡長島町諸浦字蛤潟1620-3	☎0996(64)5013
【共同獣医学部】	〒890-0065	鹿児島市都元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
附属動物病院	〒890-0065	〃 都元一丁目21番24号	☎099(285)8750
附属越境性動物疾病制御研究センター	〒890-0065	〃 都元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
【医歯学総合研究科】	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
附属難治ウイルス病態制御研究センター	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
【医学部】	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
【歯学部】	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
【医学部・歯学部附属病院】	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5111(代表)
霧島リハビリテーションセンター	〒899-6603	霧島市牧園町高千穂3930-7	☎0995(78)2538
【司法政策研究科】	〒890-0065	鹿児島市都元一丁目21番30号	☎099(285)7111(代表)
【臨床心理学研究科】	〒890-0065	〃 都元一丁目21番30号	☎099(285)7111(代表)
【連合農学研究科】	〒890-0065	〃 都元一丁目21番24号	☎099(285)7111(代表)
【附属図書館】	〒890-0065	〃 都元一丁目21番35号	☎099(285)7415
桜ヶ丘分館	〒890-8532	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5205
水産学部分館	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(286)4051
【保健管理センター】	〒890-8580	〃 都元一丁目21番24号	☎099(285)7385
【国際島嶼教育研究センター】	〒890-8580	〃 都元一丁目21番24号	☎099(285)7394
【留学生センター】	〒890-0065	〃 都元一丁目21番30号	☎099(285)3601
【総合研究博物館】	〒890-0065	〃 都元一丁目21番30号	☎099(285)8141
【学術情報基盤センター】	〒890-0065	〃 都元一丁目21番35号	☎099(285)7474
【生涯学習教育研究センター】	〒890-0065	〃 都元一丁目21番30号	☎099(285)7294
【教育センター】	〒890-0065	〃 都元一丁目21番30号	☎099(285)8821
【稲盛アカデミー】	〒890-0065	〃 都元一丁目21番30号	☎099(285)3751
【自然科学教育研究支援センター】	〒890-8520	〃 都元一丁目21番24号	☎099(285)3240
動物実験施設	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5500
遺伝子実験施設	〒890-0065	〃 都元一丁目21番24号	☎099(285)3581
機器分析施設	〒890-0065	〃 都元一丁目21番40号	☎099(285)7188
アイソトープ実験施設	〒890-0065	〃 都元一丁目21番24号	☎099(285)3594
【医用ミニボタ・先端医療開発研究センター】	〒890-8520	〃 都元一丁目21番24号	☎099(285)3240
先端医療開発分野	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)6357
臓器置換・異種移植外科分野	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5496
遺伝子発現制御学分野	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎099(275)5493
【産学官連携推進センター】	〒890-0065	〃 都元一丁目21番40号	
産学官連携部門	〒890-0065	〃 都元一丁目21番40号	☎099(285)8491
知的財産部門	〒890-0065	〃 都元一丁目21番40号	☎099(285)3881
事業化支援部門	〒890-0065	〃 都元一丁目21番40号	☎099(285)3630
管理部門	〒890-0065	〃 都元一丁目21番40号	☎099(285)7106
【埋蔵文化財調査センター】	〒890-8580	〃 都元一丁目21番24号	☎099(285)7270
【地域防災教育研究センター】	〒890-0065	〃 都元一丁目21番40号	☎099(285)7234
【就職支援センター】	〒890-0065	〃 都元一丁目21番30号	☎099(285)7321・7341
【ボランティア支援センター】	〒890-0065	〃 都元一丁目21番30号	☎099(285)3146・3147
【稲盛学生会館】	〒890-0065	〃 都元一丁目21番40号	☎099(285)7111(代表)
【大学学生会館】	〒890-8580	〃 都元一丁目21番24号	☎099(285)7324
【学生寮】	〒890-0081	〃 唐湊三丁目3番1号	☎099(251)3238・099(254)9098
【国際交流会館(1号館・2号館・3号館)】	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎099(252)7551
【職員会館(天心荘)】	〒890-0082	〃 紫原三丁目20番19号	☎099(252)0577
【外国人研究員等宿泊施設】	〒890-0082	〃 紫原三丁目20番19号	
【外国人研究者宿泊施設】	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	
【東京リエゾンオフィス】	〒108-0023	東京都港区芝浦三丁目3番6号キャンパス・イノベーションセンター(CIC)607号室	
【北米教育研究センター】		Pixera Corporation, 2322-A Walsh Avenue, Santa Clara, CA95051, USAアメリカ合衆国カリフォルニア州サンタクララ市ピクセラ本社内	



【編集・発行】
鹿児島大学 広報センター

〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21番24号
代表電話 099(285)7111 FAX 099(285)3854
URL <http://www.kagoshima-u.ac.jp/>

【発行日】平成25年6月